

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030
前期基本計画検証結果報告書

ふじみ野市
令和4年7月

< 目 次 >

1. 本検証の目的	3
2. 将来構想と行政評価制度の関係	3
3. 検証結果の概要	4
(1) 検証方法	4
(2) 将来構想 前期基本計画検証シートの内容	4
(3) 外部評価対象施策	5
(4) 評価の視点	9
(5) 全体評価	11
I 内部評価結果	11
II 外部評価結果	12
(6) 分野毎の評価	13
分野1 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～	13
分野2 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～	15
分野3 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～	17
分野4 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～	19
分野5 地球環境・自然環境 ～豊かな水と緑が調和したまち～	21
分野6 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～	23
分野7 都市整備 ～快適で便利なまち～	25
分野8 防災・防犯 ～災害に強く犯罪のないまち～	27
分野9 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～	29
分野別計画を支える取組 ～成果重視の行政経営～	31
4. 将来構想 前期基本計画検証シート	34
【施策 1】協働	35
【施策 2】人権尊重	37
【施策 3】市民総合相談	39
【施策 4】市民窓口サービス	41
【施策 5】生きがい	43
【施策 6】文化	45
【施策 7】スポーツ	47
【施策 8】地域福祉	49
【施策 9】障がい福祉	51
【施策 10】高齢福祉	53
【施策 11】子育て支援	55
【施策 12】保育	57
【施策 13】生活支援	59
【施策 14】保健・医療体制	61

【施策15】健康づくり	63
【施策16】医療保険	65
【施策17】介護保険(生活支援)	67
【施策18】介護保険(介護給付)	69
【施策19】地域、自然環境	71
【施策20】循環型社会	73
【施策21】労働	75
【施策22】農業	77
【施策23】商工業	79
【施策24】観光	81
【施策25】道路	83
【施策26】交通安全	85
【施策27】公共交通	87
【施策28】河川	88
【施策29】都市計画	91
【施策30】公園・緑地	93
【施策31】住宅	95
【施策32】水道	97
【施策33】下水道	99
【施策34】防災	101
【施策35】防災	103
【施策36】教育環境	105
【施策37】小中学校	107
【施策38】社会教育	109
【施策39】文化財・郷土資料	111
【取組1(1)】情報発信・収集	113
【取組2(1)】経営戦略	115
【取組2(2)】経営資源(金銭的資源)	117
【取組2(3)】経営資源(人的資源)	119
【取組2(4)】経営資源(物的資源)	121

1. 本検証の目的

本市では、平成30年3月に「ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030（以下「将来構想」という。）」を策定し、平成30年度から令和5年度までの6年間を計画期間とする将来構想 前期基本計画（以下「前期基本計画」という。）に基づき、計画的でより実効性のある行政経営に取り組んでいるところです。

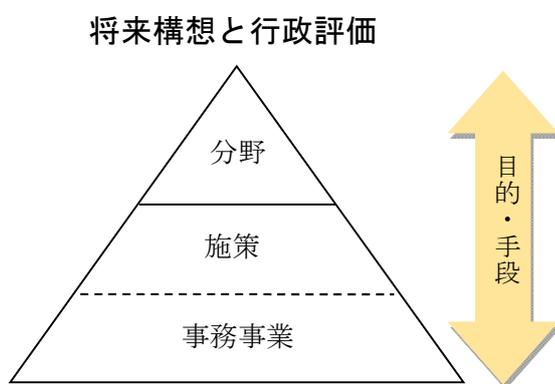
前期基本計画の計画期間が終了を迎える令和6年度以降についても、将来構想 基本構想に基づき、効率的で効果的な施策を実施していくため、令和4年度から2か年かけて、令和6年度から令和12年度までの7年間を計画期間とする将来構想 後期基本計画（以下「後期基本計画」という。）の策定をすることとしております。

後期基本計画を策定するに当たっては、前期基本計画に位置づけられた施策を行政評価に基づき検証し、その結果を踏まえ、後期基本計画に位置づける施策の見直しや継続的な施策展開を行う必要があることから、本検証を行ったものです。

2. 将来構想と行政評価制度の関係

本市の行政評価は、前期基本計画の体系に基づき「分野－施策－事務事業」と対応させて、施策評価及び事務事業評価を実施しています。

将来構想 前期基本計画では、39施策を設定し、内部評価に加え、外部評価を行っています。



- ・分野 市の将来像を実現するために市が行う各種施策の指針となるもの
- ・施策 分野で示されたまちの姿を実現するための具体的な取り組みや目標を明らかにしたもの
- ・事務事業 施策目的を達成するための具体的な手段

※行政評価外部評価委員会報告書より引用

3. 検証結果の概要

(1) 検証方法

前期基本計画の計画期間は、平成30年度から令和5年度までの6年間となっていることから、当該期間における施策の実施状況について、検証を行うことが好ましいところですが、後期基本計画の策定を令和4年度から2か年かけて行うことから、平成30年度から令和3年度までの4年間分の検証を行いました。

なお、外部評価委員会における全施策に対する評価につきましては、令和5年度に実施することから、平成30年度から令和2年度までの外部評価結果を参考にしています。

評価の方法は、将来構想の将来像の実現に向けた9つの分野に紐づく39の施策及び分野別計画を支える取組に紐づく5つの取組ごとの施策評価シートに基づき、検証を行い、指標の達成状況や施策の効果等について評価を確認し、後期基本計画の策定に向けた課題や論点について整理を行いました。

(2) 将来構想 前期基本計画検証シートの内容

評価項目	内容
1 施策指標と達成状況	前期基本計画策定時に設定した指標とその目標値に対する実績と見込み。 ①【実績値】 平成30年度から令和3年度までは、実績値、令和4年度から令和5年度は、目標値に対する見込み値。 ②【指標における課題・後期基本計画策定における論点】 指標の達成見込みの状況や後期基本計画に向けた継続性など、指標に対する課題を記載したもの。
2 評価	施策評価シート 「5. 評価」における指標の達成状況や今後の方向性等の評価。※評価の詳細は、(3) 参照 I 内部評価結果 前期基本計画に位置づけられている39の施策と分野別計画を支える取組に紐づく5つの取組について、すべての施策において、内部評価を実施。 II 外部評価結果 前期基本計画の前期重点プロジェクトに位置づけた23の施策のみ外部評価を実施。 <u>(2年に1回、該当施策の外部評価を実施。そのため、平成30年度及び令和2年度は、同施策を評価している。)</u> ※平成30年度・令和2年度11施策、令和元年度12施策
3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋	直近(令和2年度または令和3年度)に実施した外部評価委員会からの定性的な評価意見を抜粋したもの。 ※前期基本計画の前期重点プロジェクトのみ該当
4 令和3年度の内部評価	施策評価シート 「5. 評価」における定性的な評価結果を抜粋したもの。
5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理	施策の総合検証を踏まえ、施策全般の課題や今後の方向性(継続性など)、また、その判断理由等について記載したもの。

(3) 外部評価対象施策

外部評価の対象施策は、ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画のうち、前期重点プロジェクトに該当する施策を1年おきに評価します。

【ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 の体系】

分野	施策	評価年度				施策所管部
		R1	R2	R3	R4	
1 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～	1 協働 -市民が主役の地域の輪づくりを推進します-	○		○		市民活動推進部
	2 人権尊重 -人権意識の向上を目指します-					市民生活部
	3 市民総合相談 -市民総合相談の充実・消費者の被害防止と救済を支援します-					市民生活部
	4 市民窓口サービス -利便性・満足度の高い窓口サービスを提供します-					市民生活部
2 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～	5 生きがい -市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します-		○		○	市民活動推進部
	6 文化 -魅力の発信と人々の交流を通し、未来につながる文化を創造するまちを目指します-	○		○		市民活動推進部
	7 スポーツ -スポーツを通して市民が元気にいきいきと暮らすことのできるまちを目指します-		○		○	市民活動推進部
3 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～	8 地域福祉 -地域で助け合って暮らせるまちを目指します-					福祉部
	9 障がい福祉 -誰もが安心して地域で暮らせる共生社会を目指します-					福祉部
	10 高齢福祉 -高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めます-					福祉部

分野	施策	評価年度				施策所管部
		R1	R2	R3	R4	
3 子育て・福祉 ～みんなで支え合 う思いやりのある まち～	11 子育て支援 -子育てする 喜びであふれる笑顔を増や します-	○		○		こども・元氣 健康部
	12 保育 -子育ても仕事もガ ンバる保護者を応援します-		○		○	こども・元氣 健康部
	13 生活支援 -生活安定の推 進を目指します-					福祉部
4 健康・保険 ～ 元氣・健康の好循 環が生まれるまち ～	14 保健・医療体制 -生涯に わたる保健活動の充実と地域 医療体制の充実を目指します-	○		○		こども・元氣 健康部
	15 健康づくり -生涯を通じ た健康づくりを支援します-		○		○	こども・元氣 健康部
	16 医療保険 -国民健康保 険・後期高齢者医療制度の安 定運営に努めます-	○		○		市民生活部
	17 介護保険（生活支援）-住 み慣れた地域で支え合いなが ら暮らせるまちを目指します-		○		○	福祉部
	18 介護保険（介護給付）-安 心して介護が受けられるまち を目指します-					福祉部
	19 地域、自然環境 -快適な 生活環境の保全を目指します-					市民活動推進 部
5 地球環境・自然 環境 ～豊かな水 と緑が調和したま ち～	20 循環型社会 -資源循環型 社会の構築を一層進めます-					市民活動推進 部
	21 労働 -雇用の場を創出 し、働きやすい環境を構築し ます-					市民活動推進 部

分野	施策	評価年度				施策所管部
		R1	R2	R3	R4	
6 産業・経済 ～ にぎわいと活力に あふれるまち～	22 農業 -魅力ある農業の推進を図り、地産地消の拡大を進めます-	○		○		市民活動推進部
	23 商工業 -新たな産業の育成と商工業の活性化を進めます-		○		○	市民活動推進部
	24 観光 -誰でもいつでも観光を楽しめる環境づくりを進めます-		○		○	市民活動推進部
7 都市整備 ～快 適で便利なまち～	25 道路 -安全に機能する道路交通体系の充実に努めます-		○		○	都市政策部
	26 交通安全 -交通事故のない、安全なまちを目指します-					都市政策部
	27 公共交通 -安全で快適な公共交通ネットワークづくりを進めます-					都市政策部
	28 河川 -安全で快適な水辺環境を保全します-					都市政策部
	29 都市計画 -快適で便利なまちづくりを進めます-		○		○	都市政策部
	30 公園・緑地 -公園を増やし、緑地の保全に努めます-	○		○		都市政策部
	31 住宅 -市民や事業者の協力により、良好な住環境を整備します-	○		○		都市政策部
	32 水道 -安全な水道水を安定供給します-	○		○		都市政策部
	33 下水道 -浸水被害を防止し、環境整備のための生活排水処理を進めます-		○		○	都市政策部

分野	施策	評価年度				施策所管部
		R1	R2	R3	R4	
8 防災・防犯 ～災害に強く犯罪のないまち～	34 防災 -危機管理体制の整備と災害に強いまちづくりを進めます-		○		○	総務部
	35 防犯 -防犯体制を強化し、犯罪のないまちづくりを目指します-					総務部
9 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～	36 教育環境 -絆を深め、地域社会との協働による「共育」を推進します-	○		○		教育部
	37 小中学校 -確かな学力と自立する力を育成します-		○		○	教育部
	38 社会教育 -温もりある人と地域を育む学びを推進します-	○		○		教育部
	39 文化財・郷土資料 -歴史文化の継承と文化財の活用を進めます-					教育部
分野別計画を支える取組 ～成果重視の行政経営～	情報発信と的確な市民ニーズの把握 (1)情報発信・収集					総合政策部
	スリムで効率的な行政経営 (1)経営戦略					総合政策部
	スリムで効率的な行政経営 (2)経営資源（金銭的資源）					総合政策部
	スリムで効率的な行政経営 (3)経営資源（人的資源）					総務部
	スリムで効率的な行政経営 (4)経営資源（物的資源）					総務部

(4) 評価の視点

評価の視点については、以下の4項目とし、それぞれの視点に基づき、下記にある評価を決定しています。

<評価の視点>

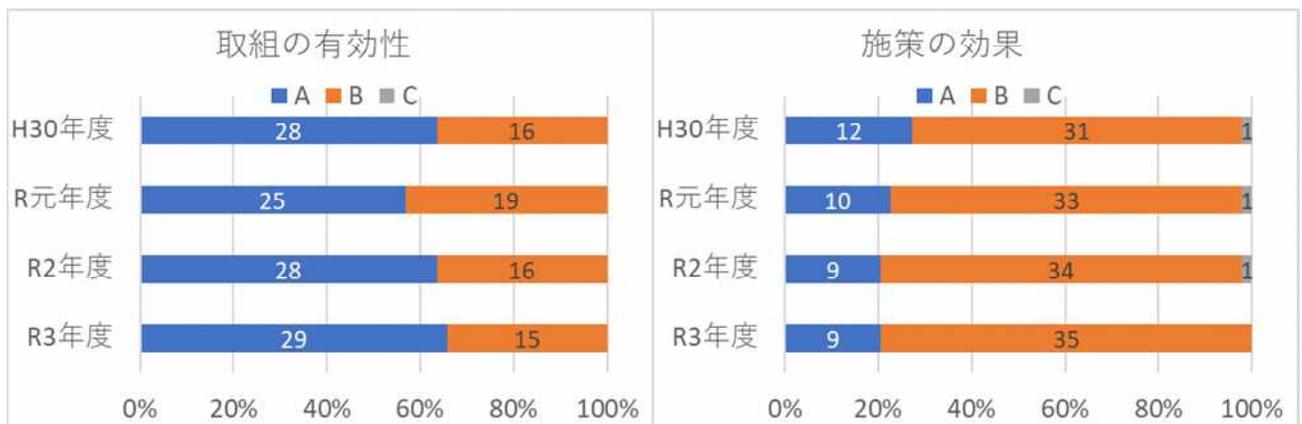
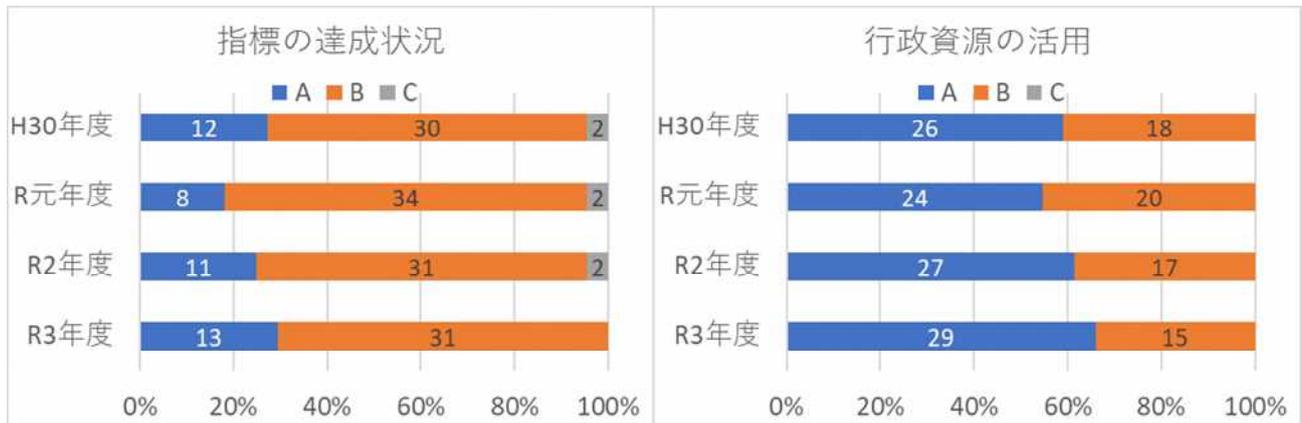
指標の達成状況	A	順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。
	B	おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。
	C	順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。
行政資源の活用	A	適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。
	B	おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。
	C	適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。
取組の有効性	A	有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。
	B	おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。
	C	有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。
施策の効果	A	大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。
	B	効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。
	C	効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。

(5) 全体評価

I 内部評価結果

平成30年度から令和3年度までの4年間における施策評価シートの評価における達成状況等の「評価結果」は、一覧のとおりです。

内部評価結果 (44施策)	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	12	27.3%	8	18.2%	11	25.0%	13	29.5%
	B	30	68.2%	34	77.3%	31	70.5%	31	70.5%
	C	2	4.5%	2	4.5%	2	4.5%	0	0.0%
行政資源の活用	A	26	59.1%	24	54.5%	27	61.4%	29	65.9%
	B	18	40.9%	20	45.5%	17	38.6%	15	34.1%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	28	63.6%	25	56.8%	28	63.6%	29	65.9%
	B	16	36.4%	19	43.2%	16	36.4%	15	34.1%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	12	27.3%	10	22.7%	9	20.5%	9	20.5%
	B	31	70.5%	33	75.0%	34	77.3%	35	79.5%
	C	1	2.3%	1	2.3%	1	2.3%	0	0.0%



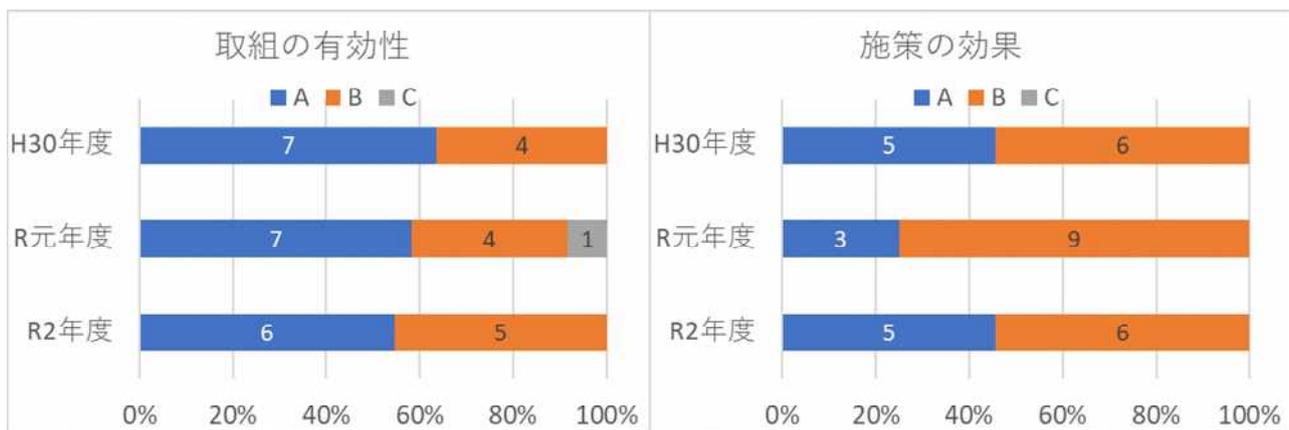
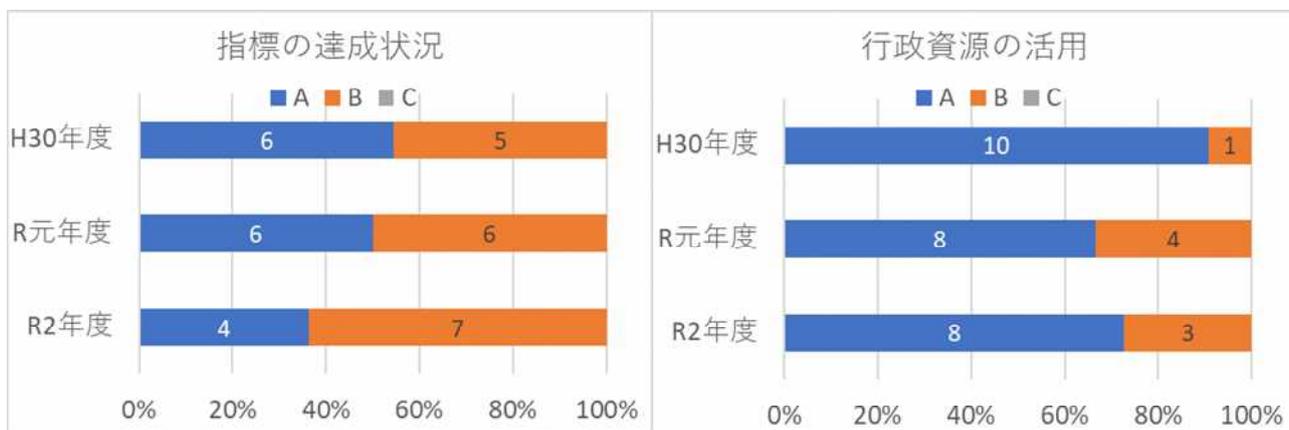
<内部評価の全体概要>

- すべての評価項目において、令和2年度評価より、A評価の施策が増加した。
- 「指標の達成状況」においては、「循環型社会」や「保健・医療体制」の評価でC評価が改善され、また、「介護保険（生活支援）」などにおいては、A評価となった。
- 「行政資源の活用」においては、「文化」や「介護保険（介護給付）」などにおいて、A評価となった。
- 「取組の有効性」においては、「防災」において、A評価となった。
- 「施策の効果」においては、「経営資源（物的資源）」において、B評価に改善されたことにより、すべての施策において、B評価以上が得られた。

II 外部評価結果

平成30年度から令和2年度までの3年間における施策評価シートの評価における達成状況等の「評価結果」は、一覧のとおりです。なお、外部評価は、前期重点プロジェクトに位置づけられている施策のみを対象とし、2年に1回外部評価を行っています。

外部評価結果 (23施策)	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	6	54.5%	6	50.0%	4	36.4%	R4年度実施予定 (12施策)	
	B	5	45.5%	6	50.0%	7	63.6%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	10	90.9%	8	66.7%	8	72.7%		
	B	1	9.1%	4	33.3%	3	27.3%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	7	63.6%	7	58.3%	6	54.5%		
	B	4	36.4%	4	33.3%	5	45.5%		
	C	0	0.0%	1	8.3%	0	0.0%		
施策の効果	A	5	45.5%	3	25.0%	5	45.5%		
	B	6	54.5%	9	75.0%	6	54.5%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		



<外部評価の全体概要>

- 平成30年度と令和2年度は、同施策を評価しているが、各評価項目において、A評価の割合が減少した。
- 「指標の達成状況」においては、令和2年度が新型コロナウイルスの影響もあり、A評価の割合が減少した。
- 「取組の有効性」においては、「教育環境」や「社会教育」でB評価となり、「公園・緑地」でA評価となった。また、「生きがい」において、C評価となっている。
- 「施策の効果」においては、「公園・緑地」や「教育環境」でB評価となり、「医療保険」でA評価となった。

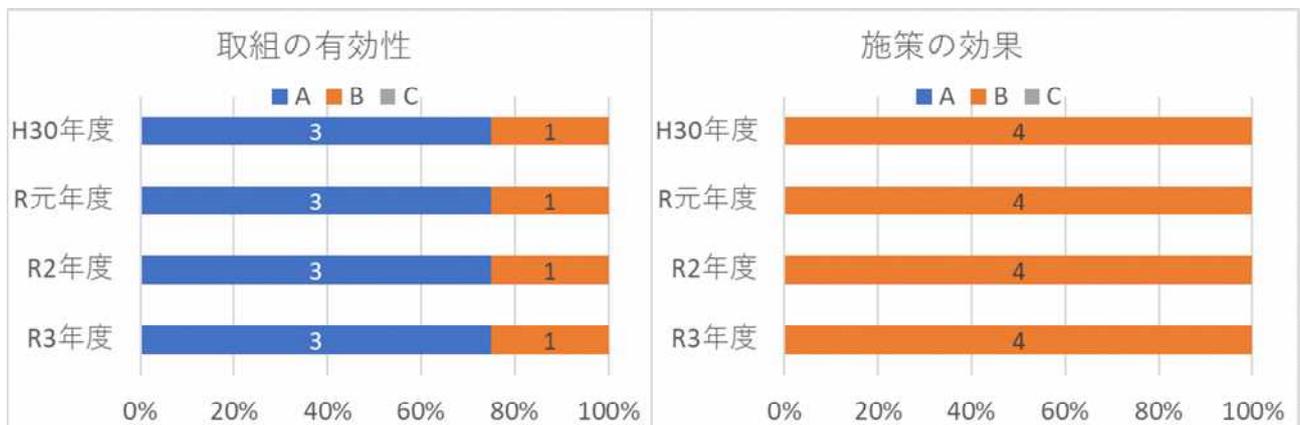
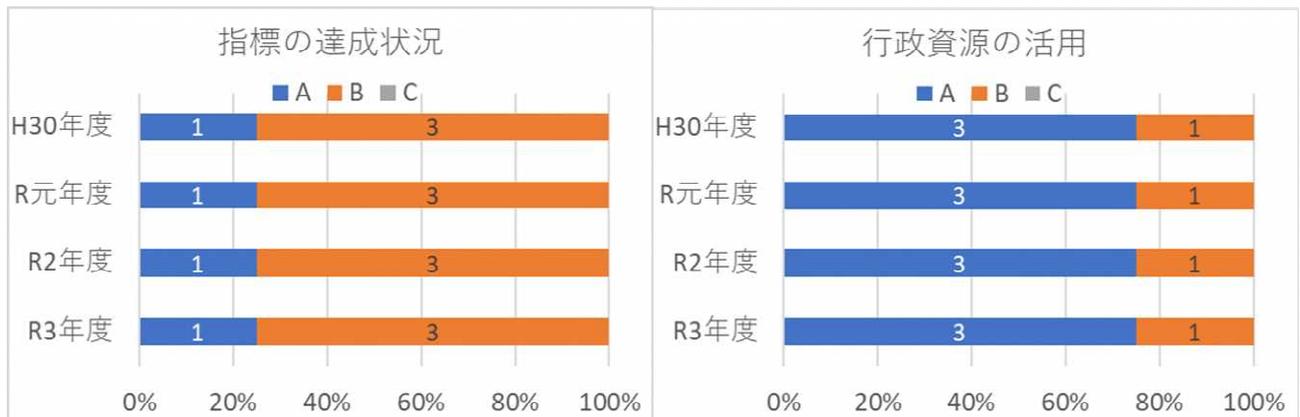
(6) 分野毎の評価

分野1 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策1 協働、施策2 人権尊重、施策3 市民総合相談、施策4 市民窓口サービス
------	---

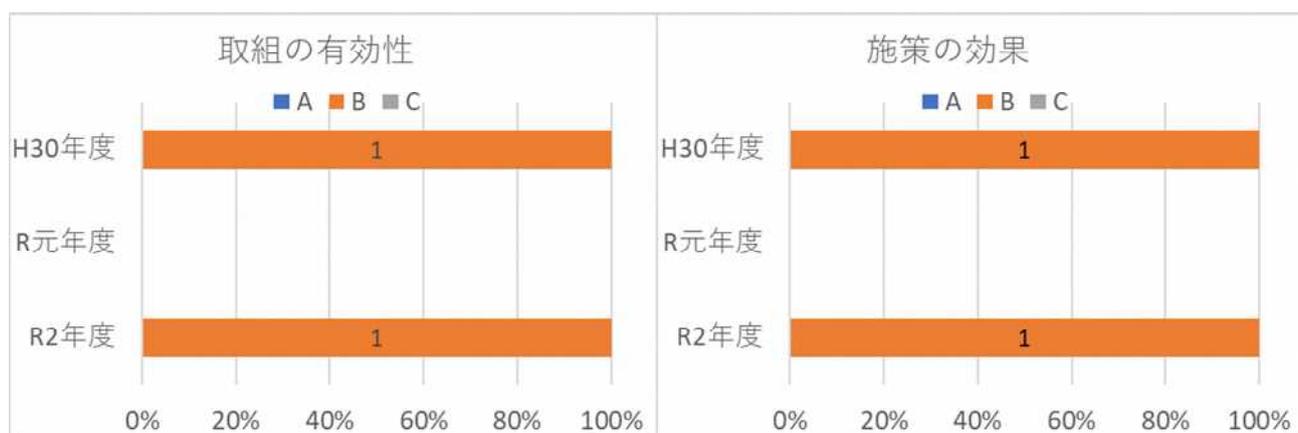
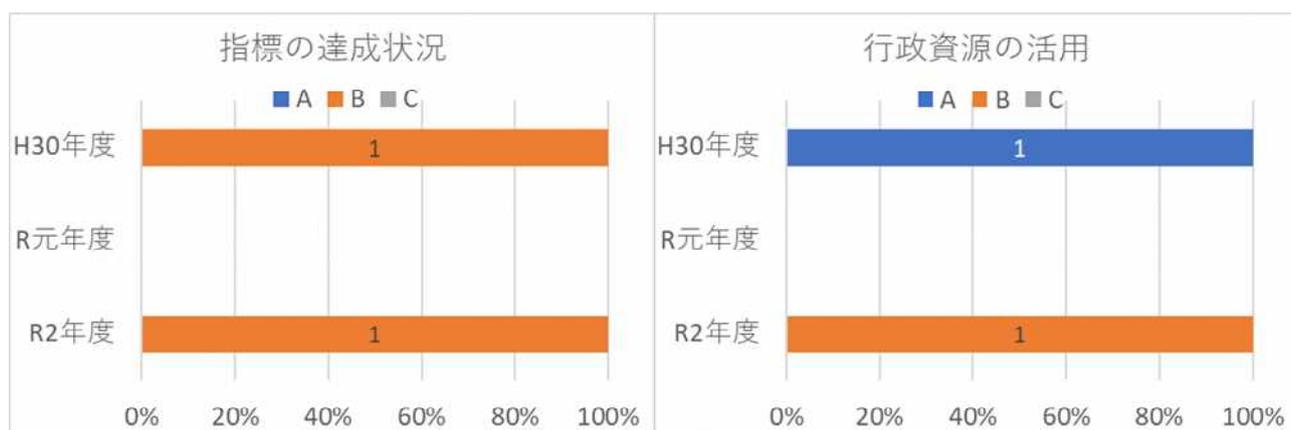
分野1	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	B	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	B	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	B	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策1 協働	—

分野1	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	O	0	0.0%	実施なし		0	0.0%	実施なし	
	B	1	100.0%			1	100.0%		
	C	0	0.0%			0	0.0%		
行政資源の活用	A	1	100.0%			0	0.0%		
	B	0	0.0%			1	100.0%		
	C	0	0.0%			0	0.0%		
取組の有効性	A	0	0.0%			0	0.0%		
	B	1	100.0%			1	100.0%		
	C	0	0.0%			0	0.0%		
施策の効果	A	0	0.0%			0	0.0%		
	B	1	100.0%			1	100.0%		
	C	0	0.0%			0	0.0%		

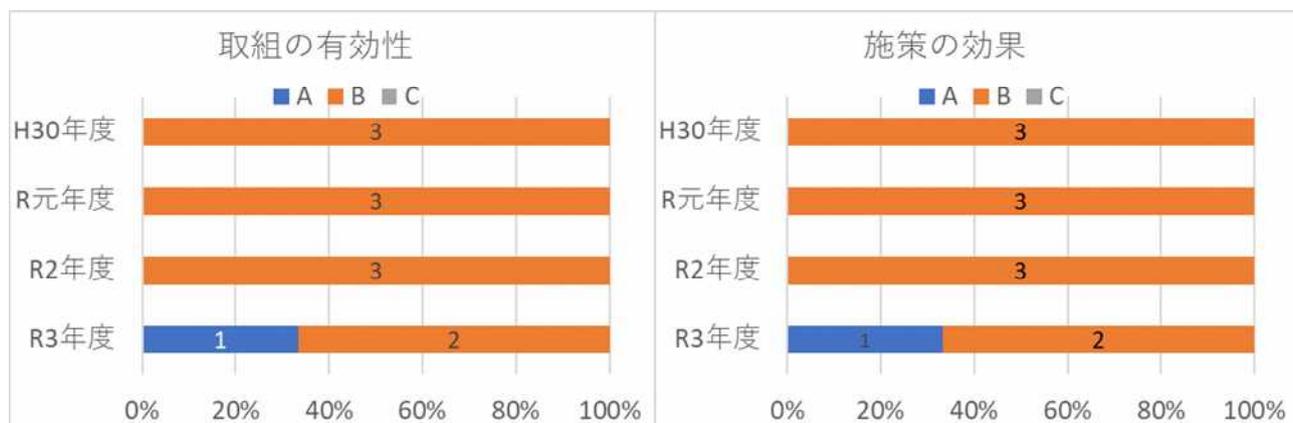


分野2 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策5 生きがい、施策6 文化、施策7 スポーツ
------	--------------------------

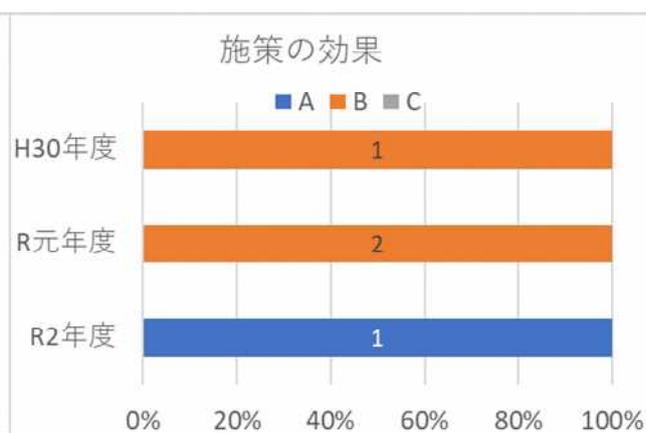
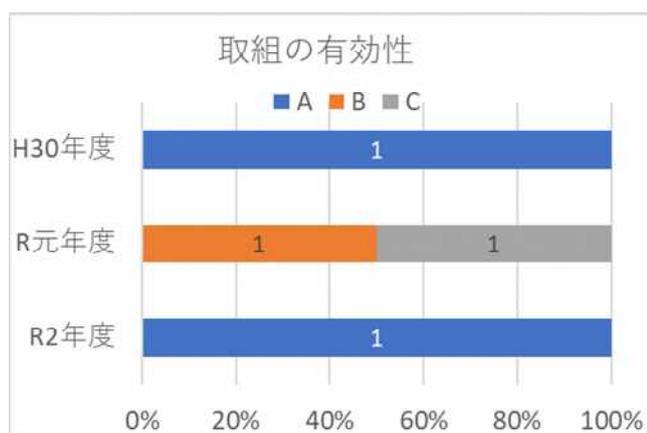
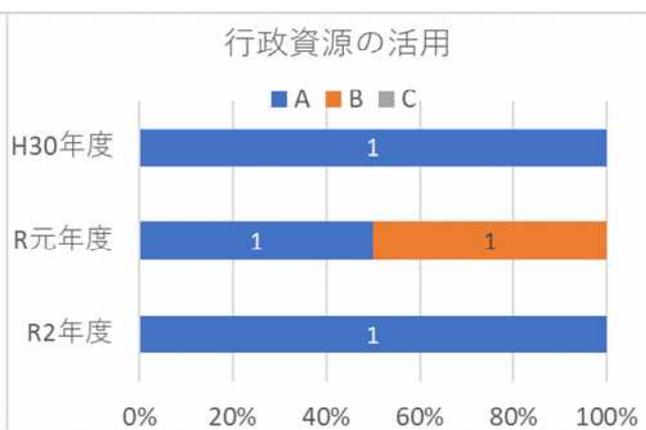
分野2	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	66.7%
	B	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%	1	33.3%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
	B	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%	2	66.7%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%
	B	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%	2	66.7%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策6文化	施策5生きがい、施策7スポーツ

分野2	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	R4年度実施予定 (施策5生きがい、施策7スポーツ)	
	B	0	0.0%	2	100.0%	1	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	1	100.0%	1	50.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%		
	B	1	100.0%	2	100.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

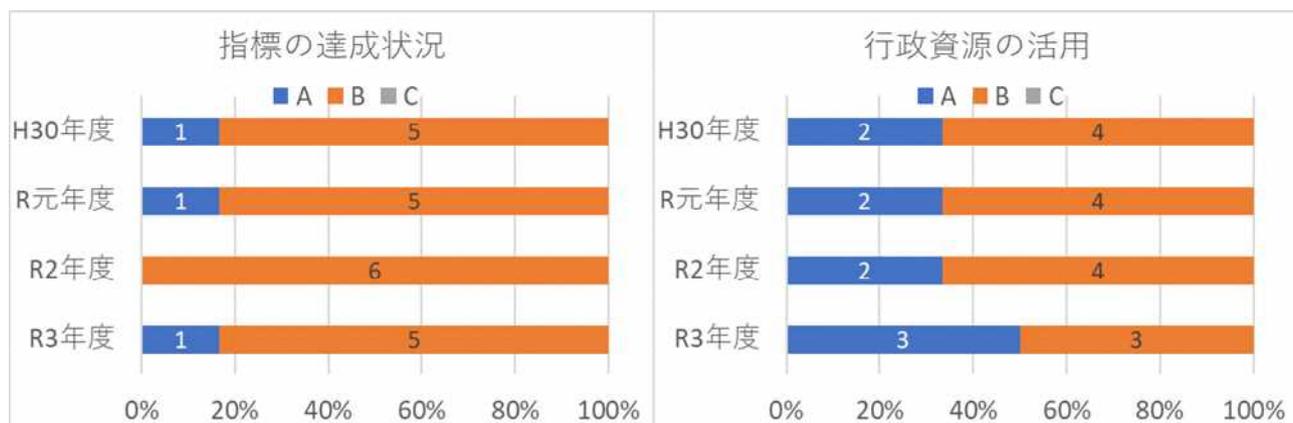


分野3 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策8 地域福祉、施策9 障がい福祉、施策10 高齢福祉、施策11 子育て支援、施策12 保育、施策13 生活支援
------	---

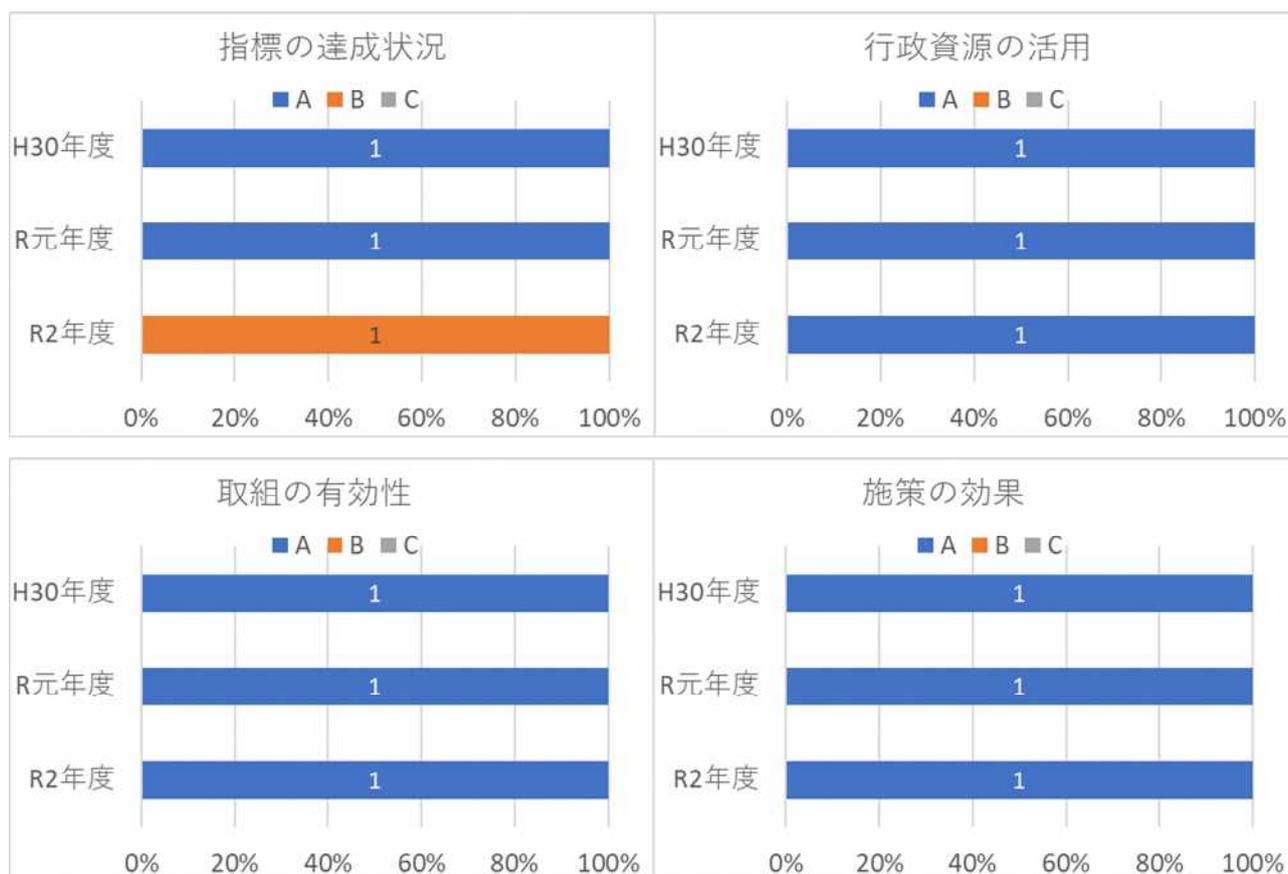
分野3	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	1	16.7%
	B	5	83.3%	5	83.3%	6	100.0%	5	83.3%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	3	50.0%
	B	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%	3	50.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%
	B	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%
	B	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策11子育て支援	施策12保育

分野3	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	R4年度実施予定 (施策12保育)	
	B	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

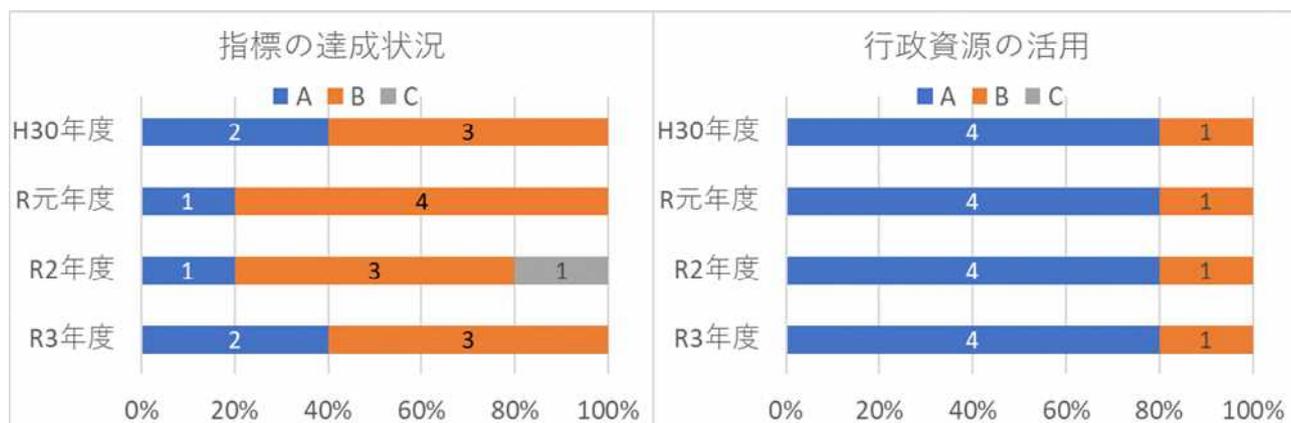


分野4 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策14 保健・医療体制、施策15 健康づくり、施策16 医療保険、施策17 介護保険（生活支援）、18 介護保険（介護給付）
------	---

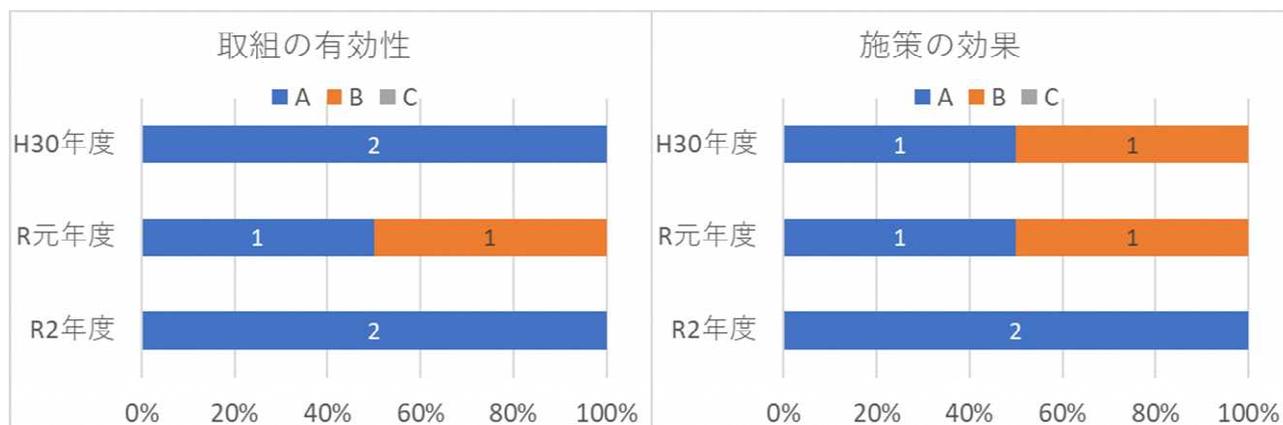
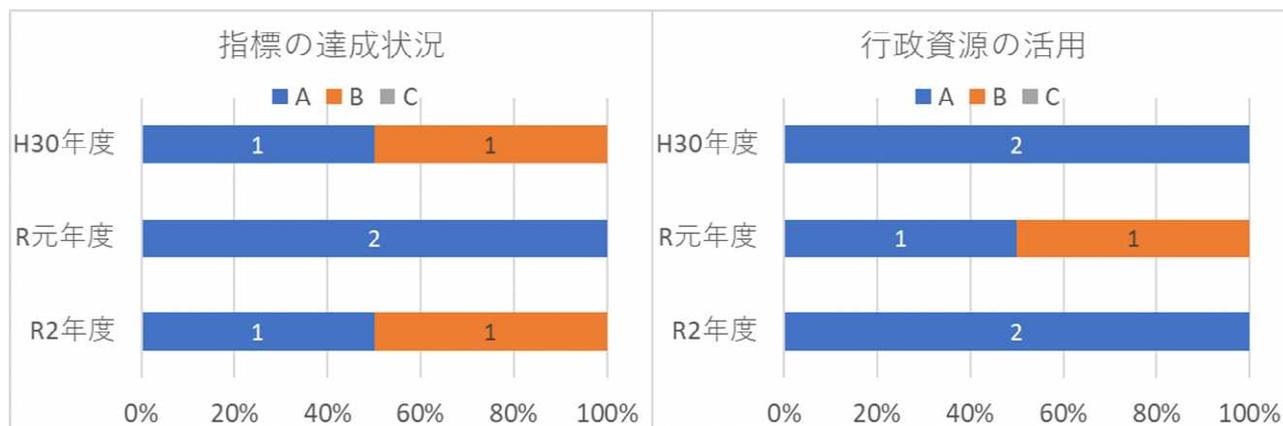
分野4	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%
	B	3	60.0%	4	80.0%	3	60.0%	3	60.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%
	B	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	2	40.0%	2	40.0%	1	20.0%	2	40.0%
	B	3	60.0%	3	60.0%	4	80.0%	3	60.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策14保健・医療体制、 施策16医療保険	施策15健康づくり、 施策17介護保険（生活支援）

分野4	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	50.0%	2	100.0%	1	50.0%	R4年度実施予定 (施策4健康づくり、 施策17介護保険（生活 支援）)	
	B	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	2	100.0%	1	50.0%	2	100.0%		
	B	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	2	100.0%	1	50.0%	2	100.0%		
	B	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	1	50.0%	1	50.0%	2	100.0%		
	B	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		



分野5 地球環境・自然環境 ～豊かな水と緑が調和したまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策19 地域、自然環境、施策20 循環型社会
------	-------------------------

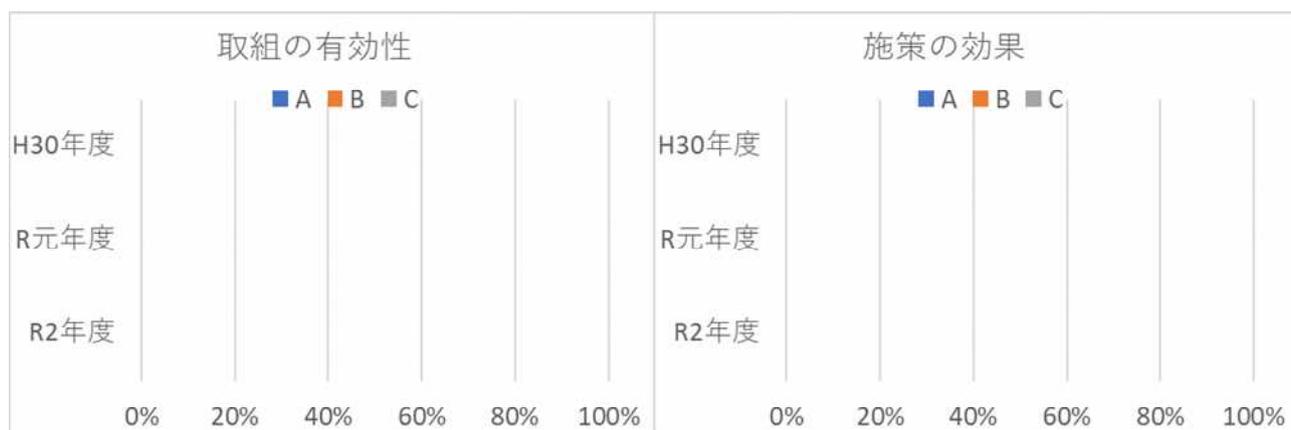
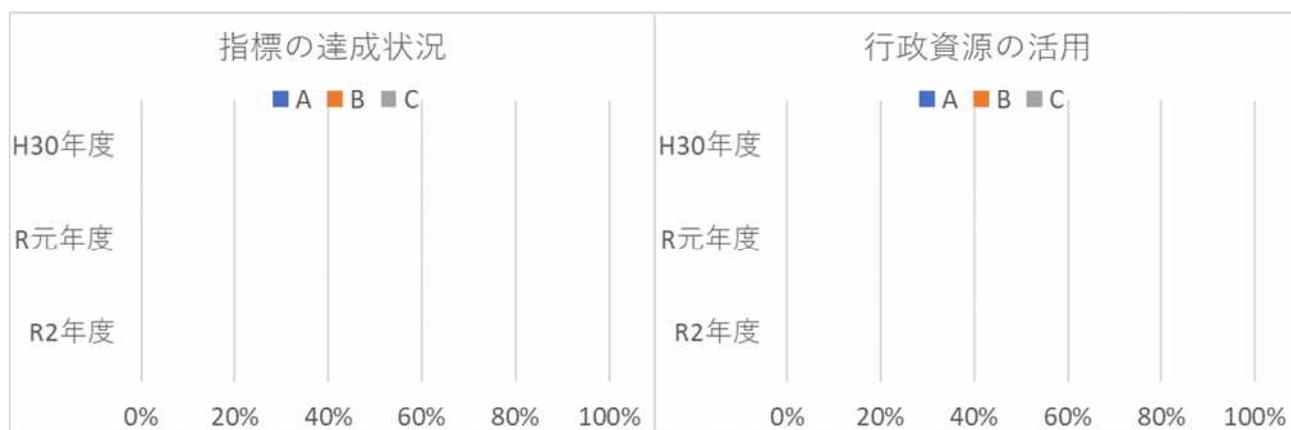
分野5	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	2	100.0%	2	100.0%	1	50.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	—	—

分野5	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	前期重点プロジェクト対象外							
	B								
	C								
行政資源の活用	A								
	B								
	C								
取組の有効性	A								
	B								
	C								
施策の効果	A								
	B								
	C								

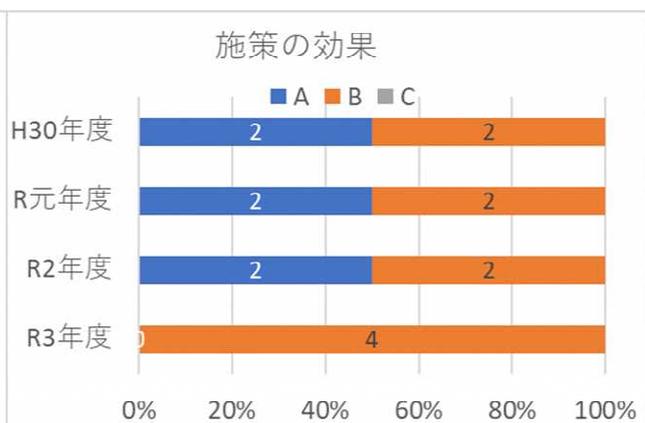
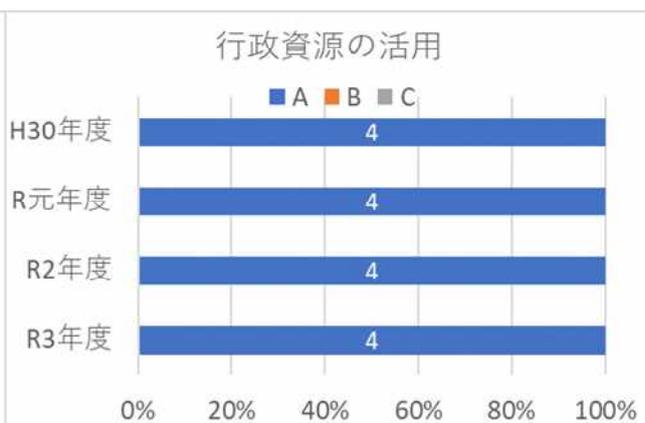


分野6 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策2 1 労働、施策2 2 農業、施策2 3 商工業、施策2 4 観光
------	--------------------------------------

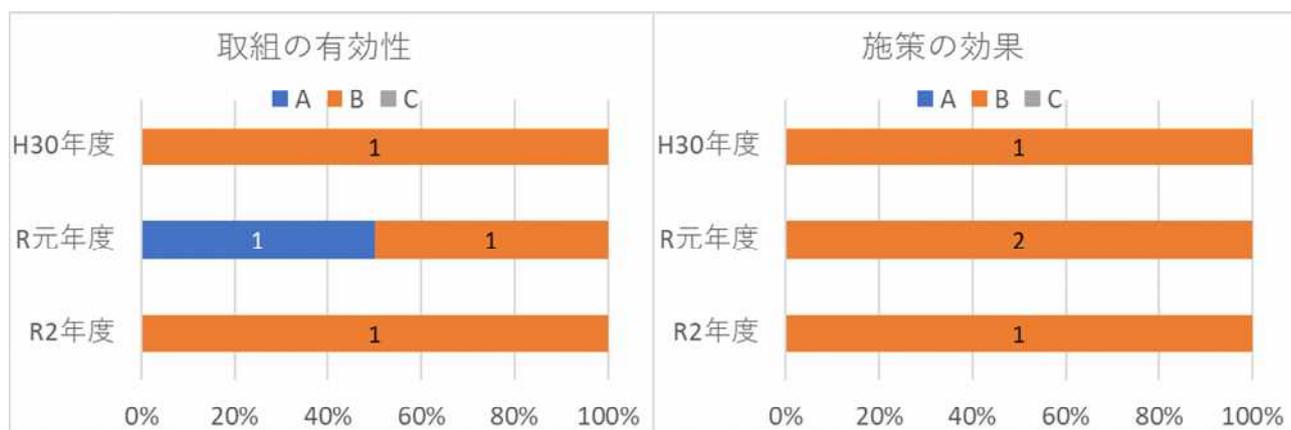
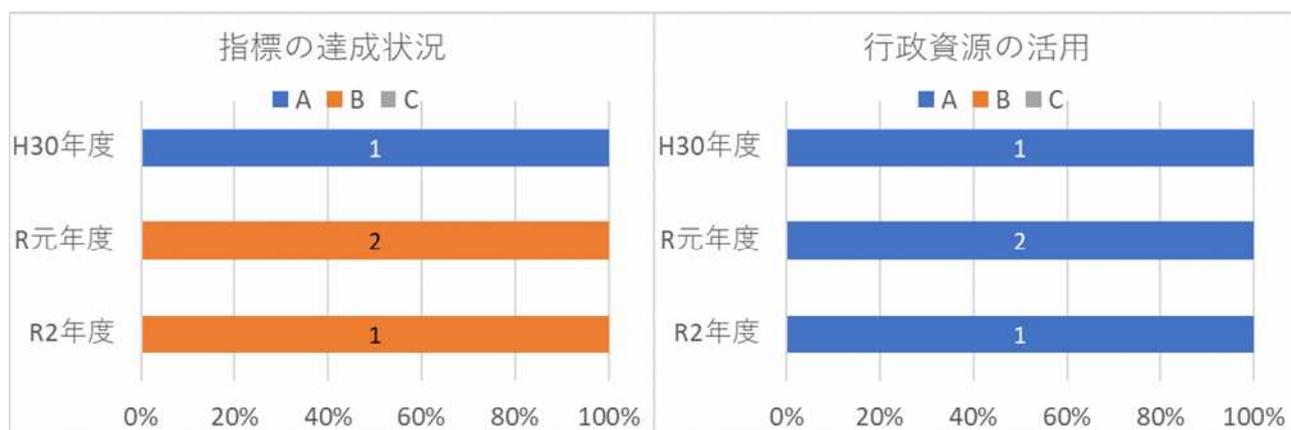
分野6	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%	4	100.0%
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	2	50.0%	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%
	B	2	50.0%	2	50.0%	2	50.0%	4	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策22農業	施策23商工業、施策24観光

分野6	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	R4年度実施予定 (施策23商工業、施策24観光)	
	B	0	0.0%	2	100.0%	1	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	1	100.0%	2	100.0%	1	100.0%		
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%		
	B	1	100.0%	1	50.0%	1	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	B	1	100.0%	2	100.0%	1	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

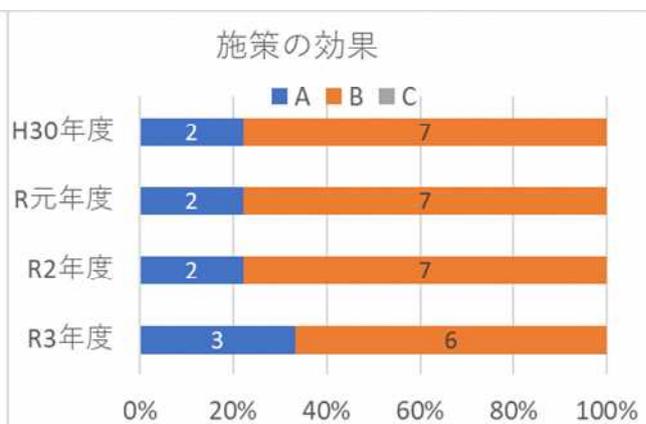
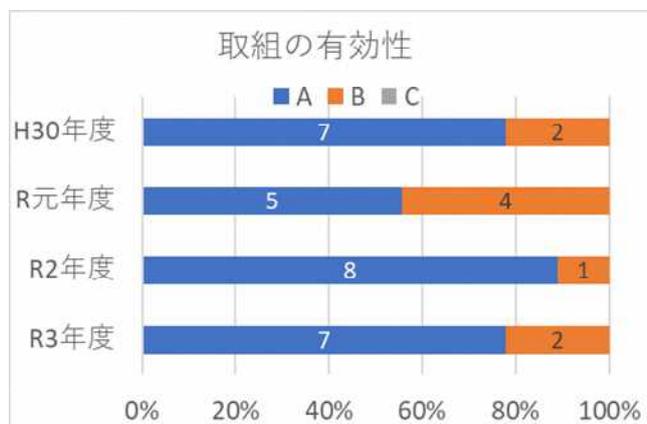
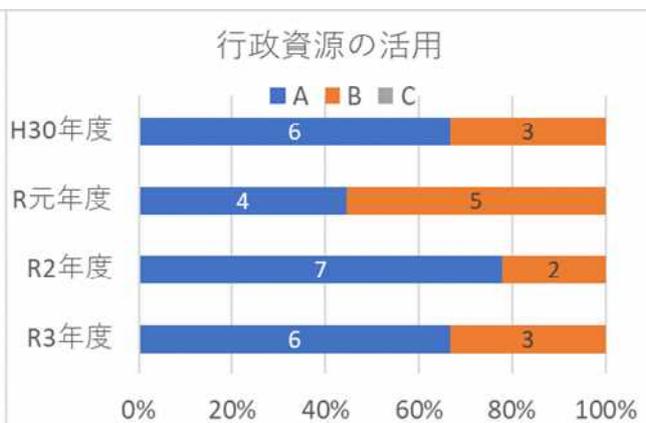
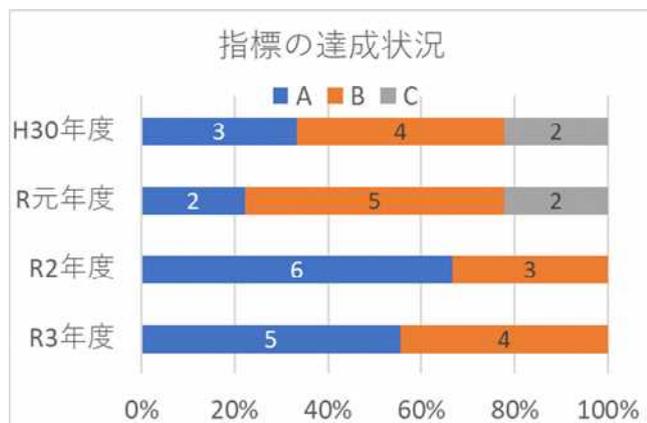


分野7 都市整備 ～快適で便利なまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策25道路、施策26交通安全、施策27公共交通、施策28河川、施策29都市計画、施策30公園・緑地、施策31住宅、施策32水道、施策33下水道
------	--

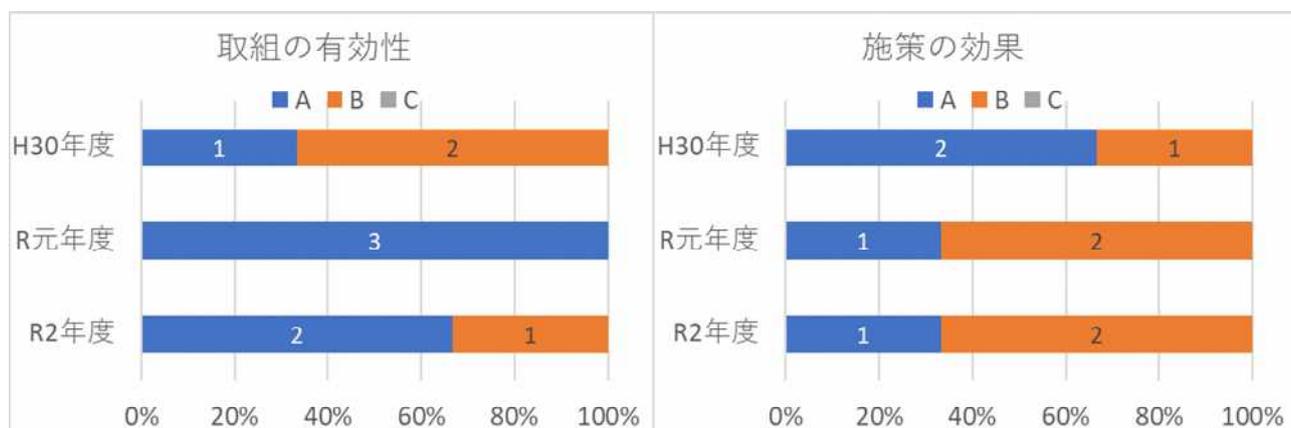
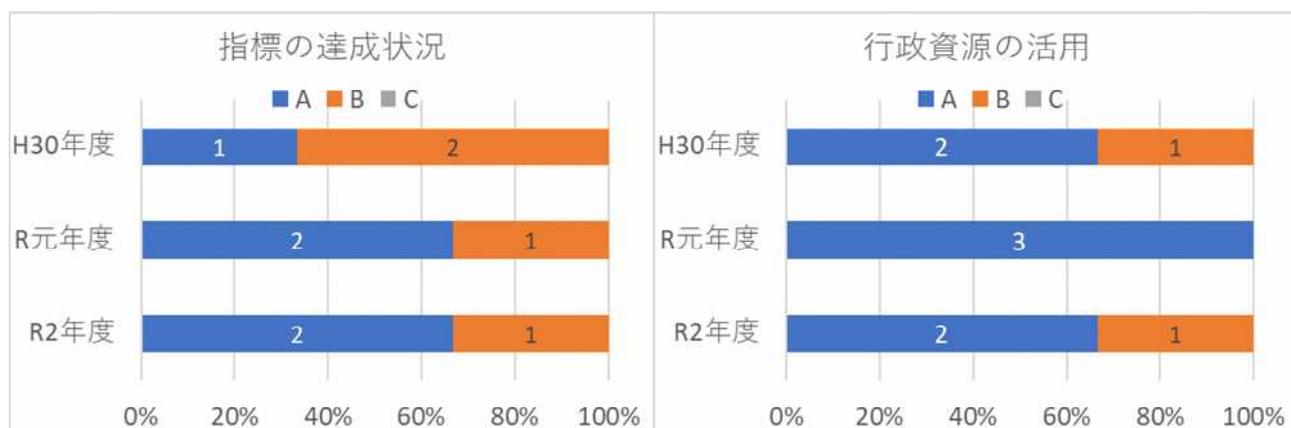
分野7	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	3	33.3%	2	22.2%	6	66.7%	5	55.6%
	B	4	44.4%	5	55.6%	3	33.3%	4	44.4%
	C	2	22.2%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	6	66.7%	4	44.4%	7	77.8%	6	66.7%
	B	3	33.3%	5	55.6%	2	22.2%	3	33.3%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	7	77.8%	5	55.6%	8	88.9%	7	77.8%
	B	2	22.2%	4	44.4%	1	11.1%	2	22.2%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	2	22.2%	2	22.2%	2	22.2%	3	33.3%
	B	7	77.8%	7	77.8%	7	77.8%	6	66.7%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策30公園・緑地、 施策31住宅、施策32水道	施策25道路、施策29都市計画、 施策33下水道

分野7	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%	R4年度実施予定 (施策29都市計画、 施策33下水道)	
	B	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	2	66.7%	3	100.0%	2	66.7%		
	B	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	1	33.3%	3	100.0%	2	66.7%		
	B	2	66.7%	0	0.0%	1	33.3%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%		
	B	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

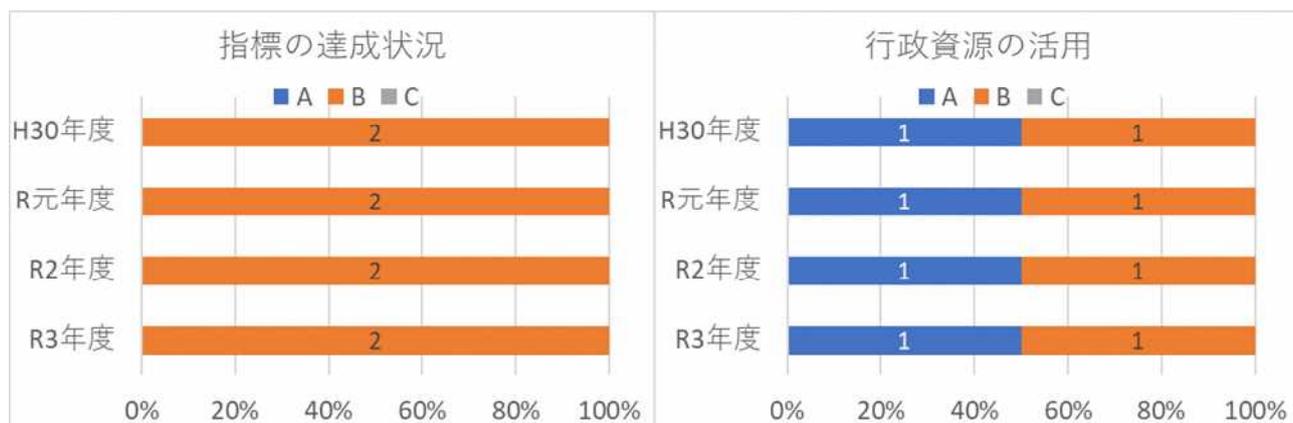


分野8 防災・防犯 ～災害に強く犯罪のないまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策3 4 防災、施策3 5 防犯
------	-------------------

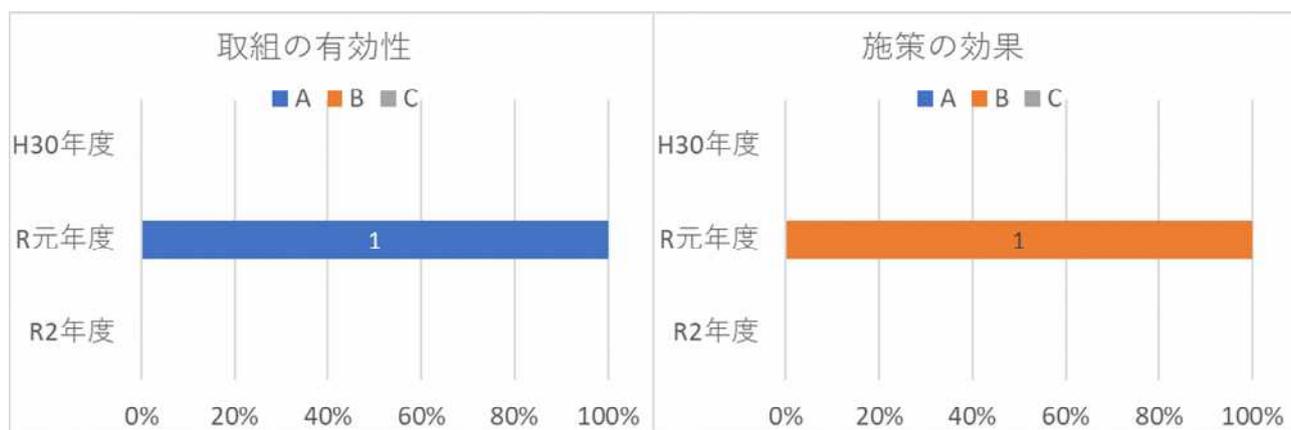
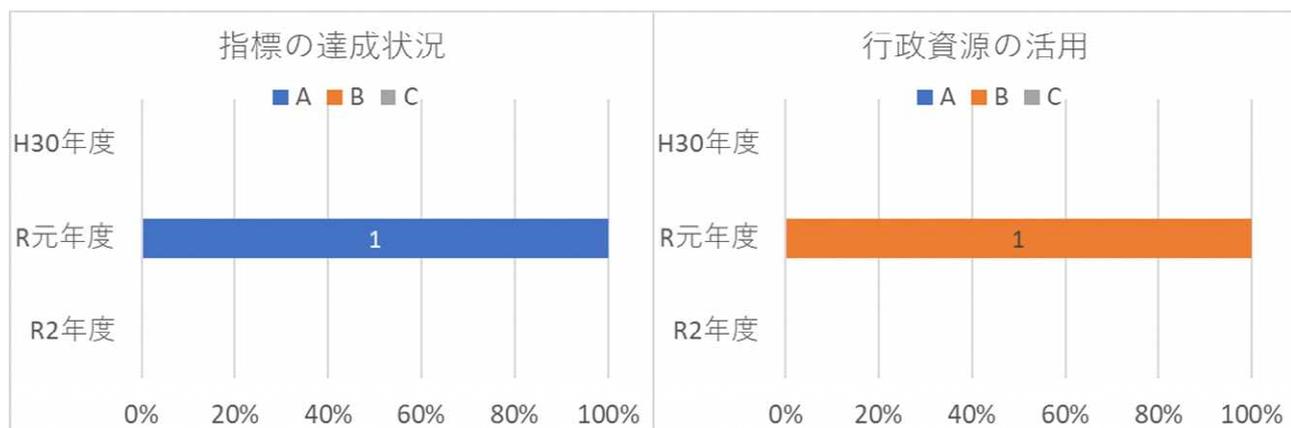
分野8	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
	B	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	2	100.0%
	B	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
	B	1	50.0%	1	50.0%	2	100.0%	2	100.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	—	施策34防災

分野8	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	実施なし		1	100.0%	実施なし			R4年度実施予定 (施策34防災)
	B			0	0.0%				
	C			0	0.0%				
行政資源の活用	A			0	0.0%				
	B			1	100.0%				
	C			0	0.0%				
取組の有効性	A			1	100.0%				
	B			0	0.0%				
	C			0	0.0%				
施策の効果	A			0	0.0%				
	B			1	100.0%				
	C			0	0.0%				

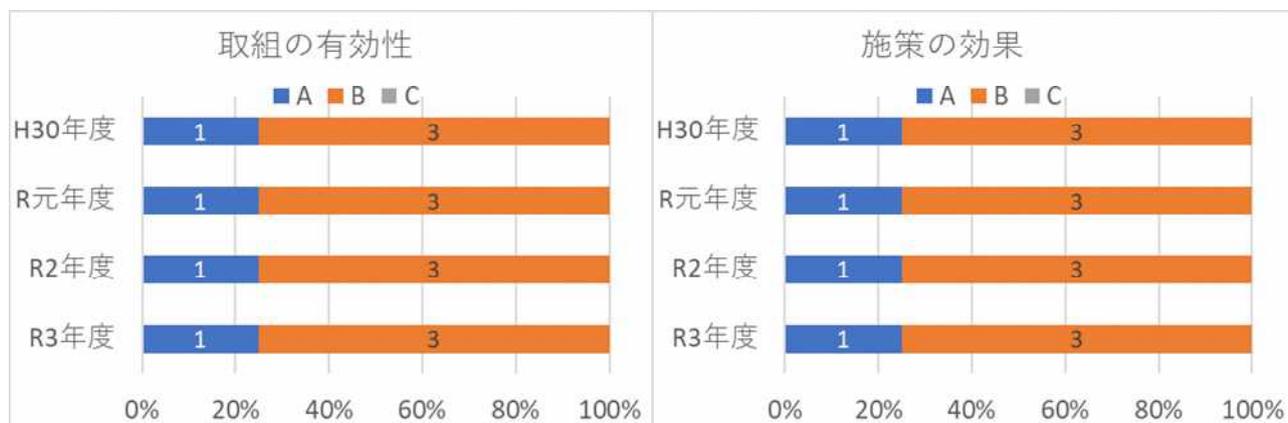
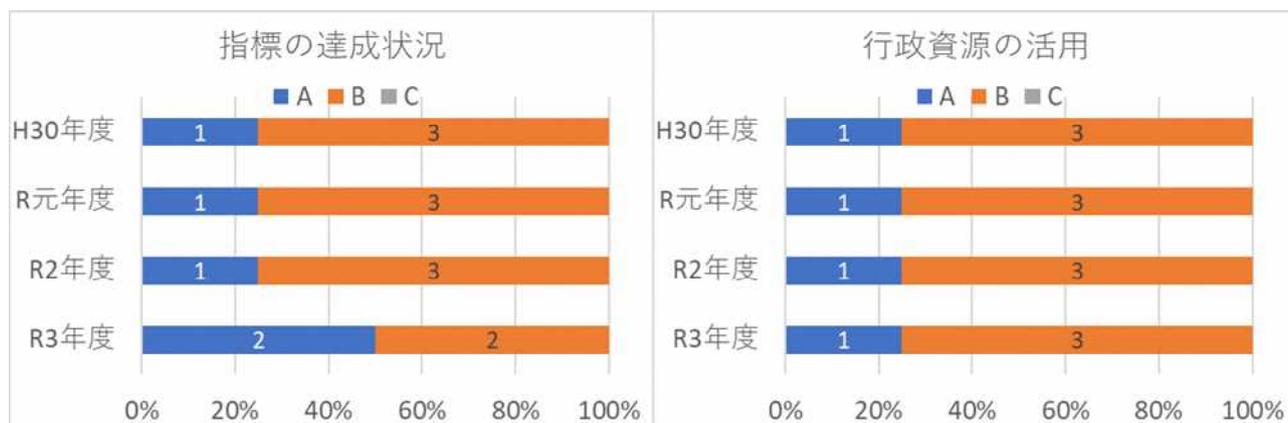


分野9 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～

I 内部評価結果

対象施策	施策36 教育環境、施策37 小中学校、施策38 社会教育、施策39 文化財・郷土資料
------	---

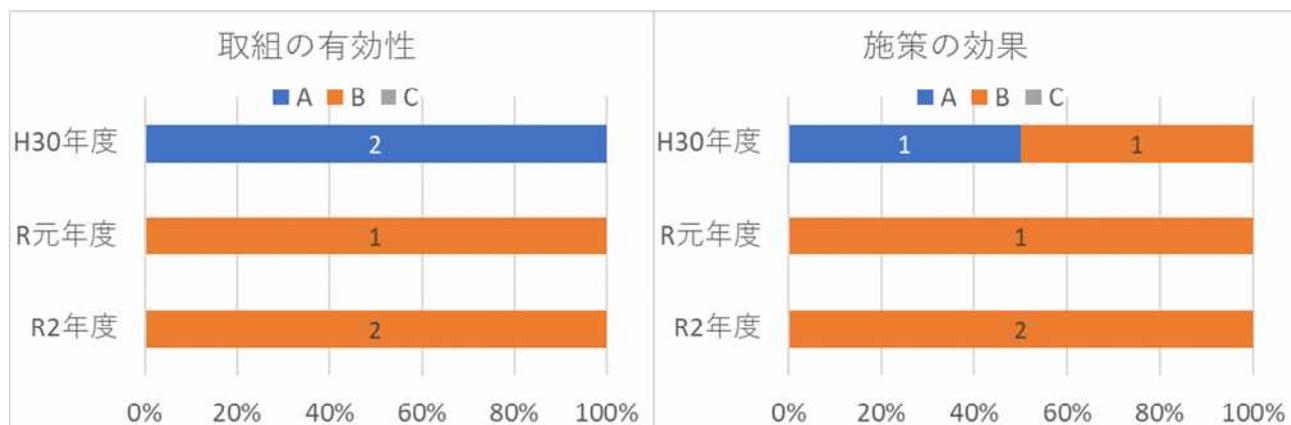
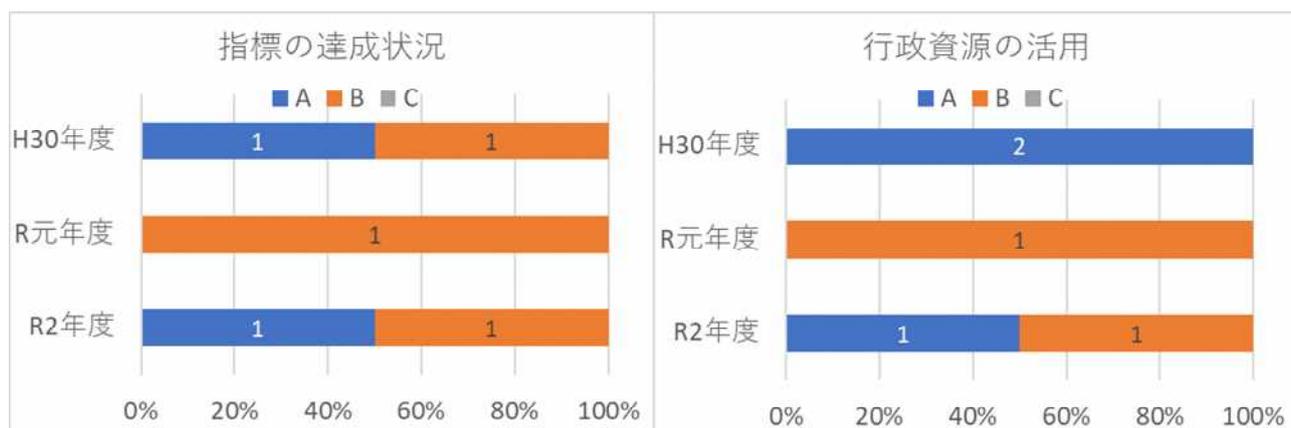
分野9	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	2	50.0%
	B	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	2	50.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	B	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	B	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
	B	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	施策36 教育環境、 施策38 社会教育	施策37 小中学校

分野9	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	R4年度実施予定 (施策37小中学校)	
	B	1	50.0%	1	100.0%	1	50.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
行政資源の活用	A	2	100.0%	0	0.0%	1	50.0%		
	B	0	0.0%	1	100.0%	1	50.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
取組の有効性	A	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	B	0	0.0%	1	100.0%	2	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
施策の効果	A	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%		
	B	1	50.0%	1	100.0%	2	100.0%		
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		

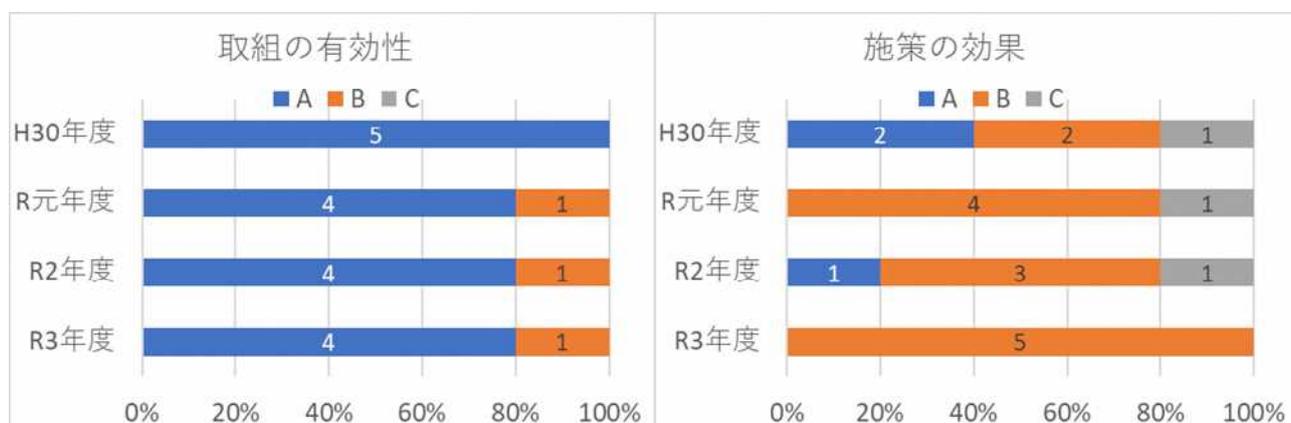
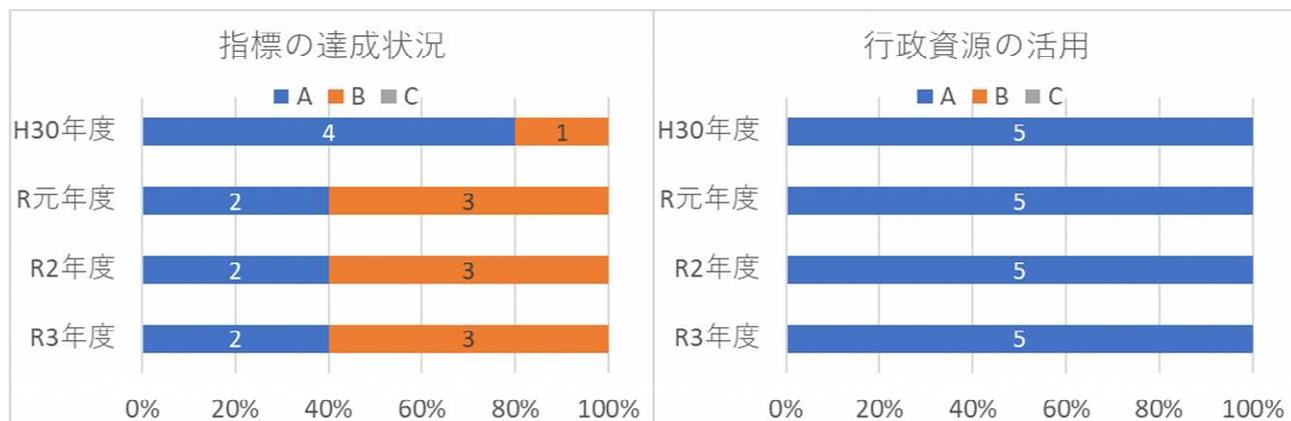


分野別計画を支える取組 ～成果重視の行政経営～

I 内部評価結果

対象施策	取組1（1）情報発信・収集、取組2（1）経営戦略、取組2（2）経営資源（金銭的資源）、取組2（3）経営資源（人的資源）、取組2（4）経営資源（物的資源）
------	--

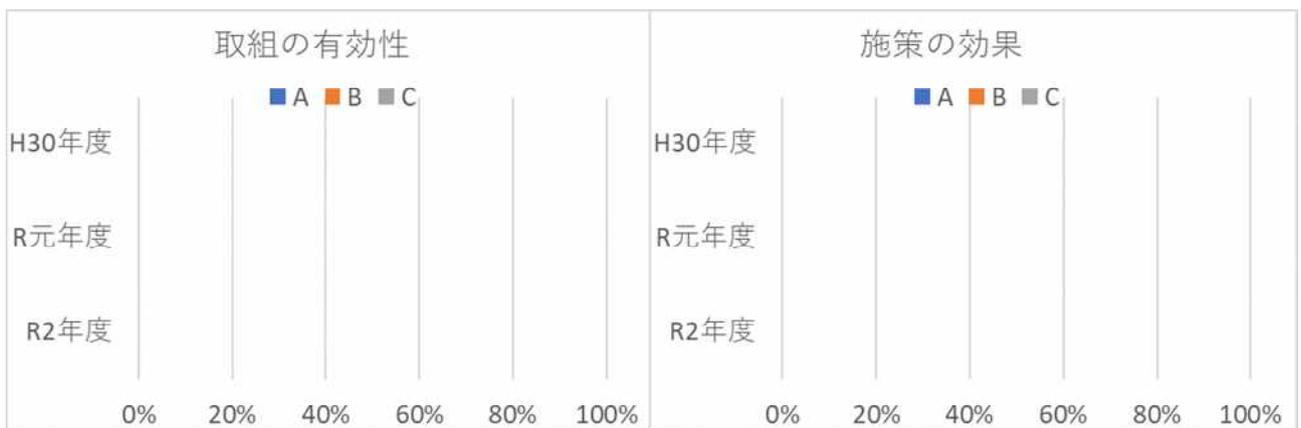
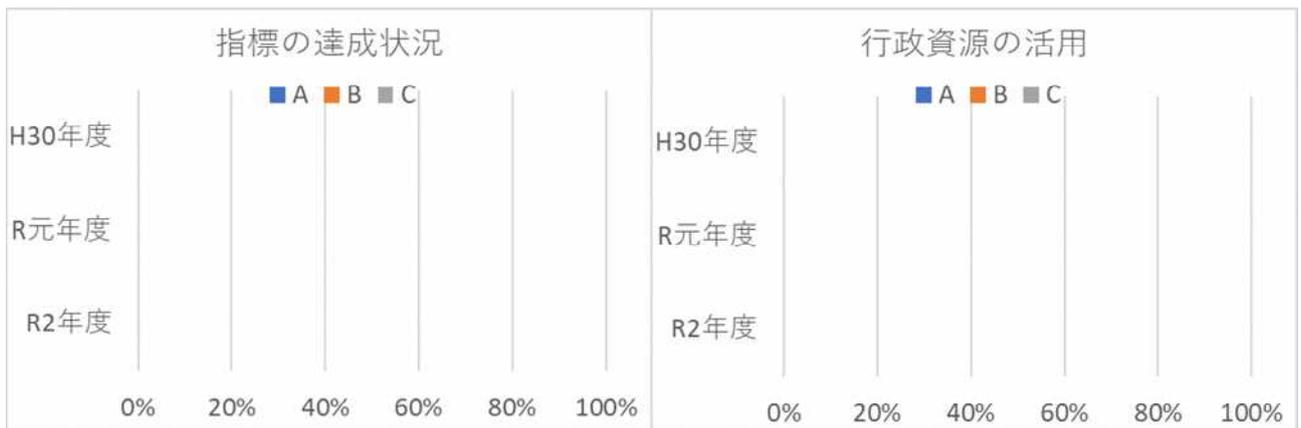
分野別計画を支える取組	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	4	80.0%	2	40.0%	2	40.0%	2	40.0%
	B	1	20.0%	3	60.0%	3	60.0%	3	60.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
行政資源の活用	A	5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%	5	100.0%
	B	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
取組の有効性	A	5	100.0%	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%
	B	0	0.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
	C	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施策の効果	A	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%
	B	2	40.0%	4	80.0%	3	60.0%	5	100.0%
	C	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%



II 外部評価結果

実施年度	平成30年度・令和2年度	令和元年度
対象施策	—	—

分野別計画を支える取組	評価	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度	
		施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
指標の達成状況	A	前期重点プロジェクト対象外							
	B								
	C								
行政資源の活用	A								
	B								
	C								
取組の有効性	A								
	B								
	C								
施策の効果	A								
	B								
	C								



4. 将来構想 前期基本計画検証シート

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	01 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～		
政策	01 協働 – 市民が主役の地域の輪づくりを推進します –		
主管課	協働推進課	関連課	全庁各課
目標	市内で活躍する市民活動団体の主体性を尊重した支援と、大学や企業等との連携を図り、多世代にわたる市民に対し、相互交流や地域での実践につながる場を提供し、協働のまちづくりへの意識の醸成と人材の育成を推進します。また、自治組織などの活動を支える仕組みの充実を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 協働のまちづくりの推進 ○市民活動団体や関係機関等と連携を図り、協働のまちづくりへの意識が醸成されるよう、市民の学びの場づくり及び意識啓発と人材育成に取り組みます。 ○協働のまちづくりという視点に立つ行政運営を進めます。 (2) 地縁活動や市民活動の支援 ○自治組織や市民活動団体の活動について、主体性を尊重した支援を推進します。 (3) コミュニティ施設の整備 ○自治組織やNPO法人、ボランティア団体の活動拠点となるコミュニティ施設の計画的な整備と機能の充実を図ります。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	自治組織の加入率	目標値	57.5	58.0	58.5	59.0	59.5	60.0
実績値				54.0	51.5	49.5	47.9	48.0	48.5	
達成率				93.9%	88.8%	84.6%	81.2%	80.7%	80.8%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点			これまで加入促進チラシ・パンフレットの作成、加入促進事業に対する補助金の創設を実施してきたが、加入率は依然として減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の影響により活動ができていない自治組織もあるため、自治組織連合会などと相談しながら、自治組織の活動支援に重点を置く必要がある。							
2		指標名	目標値							%
			実績値							
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		指標名	目標値							%
			実績値							
	達成率						-	-		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	市民活動支援センターの登録団体数	目標値	125	130	135	140	145	150	団体
			実績値	124	129	119	122	125	130	
			達成率	99.2%	99.2%	88.1%	87.1%	86.2%	86.7%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		新型コロナウイルス感染症の影響により、基本的対策を講じながら市民活動をしている状況にある。登録団体数だけでなく、既存の団体が継続的な活動が出来るように、必要な支援を行う必要がある。						
	2	協働のまちづくりイベントへの参加者数	目標値	1,050	1,100	1,150	1,200	1,250	1,300	人
			実績値	1,192	1,201	40	27	50	50	
			達成率	113.5%	109.2%	3.5%	2.3%	4.0%	3.8%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		ふじみ野市コミュニティづくり推進連絡会が、会の目的を果たせたことを理由として、令和2年度末を以って解散した。この会の活動を数に含めていたことから、現状を踏まえた値に修正する必要がある。						
	3	指標名	目標値							%
			実績値							
達成率							-	-		
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	—	B	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	—	B	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	—	B	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	—	B	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>・市民が主役という以上、協働のまちづくりについて、その取組の見える化が必要であり、そのためには、PDCA管理への取組をよろしくお願いします。</p> <p>・ふじみ野市として実施可能な施策を地道に進めていると認識しています。イベントへの市民の参加は、パンデミック影響の中、オンライン手法の採用等、当初予定とは異なる方法による促進など、あらたな方向性にシフトすることが引き続き重要と考えます。一方で、自治組織の加入など市民の意識啓発強化については、市が直接関与できる範囲に制約があるとのことは理解できますが、各自治組織や市民の要望や意見などを十分に踏まえたうえでの連携的活動を進めない限り、改善が見込まれないと思われます。</p> <p>・コロナ禍で環境の厳しい中、施策実施とともに概ね成果を挙げているものと判断します。</p> <p>・協働のまちづくり、言葉としては美しいですが、徐々に進んできた社会の「個人化」を押しとどめるのは、大変難しいことだと推察します。先進的な地域の事例に学んだり、SNSなど若い人のコミュニケーション・ツールをうまく取り入れられるなど、対策には効果的な工夫や新たな発想が必要ではないでしょうか。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>協働のまちづくりについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて実施内容の見直し等を行いながら、市民との様々な協働の取組を展開することができた。しかし、実施している個々の事業は、その成果がすぐに現れることが難しいものが多く、市民の意識の変化や時代の流れに則した方策について、市民の意見を聞きながら常に見直していく必要がある。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>新型コロナウィルス感染症の影響により、施策の考えの根本となる市民活動団体、自治組織などの活動自体が縮小、中止を余儀なくされており、コミュニティの希薄化、これまで築き上げてきたノウハウの継承が危惧される。</p> <p>そのような状況下でも、市民活動団体、自治組織などは感染予防対策を講じながら主体的に活動しているところがあり、そうした活動に対する基本的支援を第一に考えていく必要がある。</p> <p>また、本政策の関係課は全庁各課であることから、協働推進課が所管する事業や意識啓発だけでなく、全庁的や取組みや協働事業も踏まえながら、施策を展開して行く必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	01 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～		
政策	02 人権尊重 -人権意識の向上を目指します-		
主管課	市民総合相談室	関連課	協働推進課、学校教育課、社会教育課
目標	差別の無い基本的人権が尊重された平和な地域社会や男女共同参画社会の実現に向け、市民の人権意識の醸成を促進します。また、外国籍市民が暮らしやすい地域社会づくりを進め、地域における国際交流を推進します。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 人権を尊重した社会づくりの推進 ○市民・行政・関係機関が連携し、同和問題をはじめとする人権問題に関する普及啓発活動を行います。 (2) 平和な地域社会づくりの推進 ○戦争の惨禍を後世に伝え、世界平和について学べる機会を提供します。 (3) 男女共同参画の推進 ○政策・方針の決定過程において女性の参画を推進し、社会参画の機会の拡大を図ります。 (4) 多文化共生（国際交流）の推進 ○外国籍市民の生活相談など外国籍市民が暮らしやすい生活環境をつくります。 ○多言語による情報提供や外国籍市民との交流の機会の提供などにより、国際交流を推進します。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2		目標値								
		実績値						-	-	
		達成率						-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		目標値								
	実績値						-	-		
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	%	
		実績値	89.4	88.0	-	-	88.0	88.0		
		達成率	111.8%	110.0%	-	-	110.0%	110.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		差別の無い基本的人権が尊重された平和な地域社会の実現に向け、市民の人権意識の醸成を促進するため今後も講演会等を実施し、人権問題への関心や理解を深める必要がある。						
	2	目標値	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	40%以上	%	
		実績値	33.4	31.4	33.5	34.9	33.6	34.8		
		達成率	83.5%	78.5%	83.8%	87.3%	84.0%	87.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		市の政策・方針決定過程において多様な意見が反映されるよう、性別による偏りのない登用に向けて、今後も庁内外へ働きかける必要がある。						
	3	目標値								
		実績値						-	-	
		達成率						-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>全体的に施策目標の実現に向けた取り組みが行われている。</p> <p>様々な講演会や研修会等を開催し、人権や平和意識を高めるための教育・啓発が、職員や市民一人ひとりに対して行われている。</p> <p>審議会等女性委員の割合については目標値を下回っているが、全庁の理解や協力のほか、推薦団体等による理解なくしては達成できないことから、今後も目標達成のための啓発活動を進めていく必要がある。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>差別の無い基本的人権が尊重された平和な地域社会や男女共同参画社会の実現に向け、人権意識の醸成促進。また、外国籍市民が暮らしやすい地域社会づくりを進め、地域における国際交流を推進する。という目標達成に向けて、継続的な啓発や働きかけが必要であることから、後期基本計画においても当該施策を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	01 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～		
政策	03 市民総合相談 - 市民総合相談の充実・消費者の被害防止と救済を支援します -		
主管課	市民総合相談室	関連課	
目標	多岐にわたる市民の相談内容に応じ、更に関係部署と連携を強化し、総合的な相談体制の整備を進めます。また、消費生活相談体制の充実と、消費者教育の推進を通じて消費者の意識啓発と被害の防止を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 総合相談窓口の充実</p> <p>○複雑化・多様化する相談ニーズに総合的に対応できるよう専門相談の充実及び庁内の相互連携による支援など、効率的で質の高い相談サービスの提供に努めます。</p> <p>○配偶者暴力相談支援センターとして、DV被害者の相談から支援・救済保護を迅速に行うため、庁内外の関係機関や県との連携を強化します。</p> <p>(2) 消費生活相談の充実</p> <p>○消費者に対する消費者教育・意識啓発を推進し、消費者自身の対応力の強化を図ります。</p> <p>○市民に質の高い相談・救済支援が受けられる相談体制により、被害拡大を防止します。</p>		

1 施策指標と達成状況

活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	指標における課題・後期基本計画策定における論点	目標値					-	-
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	2	指標における課題・後期基本計画策定における論点	目標値					-	-
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	3	指標における課題・後期基本計画策定における論点	目標値					-	-
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	市民総合相談の利用者の満足度	目標値	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値	95.70	97.85	98.38	97.82	98.33	98.33	
		達成率	95.7%	97.9%	98.4%	97.8%	98.3%	98.3%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	効率的で質の高い相談サービスの提供のため、窓口対応や相談スキル、利便性を図る基準となることから、今後も継続して進捗管理を図る必要がある。近年、相談内容が複雑化かつ多様化していることから、総合相談窓口として適切な専門相談へのコーディネートや、庁内外の関係機関との連携を強化し、迅速な支援につながるようにしていく。							
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	2	消費生活に関する講座等参加者の関心度、理解度	目標値	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00
		実績値	93.45	96.90	95.83	0.00	96.37	96.37	
		達成率	98.4%	102.0%	100.9%	0.0%	101.4%	101.4%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	消費者自らが被害に遭わないため、消費生活に関する講座等への参加者の消費者被害防止への意識や理解度を図る指標となることから、今後も継続して進捗管理を図る必要がある。成年年齢引下げによる若者への効果的な消費者教育を検討していく。							
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	3	指標における課題・後期基本計画策定における論点	目標値					-	-
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>市民の不安や悩みに応じた各種専門相談員の配置や庁内外の関係機関との連携により、迅速に対応できる総合相談窓口の充実を図った。</p> <p>また、市民相談と消費生活センターが一体化していることで、被害者救済も含めた相談体制が図られている。</p> <p>今後も利用者の満足度としては100%を目指すものである。</p> <p>安心して消費生活が送れるよう、高校・地域での啓発事業は新型コロナウイルス感染拡大防止により実施できなかったが、代替え措置として啓発チラシ等の配布を積極的に行い、また、消費生活センターによる相談・あっせんにより消費者被害の未然防止と救済に努めた。</p> <p>引き続き、市民の暮らしの安心と安定に繋がるよう総合相談窓口の充実を図っていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>多岐にわたる市民の相談内容に応じ、更に関係部署と連携を強化し、総合的な相談体制の整備を進めること。また、消費生活相談体制の充実と、消費者教育の推進を通じて消費者の意識啓発と被害の防止を図るという目標達成に向けての取り組みに対し、今後も継続して進捗管理を図る必要があることから、後期基本計画においても当該施策を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	01 暮らしと地域コミュニティ ～人がつながるまち～		
政策	04 市民窓口サービス - 利便性・満足度の高い窓口サービスを提供します -		
主管課	市民課	関連課	市民総合窓口課、全庁各課
目標	窓口サービスの向上に向けた取組を引き続き進め、市民目線に立ち、正確でわかりやすい窓口サービスを提供する。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 窓口サービスの充実 ○「利用者満足度調査」の実施により、窓口利用者の意見を反映した改善や職員のスキルアップを図り、迅速かつ正確な窓口サービスを提供するよう努める。 ○市民の利便性を向上させるため、休日開庁の効率的な実施などの検討を進める。 (2) マイナンバーカード普及の拡大 ○マイナンバーカードを利用した様々なサービスの提供について関係各課と連携を取りながら検討を進め、マイナンバーカード普及の拡大に努める。		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値						-	-		
達成率						-	-		%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値					-	-		
	達成率					-	-		%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値					-	-		
	達成率					-	-		%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	%
1	実績値	窓口利用者の満足度	92.00	92.80	92.60	98.60	92.00	92.00	%
	達成率		102.2%	103.1%	102.9%	109.6%	102.2%	102.2%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		サービスの向上や心のこもった接遇を徹底して、組織一丸となって取り組むことが重要である。特に、電話での対応は顔が見えない分、ゆっくりと丁寧に対応し、最後は「何か不明な点はありませんか」と声かけを心掛けていく。						
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		12.7	13.9	15.3	16.8	18.5	20.4	%
2	実績値	マイナンバーカード普及率	14.6	17.4	32.0	47.2	70.0	80.0	%
	達成率		115.0%	125.2%	209.2%	281.0%	378.4%	392.2%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		交付円滑化計画では、令和4年度末までに交付率100%とすることから、出張申請サポートの実施回数を拡充し、市内企業、商業施設及び公共施設などにおける出張申請受付など普及促進の強化を図っていく。						
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値					-	-		
	達成率					-	-		%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	A	A	A
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>窓口業務委託の効果としては、案内の要員の配置、繁忙期、通常期での人数調整、窓口サービスの専門要員の配置など民間業者のノウハウを活用して市民サービスの向上が図られている。</p> <p>本庁において、既の実施しているRPAを導入した「書かない窓口」を令和3年10月に出張所においても導入を図り、市民サービスの向上及び市民満足度を高めることに努めた。</p> <p>また、コロナ禍における接触感染のリスクを回避するため、令和3年12月から電子決済対応レジスターを導入し、セミセルフ方式の現金決済を開始したことにより、衛生的な非接触での支払いが可能となった。</p> <p>マイナンバーカードについては、令和4年度末には交付率100%とする交付円滑化計画を策定し、普及促進策としてこれまで本庁舎市民課及び大井総合支所市民総合窓口課において、申請支援を随時受付するほか、毎月第2土曜日の臨時開庁や毎週木曜日の延長開庁を実施してきた。</p> <p>令和3年度においては、期日前投票期間中の申請勧奨の実施のほか、令和3年11月から令和4年3月までにサービスセンターホールにおいて出張申請サポートを6回実施し、これらの取り組みにより、交付率向上につながった。</p> <p>また、市民の利便性を高めるための施策として、コンビニ交付サービスを令和3年10月から導入し、さらなる交付率向上を目指した。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>市役所の窓口対応は、正確な職務知識・情報を提供し、適正で迅速な事務処理を公平に行うことはもとより、市民の立場に立った親切で心のこもったきめ細やかな対応が求められている。そのため、窓口の職員は市役所の顔であり、市民サービス最前線を担っていることを常に自覚していく必要がある。</p> <p>マイナンバーカードについては、引き続きあらゆる機会を活用して、普及促進に努めるとともに、今後、カード所持者の増加に伴い一連の事務手続が増加することが予想されることから、普及促進と併せてスムーズな業務処理のための環境整備など、より一層の市民サービスに努めていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うるおいのある豊かなまち～		
政策	05 生きがい – 市民のみんなで学ぶ、地域で学ぶを推進します –		
主管課	協働推進課	関連課	社会教育課
目標	夢が広がり、生涯を通して学び続ける環境づくりの推進に向けて、多様なニーズを踏まえた市民の生きがい学習への参加機会の創出と支援を行うとともに学んだ経験を地域に還元する仕組みを構築します。		
施策目標の実現に向けた取組	(1)生きがい学習環境の整備・充実 ○市民大学ふじみ野をはじめとする様々な生きがい学習の環境整備を進めます。 ○各世代に応じた講座の開設など、市民のニーズに応じた学習メニューを充実させ、学習活動を支援します。 (2)生きがい学習の地域還元 ○市民大学ふじみ野の修了生や生きがい学習ボランティア人材登録制度などを活用し、学びの成果を地域に還元する仕組みを構築します。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	生きがい学習受講生数	目標値	360	380	410	440	470	500
			実績値	297	163	39	339	360	380	
			達成率	82.5%	42.9%	9.5%	77.0%	76.6%	76.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	生きがい学習まちづくり出前講座の講座メニュー数が減少している。市各課の協力を得て市民の関心・ニーズに合った講座を用意するとともに、市職員へ本制度の周知を図る必要がある。							
2		生きがい学習ボランティアの活動実績数	目標値	7	10	15	20	25	30	回
			実績値	9	11	11	13	15	17	
			達成率	128.6%	110.0%	73.3%	65.0%	60.0%	56.7%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	講師登録人数及び講師派遣依頼を増やすために、市報及び市HPで周知を行う必要がある。また、市各課及び施設の事業で生きがい学習ボランティアを活用するため、市職員への周知を図る必要がある。							
3			目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	市民大学ふじみ野の修了生の活動実績数	目標値	20	30	45	60	80	100	回
			実績値	0	8	66	108	110	120	
			達成率	0.0%	26.7%	146.7%	180.0%	137.5%	120.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	修了生が受講後に学んだことをすぐに生かせる講座内容ではなく、受講後の活動サポートもできていない状況にある。どのような人材が必要かという情報を得るとともに、受講後の活躍の場を想定した講座企画を実施する必要がある。							
	2		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3		目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	C	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>1. 随意契約で選んだNPOに業務についての指示が出せないのは問題ではないでしょうか。業務内容を明確にして、公募でNPOを選んではいかがでしょうか。</p> <p>2. 市民が関心のある、魅力ある講座を開催してほしいです。</p> <p>3. 生きがいづくり、永遠の個人目標と思います。一人一人が1つの課題を解決できれば、大きな輪となって1歩進むのではないかと思います。講座開設は両者にとっても大変な作業です。他部門との連携のもと進めてください。</p> <p>4. 子ども親も忙しい中、講座に足を向けることが現実的に難しい。小学校、中学校等と直接結びついて、学校で講座を開くことはできないか。</p> <p>5. 目標と実績の乖離がやはり気になります。NPOとの課題の共有をさらに深めていく必要を感じました。市民力の向上という部分が大きなテーマですので、そこにつながる事業の在り方をさらに検討する必要があると考えています。</p> <p>6. 目標をどのように実現していくのかという視点で取り組んでいこうと思います。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>子ども大学ふじみ野については、オンラインによる講義方法を初めて取り入れた。これにより、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けることなく開催を迎えることができ、受講者及び保護者が安心して受講できる環境を整えることができた。</p> <p>また、受講者にとっては、子ども大学ふじみ野ならではの知識や経験が得られたものと考えている。</p> <p>市民大学ふじみ野は、市民で構成されているNPOに業務委託し、市民協働で運営をしている。市民大学ふじみ野では、「市民の学び 地域の学び 知の好循環」をテーマに、学びを地域への活動に繋げ、地域での活躍のきっかけとなる講座を実施してきた。令和3年度は、小学校の授業支援ボランティア養成講座として「小学校のプログラミング教育」を新たに実施した。修了生の今後の活躍が期待できる。更に、市民が市民に対して教え・学ぶ、双方向の学びの枠組みである「学び合い講座」の講師募集説明会を実施したことにより、新しい講座の実施や講師の育成に繋がるものと考えている。</p> <p>市民が生きがい学習の情報を得る手段の一つとして、「生きがい学習ガイドブック」を発行し、多くの方に配布することができた。今後においても、より市民に活用していただくために、生きがい学習ガイドブックの存在の周知を図るとともに、活用しやすい紙面づくりに努めていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>生きがい学習事業では、令和6年度に更新を迎える「生きがい学習推進計画」の策定を令和4年度から2か年をかけて行う。市民の皆様が生涯を通じて学習していきたいという意識を高め、地域で活躍できる学びを推進するため、現在の社会情勢を加味した計画として見直す。</p> <p>市民大学ふじみ野事業では、市民ニーズに合った講座や人気のある講座を展開できているが、カリキュラムの固定化が見受けられることから、市民が市民に対して教え・学ぶ、双方向の学びの枠組みである「学び合い講座」をきっかけに、多種多様な講座展開に努める。業務委託先のNPOの体力が限界に近く、新たな施策展開が難しい状況にある。NPO内の次世代育成を促す声掛けが必要となっている。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うらおいのある豊かなまち～		
政策	06 文化 - 魅力の発信と人々の交流を通し、未来につながる文化を創造するまちを目指します-		
主管課	文化・スポーツ振興課	関連課	市民課、市民総合窓口課、協働推進課、学校教育課、社会教育課（公民館）
目標	文化芸術を通して多様な市民の交流を図るとともに、ふじみ野市の文化的な魅力を発信することで地域の活性化につなげます。また、市民と文化芸術をつなぐ人材や団体の育成を図ります。		
施策目標の 実現に向けた 取組	<p>(1) 文化的な魅力の発見・発信</p> <p>○市内のアートスポットやアーティスト、ユニークな取組など、市の文化的な魅力を市民参加により発見・発信し、地域の活性化につなげます。</p> <p>(2) 文化の担い手の育成</p> <p>○次世代の文化創造を担う子どもたちの豊かな心や創造性を育むため、子どもの頃から文化芸術に触れる機会を充実します。</p> <p>○市民と文化芸術をつなぐコーディネーター、ボランティアなどの育成を進めます。</p> <p>(3) 文化芸術に出会う機会の提供と交流促進</p> <p>○文化芸術を通して、子育て世代、高齢者、障がい者、外国籍市民など多様な市民の交流を促進します。</p> <p>○多くの市民がいきいきと文化芸術活動に取り組める環境づくりを進めます。</p> <p>(4) 文化施設の維持管理・整備</p> <p>○市民がステラ・イースト及び産業文化センターなどを快適に利用できるよう維持管理を行います。</p> <p>○文化施設整備基本構想・基本計画及び管理運営計画に基づき、施設の整備を進めるとともに維持管理・運営の準備を進めます。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	文化芸術を通して多様な人が出会う交流促進事業への参加施設・団体数	目標値	4	5	6	9	12	15
実績値				5	16	15	21	25	30	体
達成率				125.0%	320.0%	250.0%	233.3%	208.3%	200.0%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			「アートフェスタ」は市を代表する文化芸術事業として、年々参加団体等も増え、プロ・アマのアーティストや市民、企業、大学等多様な交流が生まれた。今後、社会的包摂の分野にも力を入れるために指標の見直しを検討していく。							
2		文化芸術事業への参加者数	目標値	4,860	5,090	5,340	5,600	5,880	6,170	人
			実績値	7,100	6,090	0	4,316	5,950	6,200	
			達成率	146.1%	119.6%	0.0%	77.1%	101.2%	100.5%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	文化芸術は、心の豊かさ、心の健康につながることから、コロナ禍でも事業を中止せず対策を取り開催していくことを目標とする。指標を単純に参加者数で良いか見直しを検討していく必要がある。							
3		指標名	目標値							
			実績値					-	-	
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	市民と文化芸術をつなぐコーディネーター育成数	目標値	3	5	8	8	8	8	人
			実績値	0	2	2	3	5	8	
			達成率	0.0%	40.0%	25.0%	37.5%	62.5%	100.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	市内において様々なアート分野でコーディネーターを担う人材が発掘されており、今後は人、団体、事業を結び事業開催に向けた調整を行うなど役割の拡大を検討するとともに、資質向上も図っていく。							
	2	(仮称) 東地域文化施設多目的棟整備事業の進捗率	目標値	10.0	40.0	100.0	-	-	-	%
			実績値	10.0	40.0	100.0	-	-	-	
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	-	-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	新たな文化施設整備の第一弾として東文化施設の多目的棟大規模改修工事が令和3年3月に完了した。東文化施設は、「市民の日常活動、発表、交流の場」として位置づけており、市内の文化芸術の振興、生涯学習活動の推進、市民相互の交流の促進を図る拠点としての役割を果たす。							
	3	(仮称) 西地域文化施設整備事業の進捗率	目標値	0.0	0.0	1.0	15.0	75.0	100.0	%
			実績値	0.0	0.0	0.7	12.0	75.0	100.0	
達成率			0.0%	0.0%	70.0%	80.0%	100.0%	100.0%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点		西文化施設の工事については令和5年秋のオープンを目指して順調に進捗している。西文化施設は、様々な目的を持つ人が集まる「みんなの広場」として位置づけており、東西拠点施設が完成することにより、それぞれの施設の特性を生かした文化芸術の振興等を図ることにより、魅力的で住み続けたいなるまちづくりを進める。								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	—	B	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	A	—	A	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	A	—	A	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	B	—	A	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>文化芸術活動を通じて、市民の交流を促進し、引き続き文化芸術面からまちづくりの一翼を担うよう取り組んでください。コロナ初年度において、すべて中止の風潮であった時期に、YouTubeを活用した文化芸術イベントの代替開催は素晴らしい取り組みだと思います。コロナ禍において、文化・スポーツを通じての交流は今までになく困難な状況であり、開催に対して大変な苦労があったと思います。そうした中、動画配信等を利用してイベントを行ってきたことは、今後の様々な状況に応じた対応の幅が広がったと考えられます。SNS・オンラインツールの活用などにより、幅広く参加者の受け止め方の情報を得ることもできるため、今後イベントの実施方法やコミュニケーションの取り方などの効果改善に役立てて、一層魅力的な情報発信にも努めていただくことを期待します。コーディネータなど文化の担い手の育成についても、情報発信と連動する形で、今後の発展に向けた継続的な活動を期待します。様々な施策の中で現在進行している文化施設等を踏まえ、対処対応をワクワクする中身を提案したらいかがでしょうか。行政が創るプロデューサーになってはいかがですか。コロナ禍の中、動画を活用し概ね成果をあげていると判断します。指標3は、『市民が身近な環境で参加出来る文化芸術の必要性を文化事業への参加者数で図る』目的で参加者数を指標にしたはずですが、YouTubeを活用した動画配信事業で、36,097回の再生数は令和2年度の目標値5,340人を達成したかは、説明できないと判断しました。文化事業については私も関わっているので手前味噌になるかもしれませんが、コロナ禍で多くイベントが中止される中、リモートでのアートイベントを開催できたことの意義は大きいと思っています。文化施設の整備も進んでおり、それが市民の文化的要求に応えるものになっていくことを期待しております。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症が拡大している中で、事業は中止せず、オンライン開催やライブ開催など工夫して開催した。「アートフェスタふじみ野」は動画配信とライブ配信を並行して行うなど、状況に応じた事業展開を開催することで、文化芸術に触れる機会やコミュニティづくりの機会を提供している。また、ライブ開催時の感染症対策や事業規模を見直すなど事業の実施に向けた検討を行い、新型コロナウイルス感染防止対策マニュアルを作成した。令和3年4月リニューアル・オープンしたステラ・イーストを拠点に文化芸術事業を展開するため、ステラ・イーストホール活用事業、アート系ワークショップなど質の高い事業を展開し、文化芸術事業を担う人材やボランティアスタッフを育成し、地域に根ざした文化芸術活動を展開し、地域の活性化につなげることができた。文化施設の整備については、令和3年2月にステラ・イースト多目的棟の大規模改修工事が完了し、令和3年4月から文化と生涯学習の拠点として、多くの方が利用している。文化施設の整備については、西文化施設の実施設計を進めるとともに、令和3年10月に旧大井中央公民館の解体工事が完了した。その後、新築工事として、山留及び土壌改良、地下配筋工事等を行った。市民が集い、賑わいのある文化と人の交流拠点となる施設の整備を進めることで、未来につながる文化を創造するまちを目指す。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>前期計画期間では文化芸術活動未来応援事業、アートフェスタ事業などを通して、アーティストの発掘や事業への参加が進み、文化芸術事業の推進・拡大につながる結果となった。今後は、取り組みが十分でない分野を重点的に取り組む。課題としては、コロナ禍で中断してしまった小中学校等へのアウトリーチ事業、障がい者アートなどの事業を進め、全ての世代が身近で気軽に文化芸術を楽しむことのできる環境を作りを進めていく。アウトリーチ事業や文化芸術活動未来応援事業等の更なる充実を図り、未来を担う子どもや若手アーティストの人材育成を進め、新文化施設の活用促進につなげていく。また、オンライン配信も継続するなかで精度を上げ、ふじみ野文化を世界に発信していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	02 生きがい・文化・スポーツ ～うらおいのある豊かなまち～		
政策	07 スポーツ –スポーツを通して市民が元気にいきいきと暮らすことのできるまちを目指します–		
主管課	文化・スポーツ振興課	関連課	障がい福祉課、高齢福祉課、保健センター、公園緑地課、学校教育課
目標	全ての市民が生涯を通して、気軽にスポーツに親しみ健康づくりに取り組むことのできる機会の充実や環境整備を進めるとともに、スポーツを通じた地域の交流、コミュニティづくりを推進します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 子どものスポーツ機会の充実 ○乳幼児期からの発達段階に応じて子どもがスポーツに親しむことのできる機会の充実を図ります。</p> <p>(2) 生涯にわたり誰もがスポーツに親しめる機会の充実 ○障がいのある人や、高齢者をはじめとする全ての市民へのスポーツ機会の充実と環境づくりを進めます。</p> <p>(3) 地域スポーツにおける人材の育成 ○ジュニア・アスリートの発掘・育成を進めるとともに、指導者、ボランティアの育成、技術力向上を図ります。</p> <p>(4) 安全なスポーツ環境の整備促進 ○スポーツ活動やスポーツ指導における安全性を確保するため、指導者の技術及び指導力の向上を図ります。 ○既存施設の有効活用、利便性の向上などスポーツ環境の整備を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	障がい者のスポーツ事業への参加者数	目標値	160	190	220	250	280	300
実績値			162	95	0	0	100	100	
達成率			101.3%	50.0%	0.0%	0.0%	35.7%	33.3%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点		前期基本計画では、障がい者の事業参加に重きを置いていたが、今後は、障がいのある人とない人がともに参加し、実施できる事業の推進が必要。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、障がい者の方への配慮がより必要な状況となっている。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
実績値									
達成率									%
指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	週1回以上スポーツをする19歳以上の市民の割合	目標値	-	44.6	47.3	50.0	52.7	55.4
実績値			45.2	30.9	85.0	86.0	86.0	86.0	
達成率			-	69.3%	179.8%	172.0%	163.2%	155.2%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点	実績値を測るための調査をスポーツ施設等の利用者からとっているため、実情とは違う数値となっていると思われる。実績値の測り方を含め、検討する必要がある。								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	スポーツ施設利用者の満足度	64.0	67.5	71.0	74.5	78.0	80.0	%
実績値		55.4	50.1	50.5	46.6	50.0	55.0		
達成率		86.6%	74.2%	71.1%	62.6%	64.1%	68.8%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点	大規模改修の完了していない施設で満足度が低くなっている。また、全体として、「満足」、「やや満足」を合わせた割合は令和3年度で、89.5%となっていることから、利用者のニーズをとらえ、改善していく必要がある。								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	自治組織ラジオ体操実施団体数	0	0	13	15	17	19	団体
実績値		8	11	8	10	17	19		
達成率		-	-	61.5%	66.7%	100.0%	100.0%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の影響で、自治組織ラジオ体操を見送っている組織がある。しかしながら、ラジオ体操については、誰でも簡単に取り組むことができる運動であることから、コロナ禍における継続した運動の取り組みとして推進していく必要がある。								
4	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	新春ロードレース大会参加申込者数	1,960	1,960	1,960	1,960	1,960	1,960	人
実績値		1,912	1,897	0	0	1,670	1,670		
達成率		97.6%	96.8%	0.0%	0.0%	85.2%	85.2%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点	イオンタウンふじみ野開業に伴い、交通状況が変化したことから、市役所周辺コースから第2運動公園周辺コースにコースを変更した。コースの変更に伴い、10kmレースが廃止となり、目標値の再検討が必要である。								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でやむを得ない状況と思いましたが、実績が大きく下がっているため「指標の達成状況」は「順調でない」としました。 ・指標は令和元年度の後半1～3月でコロナ禍での影響が多く、低下要因としてはやむを得ないものであり、それを勘案すれば「順調」と判断する。限られた予算の中で適切に進んでいるものと評価したい。 ・問題点を抽出し、改善にも意欲的に取り組まれているようですので、その結果が次年度以降に反映されることを期待しています。 ・達成状況の把握（データの収集方法や分析）について工夫する必要があると思います。 ・スポーツ施設の満足度については、不満足な内容をなくするのは難しいように思われます。施設を閉鎖する等、強行策もあるのではと思います。 ・コロナ禍と事業年度がかがっているため、残念ながら中止・延期となっていますが、全体的には順調に進んでいると思います。さらなる政策のもと進めてください。

4 令和3年度の内部評価
<p>平成28年度から平成30年度まで積極的なスポーツ施設の基盤整備を計画的に進め、リニューアルした施設で様々な事業を展開し、周知・利用促進を行ったが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で一定の制限を設けたうえで、安全安心な施設運営に努めた。</p> <p>ソフト事業については、感染症対策や事業規模を縮小するなど事業の実施に向けた検討を行ったものの、令和2年度に引き続き、令和3年度も事業の中止をせざるを得ない状況となってしまった。</p> <p>今後は、国レベルのスポーツ大会、県内の大規模イベントが実施されていることから、感染症対策を注視できうる限りの事業を行っていく。</p> <p>令和3年度に開催した東京オリンピック・パラリンピックでは、無観客での開催となったが、日本選手の活躍は多くの感動をもたらした。また、ふじみ野市出身で東京パラリンピックボート競技に出場した八尾選手には、パラリンピック終了後、出身校で、講演会をしていただき、自身の経験、努力をすることの大切さを子供たちに伝えていただいた。</p> <p>オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、誰もがいつまでも親しめる生涯スポーツの推進やふじみ野から未来にはばたく人材を育成するとともに、整備した施設を多くの人に知っていただき、利用いただくよう、全ての人々が住みなれた「ふじみ野」で継続してスポーツに親しめるような事業展開を図っていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>令和3年度に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、スポーツにおける共生社会実現に向けた取り組みについて推進する。具体的には、障がい者のスポーツへの参画のみならず、女性や外国籍市民へも目を向けた取り組みが必要となる。</p> <p>また、令和5年度から段階的に始まる「学校運動部活動の休日の地域移行」に関して、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツ施設指定管理者等と連携し、協力体制を構築したい。</p> <p>ハード面については、大規模改修が終了した施設があるものの施設自体は築後40年を経過しているため、引き続き適切な維持管理が必要である。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	08 地域福祉 -地域で助け合って暮らせるまちを目指します-		
主管課	地域福祉課	関連課	生活福祉課、障がい福祉課、高齢福祉課、子育て支援課
目標	誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、支援を必要とする人が必要なサービスを適切に利用できるまちを目指します。また、地域で助け合い、支え合うことで、誰もが安全と安心を実感できる地域環境づくりを目指します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 地域支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会や民生委員・児童委員等の地域福祉活動を通じて、市民の相互扶助意識を高め、地域住民同士の支え合い活動を活発化し、参加を促進します。 ○地域福祉活動の推進役となるリーダーの育成を行います。 ○民生委員・児童委員が地域福祉の中核として力を発揮できるよう活動環境を整備します。 ○コミュニティソーシャルワーカーを「ふくし総合相談センターよりそい」と「ふくし総合相談センターにじいろ」(平成31年4月開設)に配置し、支援を必要とする人を地域で支えるためのネットワークを構築します。 <p>(2) 地域福祉活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様化・複雑化する福祉ニーズにきめ細やかに対応できるよう、福祉サービスに関する情報提供を行い、市民の適切な利用を支援します。 ○成年後見制度の普及啓発を図るとともに、市民後見人を養成します。 		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	目標値								
		実績値								
		達成率								%
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	2	目標値								
		実績値								
		達成率								%
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	3	目標値								
		実績値								
		達成率								%
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	目標値	0	1	1	2	2	2	人	
		実績値	1	4	4	4	4	4		
		達成率	-	400.0%	400.0%	200.0%	200.0%	200.0%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		断らない相談体制と多機関協働により、課題解決に取り組む基盤はできつつある。今後も継続して、行政や専門職の力だけでなく、幅広い横のつながりや地域との関わり方の選択肢を増やしていく必要がある。							
	成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		2	目標値							事業所
			実績値							
			達成率							%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	3	目標値								
		実績値								
		達成率							%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>			

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>生活困窮者等が抱える課題は日々複雑化し、求められるニーズは多様化している。その生活課題への支援に向け、重層的支援体制整備事業への移行準備事業に取り組み、多機関との協働による支援体制の構築や関係機関と連携した包括的な相談体制等整備を図るとともに、各種施策を有機的に活用し、施策目標の達成に向けた取組を行った。</p> <p>引き続き地域共生社会の実現に向け、公的な支援の活用のみならず、地域住民自ら主体となって解決できるための啓発活動や意欲喚起、仕組づくり等により、地域力を高めていくことを進めていく。</p> <p>市民一人ひとりが世代や背景を超えてつながり、社会から孤立せず、安心してその人らしい人生が送ることできる地域共生社会の実現に向けて、民生委員・児童委員をはじめとする多様な担い手の果たす役割は重要であり、それぞれの取組の周知等、地域福祉の中核として力を発揮できる継続した支援が必要である。</p> <p>一方で、高齢化が進み、地域の担い手の確保対策が急務となっている。地域福祉の担い手である社会福祉協議会には、市の地域福祉計画と連携する地域福祉活動計画に基づき、活動の推進及び実施主体としての事業展開が求められることから、引き続き、関係者等のネットワークづくりとともに、安定した組織運営のために連携した取組が必須である。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>引き続き、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、包括的な支援体制の構築や組織間の事業連携を図るとともに、地域福祉活動の基盤整備等、地域の課題解決力強化が求められる。</p> <p>さらに地域共生社会の実現に向けた取組を推進するため、施策達成のための指標において、それらの視点を踏まえた進捗管理を図っていく必要があることから、後期基本計画においては、コーディネーター役のコミュニティーソーシャルワーカーの配置に加え、生活支援コーディネーターの配置を設定する。</p> <p>また、多機関との連携、地域住民との支え合いの取組など、地域福祉の担い手である社会福祉協議会と連携した取組が必須である。現在策定中の第3期地域福祉計画においても、他の福祉計画と整合性を図りながら盛り込んでいく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	09 障がい福祉 – 誰もが安心して地域で暮らせる共生社会を目指します –		
主管課	障がい福祉課	関連課	地域福祉課、生活福祉課、高齢福祉課、子育て支援課、保健センター、学校教育課
目標	障がいのあるなしにかかわらず、誰もがその人にふさわしい日常生活や社会生活を送ることができ、その地域の一員として尊重され、共生社会の実現に向け、安心して生活できる環境整備を目指します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 安心して生活できる支援体制の充実</p> <p>○障がいのある人が安心して地域で生活するため、保健・福祉・医療等の各分野において、個々のニーズに合わせた複合的な支援を促進します。</p> <p>○児童発育・発達支援センター、障がい者相談支援センター及び障がい者就労支援センターの更なる連携強化を図り、包括的支援ができる体制の充実に努めます。</p> <p>○円滑に意思疎通が行えるよう、障がいの特性に応じて、利用しやすい媒体を通じた情報提供など意思疎通支援の充実を図ります。</p> <p>○成年後見制度の利用支援、権利擁護、市民への啓発及び福祉教育を推進します。</p> <p>(2) 相談支援及び就労支援の充実</p> <p>○多様なニーズに対応できる障がい者相談支援センターの体制充実や障がい者就労支援センターの体制強化、切れ目のない就労支援及び就労機会の確保、就労定着支援の充実を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		54.8	60.3	65.0	68.3	70.0	70.0	%
実績値	障害者差別解消法の認知度		-	43.7	0.0	0.0	50.0	50.0	%
達成率			-	72.5%	0.0	0.0	0.7	0.7	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		障害者差別解消法が見直され、事業者による合理的配慮が努力義務から義務に変わることもあり、市民向けに加えて事業者に対する啓発が必要となる。						
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		122	124	126	129	132	135	人
実績値	障がいのある人の就労者数		156	170	165	169	172	175	
達成率			127.9%	137.1%	131.0%	131.0%	130.3%	129.6%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		障がいの特性に合わせたきめ細やかな支援を引き続き実施する。一般就労先の拡大のために職場開拓も積極的に行うとともに障がいに対する理解や配慮が得られるような働きかけも重要である。						
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		-	-	95	105	115	125	人
実績値	障がいのある人の職場定着者数		70	88	102	120	132	145	
達成率			-	-	107.4%	114.3%	114.8%	116.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		一般就労した障がい者が継続して働き続けることができるよう、企業や関係機関等との連絡調整やそれに伴う課題解決に向けて必要となる支援を行う。障がい者雇用が進み職場定着支援の対象者が多くなる中、支援体制のあり方の検討が必要である。						

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>障がい者プランにおいては、「障がいのある人もない人も、お互いに尊重し支え合うやさしさとあたたかさ」に包まれた共生のまち ふじみ野」を基本理念に掲げ、①差別の解消及び権利擁護の推進、②地域での暮らしを支える生活支援の充実、③障がい児支援の充実、④社会参加の拡充、⑤安全・安心で暮らしやすいまちづくりの5つの基本目標を設定し、各種障がい福祉施策等を実施している。市内障害福祉サービス事業者の増加、障害福祉サービス等の充実、障がいや障がいのある人への関心や理解を促進する意識啓発活動の実施、関係機関の連携による相談支援体制の強化などの取組は「誰もが安心して地域で暮らせる共生社会の実現」に寄与している。</p> <p>今後は、障がいのある人の個々の障がい特性に合わせたより極め細やかな支援の実施となるよう、当事者や家族等の声を聞き、利用しやすい支援内容に向けて見直しを図っていく。また、障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた支援など、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために地域全体で支える体制づくりを目指していく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別の解消に向けた啓発及び合理的配慮の取組に関して市民及び事業者向けに研修等を実施し、障がいや障がい者に対する理解を深め正しい知識と理解が浸透するよう努める。 ・障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え居住支援のための5つの機能（①相談、②緊急時の受け入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくり）を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障がい者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築することが求められている。この体制づくりには、ふじみ野市障がい者総合相談支援センター内にある基幹相談支援センターが中心となり市内事業所や関係機関と連携して進めていくため、基幹相談支援センターの機能強化に向けた体制の見直しを検証する。

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	10 高齢福祉 - 高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めます -		
主管課	高齢福祉課	関連課	協働推進課、文化・スポーツ振興課、環境課、社会教育課
目標	高齢者が知識や経験を活かしながら、地域社会の中で趣味の活動やボランティア活動、就労などを通じて積極的な役割を果たし、生きがいを持っていきいきと健やかに暮らせる環境づくりを進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 趣味やボランティア、交流活動の促進</p> <p>○高齢者が地域で生きがいを持って暮らせるよう、スポーツ・レクリエーション・社会参加・世代間交流などを推進します。</p> <p>○高齢者がこれまで培ってきた知識や経験を様々な分野で活かし、ボランティア活動や地域づくりなどを通じて積極的に活動できる環境を整備します。</p> <p>○高齢者が安全に安心して活動できる拠点の確保を図ります。</p> <p>○高齢者の閉じこもりを防ぎ、積極的に地域で活動できるよう、移動手段の確保を図ります。</p> <p>(2) 就労機会の拡充</p> <p>○高齢者の就労について中心的役割を果たすシルバー人材センターと連携し、就労相談や就労機会の拡充に努めます。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
2		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	1	目標値	2,200	2,260	2,320	2,380	2,440	2,500	人	
		実績値	2,129	2,139	2,039	2,068	2,150	2,160		
		達成率	96.8%	94.6%	87.9%	86.9%	88.1%	86.4%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあってか、令和2年度に一時的に会員数が落ち込んだ。今後、感染状況の改善と外出機会の増加が見込まれ、高齢者人口がさらに増える中で高齢者の貴重な活動の場としての重要性が一層増すと考えられる。							
	2	目標値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	人	
		実績値	66,027	59,594	12,317	22,563	54,250	54,600		
		達成率	94.3%	85.1%	17.6%	32.2%	77.5%	78.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	令和2、3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設の利用制限があったことから、大幅に利用者数が落ち込んだ。今後、感染状況が改善し施設の利用制限等がなされれば利用者数は漸次的に感染拡大前の水準に戻っていくと考えられるが、感染拡大状況の見通しが不明なため、今後の再拡大の可能性も踏まえた数値とする。							
	3	目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	人	
		実績値	168,777	152,833	69,157	101,405	124,041	124,800		
		達成率	105.5%	95.5%	43.2%	63.4%	77.5%	78.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	令和2、3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により休館及び利用制限での営業、送迎バスの再開など様々な工夫をしつつ営業してきたが、大幅に利用者数が落ち込んだ。令和4、5年度見込み数については、新型コロナウイルス感染が終息に近い状況にならないとコロナ禍以前の利用者数には戻らないとの推測を踏まえた数値とする。							

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	A
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づく事業が概ね順調に進められている。令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種を推奨するためお出かけサポートタクシーの台数を9台体制として利用促進を図った。</p> <p>また、大井総合福祉センターでは経年劣化に伴う大規模改修工事で全フロアの空調の更新工事、1階旧デイケアセンターの改修工事を行った。1階旧デイケアセンターの改修工事後、『ふじみんびんしゃんホール』として、市内西側地域の介護予防の拠点として事業展開を開始した。</p> <p>引き続き、ライフスタイルの多様化などに対応した高齢者の生きがい・満ちた生活・地域づくりに向け、時代のニーズを把握し、工夫しながら事業展開を行う必要がある。誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることのできる地域社会の構築のため、既存のサービスの検証を進めながら支援体制の充実を図る。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>社会参加の場や就労の場の活発化は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況に大きく影響される。緊急事態宣言等の行動制限が発せられた場合には成果指標は大きく落ち込むことが予想され、感染状況が改善して行動制限や施設の利用制限が撤廃されたとしても、直ちに社会参加や就労の場に戻ってくるとは限らず、回復は漸次的である可能性がある。そのことを見越した上で、衛生面の安全管理体制を一層充実させ、感染拡大前と同様に日常生活・社会生活の場において各種の社会資源が重要な役割を果たすことができるよう努めていく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	11 子育て支援 -子育てする喜びであふれる笑顔を増やします-		
主管課	子育て支援課	関連課	障がい福祉課、保育課、保健センター、学校教育課、社会教育課
目標	安心して子育てができ、子どもと共に成長する喜びを感じられるよう、子どもに関わる総合的な支援体制の充実や子育てに有効な様々なサービスを展開し、「親育ち・子育て」を応援します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 子育て支援拠点の充実</p> <p>○子育て支援拠点の核となる子育て世代包括支援センターにおいて、妊娠期から子育て期にわたるまでのサービスの充実と更なる質の向上に努めます。</p> <p>○子どもの健やかな成長を支援するため、仲間との遊びや交流・学習機会を通じて豊かな心を育む居場所づくりの拠点として、児童センターや放課後児童クラブの充実を図ります。</p> <p>(2) 地域で支え合う子育て支援体制の構築</p> <p>○各関係機関や地域と一体となって、児童虐待ゼロのまちを目指します。</p> <p>○地域で子育てを応援する機運の醸成と子育て支援ネットワークの強化を図ります。</p> <p>○地域における様々な子育て関連団体の活動を通じて、青少年健全育成を推進します。</p>		

1 施策指標と達成状況

	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	家庭児童相談室利用件数（延べ件数）	目標値	700	700	720	725	730	735
実績値			875	686	785	741	730	735		
達成率			125.0%	98.0%	109.0%	102.2%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	実績値から一定の需要があることが判断できることから、家庭児童相談室の運営の継続が必要である。相談内容が多岐にわたり適切な指導援助を行う必要があることから高度な専門性を有する相談員が対応するため、相談員の雇用の安定化が課題である。							
2		指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標		1	子育てコンシェルジュ事業の利用者満足度	目標値	70.0	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0
	実績値		100.0	100.0	100.0	97.0	78.0	80.0		
	達成率		142.9%	138.9%	135.1%	127.6%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	満足度調査については、アンケート項目内容の再検討を行い、利用者の要望をより明確にしたため、令和3年度は97%の実績となった。引き続き、利用者の要望を聞き取れる項目を取り入れ、事業内容の充実とともに利用者満足度が向上し、利用者の増加に繋げていくことが課題となっている。							
	2	放課後児童クラブ利用者満足度	目標値	80.0	81.0	82.0	83.0	84.0	85.0	%
		実績値	85.7	79.7	85.8	84.6	84.0	85.0		
		達成率	107.1%	98.4%	104.6%	101.9%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	利用者満足度については、満足と回答した方が概ね80%以上を継続しているところである。今後も80%以上を維持できるように、支援員との関わりや保育内容の充実に向けた取り組みを強化していく必要があるが、指定管理者の業者変更により、満足度が例年より低くなっていく傾向があることが課題である。							
	3	要保護児童対策地域協議会での審議児童数	目標値	140.0	136.0	132.0	128.0	124.0	120.0	件
		実績値	119.0	121.0	163.0	241.0	124.0	120.0		
		達成率	117.6%	112.4%	81.0%	53.1%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	保護者による体罰の禁止、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者の通告義務など児童虐待が周知され、協議会での審議児童数は年々増加している。また、審議児童は、保護者の養育を支援することが特に必要と認められる児童のため、支援を終結するという判断が難しく、審議児童数減少を図ることが困難であることが課題である。							
	4	子育て応援手帳YELL読書後、子育てに参加しようと思った父・祖父母の割合	目標値	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%
		実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
		達成率	111.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	子育て応援手帳の内容について、子育てに参加に役立つアンケート回答した方は、発行当初から100%を維持している。今後も100%維持を見込むが、アンケートの回収率が年々減少しているため、冊子の増刷及び子育て支援施設における配布を促すなど、回収率を伸ばしていくことが課題となっている。							

2 評価

内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	A	A	B	A
	外部評価結果	A	-	B	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋

- ・大変難しい課題に多面的かつ積極的に取り組まれていることを確認いたしました。子育てコンシェルジュなど対応される現場の方のモチベーション維持・向上にも留意しながら、施策の継続・発展となることを期待します。
- ・重点プロジェクトの「子育てするならふじみ野市プロジェクト」を達成する為の取組が進んでいると実感しました。頑張ってください。
- ・全ての施策について幅広い見地を要する事業です。子育ては、将来の日本の宝というべき人材です。子どもを安心して育てられる環境づくり等を進めてください。
- ・施策目標の実績値に表れない多くの実績を知りました。今後も時代に沿った柔軟な子育て支援へ取り組んでください。
- ・課題が増える中、コロナ禍もあって苦労されていると推察します。公立の発達支援施設ができることは、子育て支援に力を入れる本市にとって、重要な前進だと思います。

4 令和3年度の内部評価

核家族化及び少子高齢化という時代の趨勢に伴い、近年における子育て環境の変化は著しいものがある。この環境変化がもたらす子育て世代への影響は、決して一部にとどまるものではなく、国全体として社会問題化しており、本市においても取り組むべき大きな課題となっている。

大きな視点で言えば、主に育児の担い手となっている「母親の孤立化」による不安感の増大傾向が激しい中、様々な問題が引き起こされていることから、本施策ではその子育てしづらい環境の世帯に対し、積極的に寄り添い、支援を行うことにより、『子育ては大変なことばかりではなく喜びも感じることもできるやりがいのあるもの』という思いを享受し、笑顔を増やすことができるよう支援するものである。

具体的には、各子育て支援拠点の充実により身近な地域での拠り所を整備するとともに、こども・元気健康部として同セクションに属する保健センターと連携・協力することにより、妊娠期から子育て期までまさに切れ目のない「寄り添い型」の支援展開を図っており、発育・発達支援に係る相談等においても、早期発見・早期療育といった理想的な支援体制を確立し、安心子育てのための総合的支援体制の充実を図っている。

※児童発育・発達支援センターの公設化により、センターに求められてきた基幹的施設としての機能と併せ切れ目のない相談支援及び個別療育等のいわゆるグレーゾーンのお子さんに対する支援を強化していく体制が整った。

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理

<p>施策全般の課題・論点の整理</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、妊産婦をはじめ、乳幼児を子育て中の方が施設等に出向くことができず、さらに他者との接点が少なくなり、気軽に相談できる人がいないなど、妊娠、出産、子育ての過程においても大きな変化が起きている状況であることから、保健センターとの連携による子育て世代包括支援センターとしての役割を強化し、個別のニーズに寄り添い、妊娠期から子育て期の切れ目ない相談支援を今後も継続的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>また、令和4年4月から児童発育・発達支援センターが公設化したことで、発達総合相談支援を主とした基幹的機能が整ったことから、今後市内の保育園、幼稚園、小中学校、児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所等の関係機関が連携することにより、市全体での支援体制強化が図られることを主眼に置き、ふじみ野市児童発育・発達支援センター運営審議会の意見を踏まえながら、センター運営を考えていく必要がある。</p>
----------------------	--

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	12 保育 – 子育ても仕事もガンバル保護者を応援します –		
主管課	保育課	関連課	障がい福祉課、子育て支援課、保健センター、学校教育課
目標	保育を必要とする子育て家庭が、安心して子育てができ、育てる喜びも感じられるよう、関係機関と協議・調整を図りながら、多様化する保育需要に対応した保育環境の整備を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 保育基盤の確保・充実 ○保育所、認定こども園等への民間事業者の誘致により待機児童の解消に努めます。 ○民間事業者の能力を活用した特定教育・保育施設等の運営を促進し、多様な保育の場の提供を進めます。 (2) 保育人材の育成及び保育の質の向上 ○個々の保育ニーズを的確に捉え、保育園の健全運営の支援と質の高い保育の維持・向上に努めます。 ○小学校との連携や発育・発達に関する専門的支援の充実を進めます。 ○保育士の専門性を高める研修などを充実させ、適切な人材育成・配置に努めるとともに、安定した教育・保育の提供体制を確保します。		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
1	保育所待機児童数		0	0	0	0	0	0	人
	実績値		5	2	5	1	3	0	
	達成率		-	-	-	-	-	100.0%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点		近年待機児童数については低水準で推移しているが、待機児童数0には至っていない。受け入れ枠に空きがある保育所もあるため、保護者の選択肢に挙がるような選ばれる保育所を増やすため、更なる保育の質の向上を進めるとともに、引き続き各家庭の保育ニーズに合った適切な情報提供に努め待機児童の解消を図る。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	病児・病後児保育実施箇所数		3	3	4	4	4	5	箇所
	実績値		3	3	3	3	5	5	
	達成率		100.0%	100.0%	75.0%	75.0%	125.0%	100.0%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点		令和4年度で目標数値を達成する見込みである。							
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	A	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>待機児童ゼロ指標は、様々な施策を講じてきた結果、現在に至る成果と思えます。まだまだ、先の読めない部分があると思いますが、さらなる方策によって住んでよかったふじみ野市を造ってください。</p> <p>現在の達成状況を高く評価します。引き続き、目標達成を継続できるようお願いします。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>子育て世代にとっては大変重要である本市の待機児童数については、直近の数値(4月1日現在)で「3人」と低水準で推移している状況である。これも偏に、平成26年度以降、積極的に民間保育園の誘致に取り組んできたことが実を結び、成果へと繋がっているものと考えられる。このように本市としては、保育の受け皿が整ってきている状況であるため、現状においての目標は、公立の保育所も含めた全28か所の保育施設すべての『更なる保育の質の向上』である。これを具現化するため、様々な取組みを実施し、特に、過年度において実施した保育専門コンサルタントによる『保育運営等巡回相談業務』を通じ本市の職員も専門的な知識を得て指導監査に生かしている。また、入所選考事務におけるAIを本格稼働し、保育入所者の満足度の向上とともに保育利用者支援を充実させ質の向上を目指している。さらにAIOCRの導入にも取り組みさらに事務効率化を進めた。今年度も国の感染予防支援策を活用しコロナ感染予防対策の徹底を図り社会機能維持に必要な就業を支えるべく保育所運営の継続につなげた。前期基本計画《前期重点プロジェクト》の一つである『子育てするならふじみ野市プロジェクト』の中核を担う本施策については、現状において順調に流れているが、待機児童対策は勿論のこと、今後においても様々な取組みに挑戦しつつ、更なる安全・安心の保育環境を目指していくものである。※病児・病後児保育実施箇所数については、新たに誘致した認可保育所が令和4年度に開所し病児・病後児保育事業も同時に運営を開始している。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>近年待機児童数については低水準で推移しており、これも平成26年度以降積極的に民間保育所の誘致に取り組んできた成果である。ただし、保育の受け皿が整ってきた状況であっても目標である待機児童数0には至っていないことから、受け入れ枠に空きがある保育所も含め保護者の選択肢に挙がるような選ばれる保育所を増やす必要がある。そのためには、保育所への立ち入りや指導監査、情報共有、交流等の連携を図り、共通の課題や問題意識を持ちながら、更なる保育の質の向上を目指していくことが必要である。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
政策	13 生活支援 -生活安定の推進を目指します-		
主管課	生活福祉課	関連課	地域福祉課
目標	生活に困窮している市民に対して生活を保障し、自立に向けた支援を行うため、適切な就労促進や生活支援を推進します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 相談支援体制の充実</p> <p>○生活困窮者自立支援制度に基づいた、専門の支援員による相談窓口機能の充実を図ります。</p> <p>○地域で生活に困窮している市民やその取り巻く環境などを、地域の社会資源や市民の参画を得ながら早期に把握し、相談・助言業務の充実を図ります。</p> <p>(2) 生活安定への支援</p> <p>○生活保護世帯及び生活困窮者の実情を十分把握し、適切な相談・指導などにより世帯の自立を促進します。</p> <p>○生活保護制度の適正な運営のため、不正受給の防止や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進などに取り組みます。</p>		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		45.00	46.00	47.00	48.00	49.00	50.00	%
1	実績値	生活困窮者自立支援プラン作成割合	41.00	46.02	29.00	28.10	30.00	30.00	
	達成率		91.1%	100.0%	61.7%	58.5%	61.2%	60.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	多様な支援とつながる相談窓口機能の充実により、相談者は増加している。今後も複雑化したニーズに対応するため、新規プラン作成のみではなく、再プラン作成も指標の対象とするなど、より効果的な指標の在り方を検討していく必要がある。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		22	22	22	22	22	22	世帯
2	実績値	就労による生活保護自立世帯数	26	10	19	11	12	15	
	達成率		118.2%	45.5%	86.4%	50.0%	54.5%	68.2%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	生活に困窮する市民の自立を支援する指標となるため、継続して自立世帯数を把握し、就労支援に繋げていく必要がある。なお、就労支援事業の効果について、就労自立世帯数を通じて明確にしていく。							
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%
3	実績値	被保護世帯の高等学校等卒業後の進学率及び就職率	89.0	100.0	100.0	82.0	100.0	100.0	
	達成率		89.0%	100.0%	100.0%	82.0%	100.0%	100.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	被保護世帯の自立を支援する指標となるため、継続して進学率及び就職率を把握し、世帯への適切な助言に繋げていく必要がある。							

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>生活困窮に関する相談（新規、継続等）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、相談者は増加した。また、相談内容や相談者が抱える複数の課題に支援者が密接に関わる必要性が高まり、課題解決に時間を要するため、相談支援体制の強化は必須となっている。</p> <p>相談者を取り巻く生活環境は多様化し、社会経済情勢等が相まって、年々被保護世帯は増加傾向にあり、対応する職員数や組織等の拡充とともに、知見の蓄積や知識の習得等が必要である。</p> <p>引き続き、継続した体制の充実や関係機関との連携を図り、相談者が自立可能な支援へつなげていく。</p> <p>また、レセプトデータ活用により、頻回受診者の指導や後発医薬品の使用促進について、引き続き被保護世帯や医療機関等に対して啓発活動を継続して行っていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>昨今の社会経済情勢から生活困窮世帯及び生活保護世帯は、増加傾向にある。生活困窮者等に関する相談については、個々の相談内容や相談者が抱える課題が複雑化し、複数の支援者や関係機関が連携し密接に関わる必要性が高まっている。</p> <p>また、新規の相談に加え、長期に渡り、継続して相談支援が必要な相談者の増加により、課題解決や生活の安定までに時間を要することから、相談支援体制の強化は引き続き必須となっている。</p> <p>生活保護世帯の自立助長にあたっては、就労や学習の意欲向上とともに社会資源を活用した支援が不可欠である。そのため、就労自立可能な稼働年齢世帯を把握し、継続的な就労支援により安定した就労に結びつける必要がある。</p> <p>また、高等学校3年生在籍世帯からの進学及び就労に向けては、学習支援や学校の進路指導などの積極的な活用を促し、ケースワーカーの適切な助言を通して、自立助長を支援していく必要がある。</p> <p>そのことから、施策達成のための指標として、それらの視点を踏まえた業務遂行を図っていく必要があることから、後期基本計画においても、当該施策を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
政策	14 保健・医療体制 –生涯にわたる保健活動の充実と地域医療体制の充実を目指します–		
主管課	保健センター	関連課	保険・年金課、高齢福祉課、子育て支援課
目標	市民一人ひとりがいつまでも元気で健やかに暮らし続けるために、各ライフステージに応じた保健活動の充実を図ります。また、医療機関と連携を図り、市民が必要とする保健・医療サービスが受けられるよう、地域の医療体制の充実を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 保健対策の推進</p> <p>○医師会、歯科医師会等との連携・協力体制を強化し、乳幼児健康診査、がん検診、特定健康診査などの受診率向上と生活習慣病予防対策を推進します。</p> <p>○関係機関との連携の下、母子保健対策や食育の推進、歯科口腔保健対策等の体制整備・充実を図り、ライフステージに応じた取組を推進します。</p> <p>○感染症を予防するための予防接種を充実するとともに、新種の感染症の予防と蔓延を防止するため、市民への適切な情報提供を行います。</p> <p>(2) 地域医療体制の充実</p> <p>○医師会、歯科医師会等と連携し、地域医療体制や初期救急医療体制の整備・充実を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況											
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	活動指標	1	成人歯科健診・妊婦歯科健診受診者数	目標値	400	420	440	460	480	500	人
実績値			451	456	414	407	417	427			
達成率			112.8%	108.6%	94.1%	88.5%	86.9%	85.4%	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点			コロナ禍において歯科口腔の健診の受診率は低下傾向にあるが、今後受診率向上のため周知・啓発を行い、成人歯科健診・妊婦歯科健診どちらも受診率の向上を目指す必要がある。								
2		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値									
		実績値						-	-		
		達成率						-	-	%	
3		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値									
	実績値						-	-			
	達成率						-	-	%		
成果指標	1	4か月児健康診査未受診者実態把握率	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	
		実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
		達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%		
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	乳幼児期における疾病や発育・発達の問題を早期に発見し、適切な医療及び支援につなぐことは、健やかな成長発達において重要である。また、妊娠前から切れ目のない支援を行なう為にも、出生後初めて行われる4か月児健康診査における未受診者の実態を把握することは虐待予防の観点からも重要性がある。								
	2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		がん検診受診率(平均受診率)		目標値	22.50	23.00	23.50	24.00	24.50	25.00	%
		実績値		23.53	22.72	21.32	19.36	19.36	19.36		
		達成率		104.6%	98.8%	90.7%	80.7%	79.0%	77.4%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		がんの早期発見・早期治療の上でがん検診は重要な事業であるが、受診率が低下傾向にあり、受診率向上のための効果的な取組みが必要である。								
	3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
目標値											
実績値						-	-				
達成率						-	-	%			
指標における課題・後期基本計画策定における論点											

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	C	B
	外部評価結果	A	—	B	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	—	A	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	—	A	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	A	—	A	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>・コロナ対策においては、ふじみ野市では最高の対応を図り、市民の命を守っています。今度もオミクロン株等の対応もあります。引き続き行政施策をもって対応してください。</p> <p>・医療機関との連携を中心に、迅速で効果的な施策を打たれていると認識しています。引き続き、状況変化への柔軟な対応など取組の継続を期待します。</p> <p>・コロナ禍による影響を考えると、目標値の未達成も致し方ないのかなと思いました。一方で、コロナ禍によって生まれた成果（医療連携など）もありました。今後の財産にしていだければと思います。</p> <p>・コロナ禍の中、今までの取組を活かして実績を挙げられたと思います。特に医師会との「連携」は高い評価に値すると思います。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>本施策展開については、医師会及び歯科医師会との『強力な連携』無くしては成り立たない。各種がん検診や乳幼児健康診査等、様々な事業実施において、本市との良好な関係構築が図られていることから、継続的にスムーズな事業運営が展開できている状況である。保健センターでは、各ライフステージに応じた取組みを充実させるため、前例踏襲的な態勢ではなく、常に市民にとって有効且つ成果が期待できる事業展開を模索しており、令和2年度には県下初となる緑内障検診を導入した。令和3年度の受診率は、21.39%と昨年度（21.70%）と同水準の実績となった。各種がん検診についてはコロナ禍の中で苦労した1年間であり、対象とする年齢に受診勧奨に努めたが、受診率の低下に至ってしまった。平時における施策推進とは異なることから、現状を受け止めるしかないと考え。一方で、コロナ禍を背景に妊婦に対する様々なアプローチを行った結果『産後ケア事業』については令和元年度実績ゼロから、令和3年度は10名の利用実績に繋がった。また、令和3年度より多胎児のいる家庭に育児の支援を行なうヘルパーを派遣する「多胎産婦サポーター事業」を開始し、育児負担の軽減を図った。新型コロナウイルスワクチン接種も含め、本施策はコロナ禍において大変重要な施策であり、本市医師会並びに歯科医師会との緊密な連携体制を強化するものとしている本市においては、この体制を継続確保していきたいと考える。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>コロナ禍での生活変化により生活習慣病リスクが高まること大きな課題となっており、各ライフステージに応じた健康管理が必要となる。また、疾病の早期発見・早期治療に繋がる各種健（検）診受診率の向上も喫緊の課題である。特にコロナ禍においては受診控えも見受けられたことから、受診率向上に向けた対策を講じる必要がある。</p> <p>接種の必要なワクチンの種類も増加傾向にある中、市民が正しい知識を持って安全に予防接種が受けられるよう、予防接種の効果や副反応・健康被害のリスクなど科学的根拠に基づく情報提供に努めることに併せて予防接種に対する不安や疑問を相談できる体制づくりを積極的に進めていく必要がある。本施策を円滑に進めるために、医師会や歯科医師会との連携・協力体制を強化し、市民が必要とする保健・医療サービスが受けられるよう、地域の医療体制の充実を図っていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
政策	15 健康づくり –生涯を通じた健康づくりを支援します–		
主管課	保健センター	関連課	保険・年金課、文化・スポーツ振興課、高齢福祉課、子育て支援課、学校教育課、学校給食課
目標	市民自らが主体的に健康管理を行うことのできる環境をより一層充実させ、元気・健康による好循環のまちを実現します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 健康づくりの推進</p> <p>○市民が主体的に楽しみながら取り組める健康づくりへの支援を強化します。</p> <p>○市民の健康寿命の延伸や健康格差の解消を図るため、健康づくりの柱となる生活リズムの確立、生活習慣病の予防、栄養・食生活、身体活動・運動、休養、歯・口腔の健康に関する事業などをライフステージごとに展開します。</p> <p>○市民が望ましい食生活を送れるよう食育の普及啓発を推進します。</p> <p>○心の健康づくりとして、市民が孤立しないよう身近な人々を見守るゲートキーパー養成をはじめとする自殺予防のための普及啓発を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	保健推進員が活動する自治組織数	目標値	52	53	53	54	57	57	自治組織
実績値			55	53	54	53	54	55		
達成率			105.8%	100.0%	101.9%	98.1%	94.7%	96.5%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点		保健推進員は地域と保健センターのパイプ役として、地域住民の声を届けたり、保健事業を地域において紹介したりと必要な役割を担っている。地域ごとのつながりを支えに、市民自らが主体的に健康管理に取り組むためにも、保健推進員の役割は今後も重要性が増してくる為、活動の継続が必要である。								
2		元気・健康メニュー協力店認定数	目標値	10	11	12	13	14	15	店舗
			実績値	10	9	9	9	9	9	
	達成率		100.0%	81.8%	75.0%	69.2%	64.3%	60.0%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、飲食店では営業が難しい日々が続いてため、協力店舗の増加が難しい状態になっている。今後、感染状況などを踏まえた上で、協力店舗の増加を目指して市内飲食店へ呼びかける必要がある。									
3	ゲートキーパー養成者数	目標値	950	1,000	1,050	1,100	1,150	1,200	人	
		実績値	955	1,009	1,047	1,195	1,245	1,295		
		達成率	100.5%	100.9%	99.7%	108.6%	108.3%	107.9%		%
指標における課題・後期基本計画策定における論点	自殺対策において恒常的な普及啓発事業の実施は必要不可欠であり、市民が孤立しないよう身近な人々を見守るためのゲートキーパー養成についても継続する必要があるため、後期基本計画においても引き続き実施していく。									
成果指標	1		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	2		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	3		目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	A	B	B	B
	外部評価結果	—	A	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	B	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>・生涯を通じて元気・健康は個人の目標とも言えます。目標値に向かって一步一步成果が上がっていると思います。今後も様々な施策を講じて健康宣言を進めてください。</p> <p>・意欲的な取組みがなされていると思います。ただ、元気健康メニューの取組みも市独自のものとして、あるいは地域の活性化という視点でもさらに発展させていただければと思います。</p> <p>・施策目標の結果を具体的な活動成果に結びつけることを期待しています。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>「元気・健康マイレージ事業」は、平成28年度から開始した事業である。当初は3年間の実施を予定していたが、「元気・健康都市宣言」を发出している本市においては、継続した事業展開が必要であると考え、インフラ整備した機器等を引き続き有効に活用していくことに併せ、平成28年度からの参加者についても継続して参加できるよう、制度設計を一部見直し、事業を展開している。参加者についても年々増加し、令和3年度は約4,900人も規模となり、本事業を通して市民の健康志向の高まりや定着が伺えることから、ある程度軌道に乗った事業展開がされているものとする。なお、本事業の取組について、県内市町村の健康長寿に係る先進的な取組として、令和元年度の「優秀賞」、令和2年度の「優秀賞」に続き、令和3年度も「特別賞」を受賞し、県から保険給付費等交付金として、300万円の交付を受けることができた。</p> <p>健康づくりは「からだどころ」「食」「健(検)診」「運動」「歯」といった様々な分野からの多角的なアプローチが必要である。コロナ禍において様々な行動が制約されている中、生涯を通じた健康づくりを支援するために何を成すべきかについて、すべての分野を包含した『ふじみ野元気・健康プラン』に基づき、行政として医師会や歯科医師会との連携を深めながら取組んでいく必要があると考える。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>現行の「ふじみ野元気・健康プラン」を見直し、令和5年度までの2か年をかけて第2期ふじみ野元気・健康プランの策定を進めていく上で、分かりやすく、具体性のある目標やプランを設定する必要がある。特にアフターコロナを見据え市民一人ひとりが健康づくりに関心をもち、継続して取り組むことができるような計画とする。</p> <p>また、コロナ禍において地域活動が縮小されている中で、地域の健康づくりを推進するため、担い手となる人材の育成や市民グループへの支援などを通して、主体的かつ継続的な健康づくり活動を促進するとともに、相互のネットワーク化を図り、地域全体に健康づくりの輪を広げていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
政策	16 医療保険 – 国民健康保険・後期高齢者医療制度の安定運営に努めます –		
主管課	保険・年金課	関連課	収税課、福祉課、保健センター
目標	国民健康保険制度及び後期高齢者医療制度については、県や埼玉県後期高齢者医療広域連合との連携の下、健全な運営や財政安定化に努めるとともに、健診や健康づくりに取り組む。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 国民健康保険・後期高齢者医療制度の健全運営</p> <p>○県と共同運営による国民健康保険については、連携しながら安定的な運営を図る。</p> <p>○埼玉県後期高齢者医療広域連合と連携し、医療保険制度の動向を注視しつつ、高齢者医療制度の円滑な運営を図る。</p> <p>(2) 地域との連携による保健・医療体制の推進</p> <p>○国民健康保険被保険者や後期高齢者医療保険被保険者に対し、各種健診、健康相談などを引き続き行う。</p> <p>○生活習慣病の早期発見や予防を継続して実施し、保健事業の普及や特定健康診査の受診率の向上を図る。</p> <p>○被保険者の負担軽減及び医療保険財政の改善のため、後発医薬品（ジェネリック医薬品）への切り替えを推進する。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	特定健康診査受診率	目標値	46.5	46.6	46.7	46.8	46.9	47.0
実績値			47.9	46.8	42.1	43.9	48.0	48.0		
達成率			103.0%	100.4%	90.1%	93.8%	102.3%	102.1%		
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	国保被保険者が特定健診を受診することで、自らの健康状態を把握し生活習慣病の予防・健康の保持増進に繋がりを、国民健康保険の医療費適正化を目指す。							
2		特定保健指導実施率	目標値	42.2	42.2	42.4	42.6	42.8	43.0	%
		実績値	29.7	32.0	23.2	30.1	30.0	30.0		
		達成率	70.4%	75.8%	54.6%	70.6%	70.1%	69.8%		
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	内臓脂肪の蓄積に起因した生活習慣病の発症・重症化予防が目的であり、引き続き実施率の向上に努め、被保険者の健康の保持増進をめざす。効果的な利用勧奨と特定保健指導該当者を減らす取組みの検討が必要である。							
3		ジェネリック医薬品の使用率	目標値	69.40	72.90	76.40	80.00	80.00	80.00	%
	実績値	78.30	77.38	79.90	80.50	82.00	82.00			
	達成率	112.8%	106.1%	104.6%	100.6%	102.5%	102.5%			
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	医療費の適正化について被保険者へ周知啓発を行い、後発医薬品の利用により被保険者の負担軽減や医療保険財政の健全化を図る。								
成果指標	1	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値								
		実績値					-	-		
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値								
		実績値					-	-		
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
目標値										
実績値						-	-			
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	B	-	A	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	B	-	A	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>実情に則してよく取り組まれていると思います。</p> <p>コロナ禍の中でも目標数値に対し概ね順調に推移しており、大きな効果が得られていると評価する。</p> <p>保健指導やジェネリック医薬品の使用拡大においては、対象者の個別事情を考慮した取組となるような注意も必要と考えます。</p> <p>市民の健康づくりのために様々な努力されていることが分かりました。最終的には、健康指標のようなものがあって、市民の健康づくりが進んでいることが可視化できると、本当の意味で取組の成果が見えるのではないかと思います。</p> <p>コロナ禍で国民健康保険税未納者の増加と生活習慣病が増えることも考えられますので、今後の施策に期待します。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>平成30年度からの広域化に伴う埼玉県国民健康保険運営方針等に基づき、安定的な健康保険事業の運営に努めている。</p> <p>特に国民健康保険被保険者のジェネリック医薬品使用率については、差額通知の発送等により目標及び県内市町村平均を上回る使用率となり被保険者の負担軽減及び保険者財政の改善に資する結果となった。特定健康診査については東入間医師会、富士見市、三芳町と協議し、令和3年度から自己負担（1,000円）の無料化を実施した。特定健康診査受診率については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度実績と比較すると受診率が低下したもののコロナ禍の影響を受けた令和2年度の実績よりも1.8%増加しており（令和4年4月時点）、県内でも上位の受診率を維持継続している。被保険者の健康増進に向けて、受診率の向上対策（特に40歳代50歳代など）について具体的な方策を検討していく必要がある。</p> <p>また、特定保健指導実施率は積極的な利用勧奨を控えた影響もあり低下していたが、今年度は利用勧奨を実施し、前年を上回る結果となった。目標達成に向け、引き続き実施率等の向上に努める。引き続き市民の健康を守り安心な暮らしを支えていくため、後期高齢者医療保険制度も含め健康増進、疾病予防及び医療費の適正化を図るとともに、病気やけがなどに備えた医療保険制度の健全かつ安定的な運営に努めていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>構造的な問題（年齢が高く、医療水準が高い。低所得者が多い。小規模保険者が多い。）を抱えた国民健康保険制度及び後期高齢者医療制度を持続可能な医療保険制度とするため、今後も活動指標に基づく事業を継続して進める。</p> <p>特定健康診査受診率、特定保健指導率ともに県内平均と比較し上回っているものの、厚生労働省が示す目標受診率からはかい離している状況にあることから、事業の分析、評価を行い実効性を確保していく必要がある。また、ジェネリック医薬品の推奨、重症化予防事業の実施等を図り、健康寿命の延伸や医療費適正化、さらには保険財政の安定化を推進していく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
政策	17 介護保険（生活支援） – 住み慣れた地域で支え合いながら暮らせるまちを目指します –		
主管課	高齢福祉課	関連課	福祉課、福祉総合支援チーム、障がい福祉課、保健センター
目標	高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいを柔軟に組み合わせて提供する仕組みづくりである「地域包括ケアシステム」の構築を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 生活支援・介護予防サービスの充実</p> <p>○高齢者が日常的・自主的に取り組む地域ぐるみの介護予防活動を推進し、また、高齢者を含む多様な主体による生活支援活動を推進します。</p> <p>(2) 高齢福祉・認知症施策の推進</p> <p>○一人暮らしなどの高齢者に対し、見守り・安否確認や緊急時における対応に関する事業の周知と啓発を推進します。</p> <p>○認知症への正しい理解の啓発に取り組むとともに、認知症ケアの向上に向けた取組を推進します。また、成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用に向けた啓発を行います。</p> <p>(3) 在宅医療・介護連携の強化</p> <p>○高齢者の在宅生活を支えるため、在宅医療と介護の連携体制を構築し、定期的な情報共有・課題検討の実施や地域医療・介護相談室の運営などを通じて連携を強化します。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	認知症サポーター数	目標値	9,000	9,900	10,800	11,700	12,600	13,500
実績値				10,701	12,460	14,018	14,952	15,955	17,354	
達成率				118.9%	125.9%	129.8%	127.8%	126.6%	128.5%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			認知症サポーターを増やすための「認知症サポーター養成講座」を継続的に開催していく必要がある。また、養成修了者が実際に活動する場を設けることについても検討する。							
2		介護予防センター累計登録者数	目標値	–	900	1,200	1,400	1,510	1,680	人
			実績値	–	1,080	1,280	1,495	1,691	1,898	
			達成率	–	120.0%	106.7%	106.8%	112.0%	113.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	介護予防センターは市の介護施策の中核となる機関であり、普及啓発により一層の登録者数増が見込まれる。今後は一層の広報を行うとともに、内容的にも日々行われるプログラムをさらに充実させる等して、増加する登録者・利用者のニーズに十分に答えていけるよう努めていく必要がある。							
3			目標値							
			実績値					–	–	
	達成率						–	–	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	ふじみん見守りネット登録事業所数	目標値	80	81	82	83	84	85	事業所
			実績値	70	100	109	111	114	119	
			達成率	87.5%	123.5%	132.9%	133.7%	135.7%	140.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	地域包括ケアシステムにおいて地域での見守り体制は極めて重要であり、今後も登録事業所の増加が望まれる。							
	2		目標値							
			実績値					–	–	
			達成率					–	–	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3		目標値							
			実績値					–	–	
達成率							–	–	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	—	A	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	B
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	B	—	—
施策の効果	内部評価結果	A	A	B	B
	外部評価結果	—	A	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・指標についても順調に推移しており、引続き各種事業を実施していただいたい。 ・市と地域住民や企業が連携して高齢者の支援をものないよう進めていただければと思います。 ・介護予防ならびにその対応に確実に取り組まれていると思います。引続きよろしくお願いします。 ・デジタル環境の整備という課題はありますが、将来的にICTを活用した見守りネットワークが必要になるのではと考えます。 ・指標にあげられている数値は向上していることがわかり「公助」の部分の拡大がなされていると理解しました。今後は質の部分が重要な課題になってくるものと思われれます。 ・個人情報保護のため情報がなく手助けできる場合で見逃してしまう場合がたくさんあると思われる。本人と確認のうえ、情報を伝える方法を考えるべきだと思います。

4 令和3年度の内部評価
<p>地域包括システムの構築に向け、市が直接実施する各種事業のほか、委託先の地域包括支援センターを核として順調に事業を展開しており、今後も引き続き実施していく。</p> <p>介護予防事業については、介護予防の拠点として介護予防センターで、様々な介護予防事業や情報発信を行い、多くの市民の利用が図られた。新型コロナウイルスが蔓延する中、感染対策を行い、住民主体の通いの活動の支援もを行い、新たに男性のみの通いの場が県内初の取組として、1か所創設された。今後も新たな通いの場の立ち上げ等を支援していく。</p> <p>また、成年後見センターでは、高齢者の権利擁護の有効な手段である成年後見制度の周知と利用促進の取組のため、『司法書士によるあんしん後見相談』『行政書士・社会福祉士による無料相談』『弁護士による成年後見講演会』『単身世帯高齢者向けのアンケート』『職能団体等との連絡会』等を実施した。</p> <p>認知症対策については、『認知症サポート医による認知相談』『認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座』『9月のアルツハイマー月間ではイオンタウンふじみ野での普及啓発のイベント』『認知症講座』等、各種事業を実施しており、高齢化の進展の中で引き続き認知症対策を推し進める必要がある。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>「地域包括ケアシステム」を構築していくにあたり、介護予防センター等のハード面の整備と、認知症サポーターの養成等のソフト面の整備の両者を両輪として推進していくことが必要である。</p> <p>特に介護予防センターについては地域包括ケアシステムの中核的な推進役としての役割が期待されており、今後も介護予防活動の拠点、また高齢者の通いの場（居場所）としての重要性が増加することが予想されるため、どのように活動の幅を広げ、一層の充実を図っていくかが、課題のひとつである。</p> <p>認知症サポーター等のソフト面についても、養成の回数や内容を一層充実させ、市民ひとりひとりがインフォーマルな社会資源として認知症ケアに関わることができるよう努めていく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
政策	18 介護保険（介護給付） - 安心して介護が受けられるまちを目指します -		
主管課	高齢福祉課	関連課	障がい福祉課、保健センター
目標	適切な介護認定を行うとともに、介護保険事業の適正な運営に努めます。また、介護が必要と認定された場合には、安心してサービスが受けられるよう必要な地域に必要なサービス量を確保し、併せて質の向上を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 介護保険サービスの充実</p> <p>○正確・公平で統一性のある認定結果となるよう、適切な要介護認定に努めます。</p> <p>○要介護・要支援認定者及び家族介護者のニーズを把握し、必要な地域に必要なサービス量の確保を図ります。</p> <p>○介護保険サービス提供事業者向けの研修会を実施するなど、従事者のケア向上を図ります。</p> <p>(2) 介護保険事業の適正な運営</p> <p>○効率的な事業運営に努め、国や県の動向を注視しながら、サービス利用と負担の適正化や見直しを図ります。</p> <p>○事業者への指導・監査、実地調査を充実させ、併せてケアプランチェックなどにより、介護費用を含めた適切なサービス内容及び自立支援に向けたケアマネジメントの適正化を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		14.80	15.70	16.50	17.20	18.00	18.80	%以下
1	実績値		14.62	15.27	15.66	16.37	17.11	17.89	
	達成率		101.2%	102.8%	105.4%	105.1%	105.2%	105.1%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		後期高齢者の構成割合が増加することに伴い、要介護認定率も増加していくものと考えられる。目標値を下回るためには、継続した介護予防や認定の適正化を図ることが必要である。						
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		80.80	81.00	81.30	81.50	81.80	82.00	%以上
2	実績値		81.70	82.99	79.62	81.10	81.80	82.00	
	達成率		101.1%	102.5%	97.9%	99.5%	100.0%	100.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		目標値に対し、実績は概ね達成しているものの、認定者のうち介護サービスを利用していない者も多い状態である。適切な要介護認定申請に係る市民への周知、認定の適正化等を図ることが必要である。						
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

3 令和3年度の内部評価
<p>法令に基づき、介護保険サービスを提供するために不可欠なものであるため継続して実施する。令和3年度においては、介護保険料の滞納者対策として、収税課へ過年度分の債権徴収事務の一部を移管し、更なる滞納処分の強化を図った。今後も引き続き事業の改善を図りながら適切に事業を実施していく。</p> <p>(介護保険料現年度分徴収率の推移 平成29年度98.35%⇒平成30年度98.72%⇒令和元年度98.86%⇒令和2年度99.12%⇒令和3年度99.25%)</p> <p>介護給付については、『ケアプラン点検(8件)』『集団指導(3件)』『実地指導(7件)』『介護給付費通知の発送(年1回)』を介護給付適正化の取り組みとして実施できたが、さらに充実させることにより、適切な介護サービスの提供に努めていく。</p>

4 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>高齢者人口の増加や後期高齢者の構成割合が増加することに伴い、認定者数が増加し、介護給付費が増加していくことが見込まれる。そのため、介護給付の適正化を図り、利用者に対する適正な介護サービスの提供体制の確保が必要となる。これを実現するため、現在実施している介護給付適正化の取組を継続し、不適切な給付の削減を図るとともに、利用者が安心してサービスを受けられることができるよう、介護サービスの質及び必要なサービス量を確保するため、事業所の適正な運営に向けた指導・助言及び支援を実施していくことが重要となる。また、施設整備については、給付費増加の要因ともなることから、地域の実情を把握し、計画的に進める必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	05 地球環境・自然環境 ～豊かな水と緑が調和したまち～		
政策	19 地域、自然環境 – 快適な生活環境の保全を目指します –		
主管課	環境課	関連課	公園緑地課、道路課、上下水道課
目標	国や県の動向を踏まえ、より効果的な温室効果ガスの削減やエネルギー対策などの実施、地球温暖化対策に関する普及・啓発を推進する。また、大気や水質など環境情報の把握に努めるとともに、市民、事業者等との協働により快適な環境づくりを目指す。		
施策目標の実現に向けた取組	(1)地域環境の保全 ・公共施設の省エネルギー化を図り、再生可能エネルギーなどを率先して導入することで、低炭素型まちづくりを推進する。 ・大気や水質の調査をはじめとした環境調査を継続的に実施し、結果を市民と情報共有を図る。 ・市民や環境活動団体、学校と協働、連携して環境フェアなどを実施することにより、環境学習の機会を提供し、環境活動の周知、啓発を図る。 (2)地域環境美化活動の推進 ・道路や公園、水辺などにおける地域での環境美化活動を支援する。 ・ポイ捨て防止などモラル・マナーの向上に向けた意識啓発を推進する。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	地球環境美化自主活動延べ参加者数	目標値	7,431	7,534	7,637	7,741	8,693	8,814
			実績値	8,081	7,508	2,908	4,901	6,732	6,826	
			達成率	108.7%	99.7%	38.1%	63.3%	77.4%	77.4%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	現在策定中の「環境基本計画・後期行動計画」におけるアンケート結果において、多くの方が「地域環境美化自主活動の推奨及び支援」が重要であると回答するものの「活動する時間がない」「社交が苦手である」「知っている人がいない」といった理由で参加者増につながらないのが現状である。このことから地域環境美化自主活動への参加呼びかけや、環境活動団体の取り組みの周知等による参加しやすい環境づくりが必要であると考え。							
2		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
			目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
		実績値					-	-		
	達成率					-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	公共施設の電気使用量 ※減少を目指す指標です。	目標値	17,396,755	17,249,325	17,101,895	16,954,465	16,807,035	16,662,494	kwh
			実績値	14,012,509	12,616,309	12,668,276	12,685,174	12,732,602	12,623,102	
			達成率	124.2%	136.7%	135.0%	133.7%	132.0%	132.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	目標値は達成しているものの、政府による2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現する宣言を受け、令和4年中に市としてもゼロカーボンシティ宣言を行うとともに、市民・事業者・環境活動団体及び市が果たすべき行動を今後策定する「環境基本計画・後期行動計画」にて明確にすることで更なる電気使用量の削減に努める。							
	2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
			目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
		実績値					-	-		
	達成率					-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>第2期ふじみ野市環境基本計画前期行動計画の4つの基本方針</p> <p>(1)「学びと協働の推進」、</p> <p>(2)「環境にやさしいまちづくりの推進」、</p> <p>(3)「環境負荷の少ない循環型社会の構築」、</p> <p>(4)「自然と調和した環境づくりの推進」</p> <p>に基づき、「環境学習館えこらほ」を活用し、環境の場を広く市民に提供、また環境活動団体を支援し協働事業を推進するとともに、環境意識の向上を図るための施策を実施し意識啓発を行った。</p> <p>今後も引き続き市民、事業者とともに環境配慮への意識を高め、協働して取り組みを図っていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>令和3年度における前期行動計画の達成率は新型コロナウイルスの影響もあり43.48%（20項目/46項目）とやや低調となった。これを受け、今後策定する「第2期ふじみ野市環境基本計画・後期行動計画」において進捗状況の把握・評価をするとともに、持続可能な開発目標である「SDG s」といった新たな視点を取り入れつつ施策の内容や行動目標の見直しを図る必要がある。</p> <p>昨年実施したアンケートにおいて、現在策定中の「第2期ふじみ野市環境基本計画・前期行動計画」の認知度が低かった（市民の75%、事業所の62%が知らなかった）ことから、令和4年中に行う「ふじみ野市カーボンニュートラル宣言」を契機に同計画の周知を図るとともに、基本理念である「快適で良好な環境の確保」を推進させるため、市民、事業所及び行政が一体となって環境保全に取り組めるよう努める必要があると考える。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	05 地球環境・自然環境 ～豊かな水と緑が調和したまち～		
政策	20 循環型社会 - 資源循環型社会の構築を一層進めます -		
主管課	環境課	関連課	
目標	3 R 行動の更なる浸透により、ごみの排出量を削減し、資源の有効利用を図ります。また、環境センターを環境教育の拠点として、エネルギーや自然環境などを含めた市民の環境意識を高め、エコライフスタイルの定着につなげます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 廃棄物の減量化・再資源化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育の情報・活動拠点として環境センターを活用し、市民の環境意識を高めます。 ○廃棄物の発生抑制と減量化に向けた啓発活動を実施します。 ○「もやさないごみ」として排出される使用済小型家電を選別し、レアメタルをリサイクルするなど、限りある資源の有効利用を進めます。 <p>(2) 廃棄物の適正処理の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○循環型社会に適したごみ処理システムの構築を行います。 ○事業系一般廃棄物は、事業者責任の原則を踏まえ、排出抑制、分別の徹底、リサイクル化への取組などを事業者働きかけます。 ○最終処分場の適正な管理を行います。 		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1人1日当たりの家庭系ごみの排出量（廃棄量）		594.6	592.0	589.0	587.0	585.0	580.0	%
1	実績値		590.0	601.0	606.0	591.0	616.0	622.0	
	達成率		100.8%	98.5%	97.2%	99.3%	95.0%	93.2%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	当該指標は平成26年から平成30年までごみの少ない市内1位を獲得しており、令和元年に順位を落としたものの令和2年に再度1位に返り咲いた。今後も1位を継続できるよう取り組んでいく。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	リサイクル率		23.5	24.1	24.6	25.2	25.8	26.4	%
2	実績値		21.6	21.2	22.4	22.0	28.3	28.4	
	達成率		91.9%	88.0%	91.1%	87.3%	109.7%	107.6%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	焼却灰の資源化や既に多くのごみを資源化しているため大幅な改善は難しいところであるが、現在もやすごみとして排出されているものから出来るだけ資源物を分別排出してもらうことで達成を目指す。							
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	C	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>一般廃棄物処理基本計画の4つの基本方針「市民・事業者・市による、排出抑制を中心とした3Rを推進」「環境教育と環境学習の実施」「ものを大切にすための仕組みづくり」「自然環境に配慮した循環型社会をつくるための意識づくりと行動」に基づき、環境学習講座等により、市民や事業者に対し3Rの推進を図った。ごみ量は昨年度と比較し全体的に削減することができたが、目標値に届いていない状況である。</p> <p>また、平成26年度から平成30年度まで5年連続で達成している1人1日当たりの家庭系ごみの排出量が少ない市埼玉県内1位は令和元年度実績で3位となった。3Rの推進を図り、再度県内1位を目指す。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>家庭系ごみ、事業系ごみともに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により施策の効果が正確に把握できない状況にあり、引き続き状況に応じた発生抑制・排出抑制策を行っていく必要がある。また、資源物に異物が混入する等の不適正排出が見られ、リチウムイオン電池やスプレー缶等の混入によるバッカー車での事故の発生が懸念され、排出ルールの周知・徹底を行う必要がある。</p> <p>ふじみ野市一般廃棄物最終処分場は使用を停止した後も、浸出水の運搬や検査等の維持管理に多額の費用がかかっており、廃止に向けた取組が必要である。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	06 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～		
政策	21 労働 –雇用の場を創出し、働きやすい環境を構築します–		
主管課	産業振興課	関連課	
目標	事業所などと協力しながら、地域の若者、女性、高齢者、障がい者など、働くことを希望する全ての人が活躍できる就業環境を実現します。また、一人ひとりの個性に合った、働くための教育・訓練環境の充実を図るとともに、労働者の福利厚生の上を推進します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 就労支援の充実</p> <p>○事業所の協力の下、短時間勤務や在宅勤務など、市民のニーズに応じた多様で柔軟な働き方を推進します。また、家庭を持つ女性が安心して働くことができる環境を整備します。</p> <p>○ふるさとハローワークと連携し、就労希望者に対して就業のための情報提供や各種講習会などの充実を図ります。</p> <p>(2) 労働者への支援強化</p> <p>○中小企業退職金制度への加入や従業員の健康診断の実施を促進するため、事業者に対し、補助金の交付を行います。また、勤労者住宅資金斡旋制度の利用促進に向けた周知を行います。</p> <p>○中小企業従業員や事業主の福利厚生の上を目的に、ふじみ野市勤労者福祉共済会に対する活動支援を行います。</p>		

1 施策指標と達成状況

	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	ふるさとハローワーク就職斡旋件数	目標値	575	580	585	590	595	600
実績値				408	330	332	409	450	500	
達成率				71.0%	56.9%	56.8%	69.3%	75.6%	83.3%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	指標に対する目標達成には至っていないが、新型コロナウイルス感染症の影響の中、相対的に斡旋件数は増加しており、今後も継続して支援を行う必要がある。							
2		内職相談による就職斡旋件数	目標値	64	71	77	83	90	96	件
			実績値	36	58	55	54	60	65	
			達成率	56.3%	81.7%	71.4%	65.1%	66.7%	67.7%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	指標に対する目標達成に至っておらず、就職斡旋件数も横ばい状態である。しかし、例年相談件数が200件前後あることから、今後も継続して支援を行う必要がある。							
3			目標値							
			実績値							
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3		目標値							
			実績値					-	-	
達成率							-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>指標に対する目標達成には至っていないが、新型コロナウイルス感染症の影響のなか、相対的に相談件数は増加しており、就労希望者への支援の充実を図れたものとして、おおむね順調と判断した。また、就労支援として開催する事業では、国・県等の協力の下、費用を伴わない事業実施が展開されており、適切かつ有効に取り組まれている。</p> <p>今後も就労機会の拡大や雇用環境改善のために、事業の拡充も視野に入れて継続していくことが望まれる。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>景気の変動により、求人数や求職数の推移は変動するものとなり、継続的に事業を推進する必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、家内労働の需要もあると考えられるが、労働環境の多様化により働きやすい環境も増えている現状もある。内職需要については多岐にわたり様々なものとなるため、ふるさとハローワーク及び内職相談、ジョブスポット等の連携強化を図り、継続的な相談業務が重要となる。</p> <p>社会経済の不安定な状況下において、市内事業所における労働環境の充実を図ることにより、働きやすい環境を創出することで、市内従事者の安定化に繋がるものとし、継続的な取組が必要となる。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	06 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～		
政策	22 農業 – 魅力ある農業の推進を図り、地産地消の拡大を進めます –		
主管課	産業振興課	関連課	学校給食課、農業委員会
目標	活力ある都市農業を展開するため、優良農地の保全・確保や地産地消の推進などにより、農業経営の支援に努めるとともに、担い手を育成し農業経営の効率化・安定化を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 地域農業を支える担い手の育成・支援 ○農業生産性向上のための各種補助制度を活用し、効率的な農業経営を支援します。 ○担い手へ農地を集積・集約化し、規模拡大及び生産性の向上に努めます。 (2) 地産地消の推進 ○ふじみ野産の新鮮農産物の直売や学校給食との連携により、地産地消を推進します。 (3) 優良農地の保全・確保と農地の有効活用 ○農地制度の適切な運用により、遊休農地を解消するとともに、優良農地の保全と確保に取り組みます。 ○農地中間管理事業などにより、担い手への農地の集積を促進し、遊休農地の発生防止・有効活用を図ります。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	農作物直売回数	目標値	28	28	29	29	29	30
実績値			30	34	15	9	36	36		
達成率			107.1%	121.4%	51.7%	31.0%	124.1%	120.0%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点			指標については、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、目標値の達成ができなかったが、そのような状況が無ければ、基本的には目標達成できる見込みである。開催時の状況を見る限り一定の効果は得られているので、今後も継続していく必要がある。							
2		指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		目標値								
		実績値					-	-		
3		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
成果指標	1	市民農園数	目標値	7	8	8	9	9	10	箇所
		実績値	7	7	7	9	8	10		
		達成率	100.0%	87.5%	87.5%	100.0%	88.9%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	現在、農園区画使用率は80%となっており、市民の需要はあると考えられるので、今後も継続していく必要がある。							
	2	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		遊休農地の残面積 ※減少を目指す指標です。	目標値	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	0.5	ha
		実績値	1.4	1.7	1.6	1.3	0.5	0.5		
	3	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
3	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	目標値									
	実績値					-	-			
	達成率					-	-	%		
3	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	目標値									
	実績値					-	-			
	達成率					-	-	%		

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	-	B	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	B	-	B	-
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	B
	外部評価結果	B	-	B	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>関連施策はいずれも一定の効果を上げていると思われる。遊休農地の残面積を減らす活動については、効果向上のために、既存の取組に加え新たな対応を検討することが望ましいと考える。</p> <p>「地産地消の推進」、「将来の担い手の育成」に関して、SNSを活用する等、若い世代にも受け入れられるような、もっと分かりやすい見せ方も必要ではないか。</p> <p>「栽培指導付き市民農園（農業入門塾）」は、より一層の地域コミュニティの活性化、農業に対する理解が深められると期待できる取組と考える。活力ある都市農業の展開のため、より効果のある取組に期待する。</p> <p>「地産地消の推進」の取組成果について検証する必要があると考える。</p> <p>コロナ禍で直売などが制限される中、概ね良好な成果を上げていると考える。</p> <p>「地産地消の推進」については、管内生産者組織を有効活用し進めていくことが必要と考える。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>市民農園については、新駒林地区に第一農園及び農業入門塾を開設し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部中止としたが、年間13回の指導を行い、参加率も90%となっており、市民農園全体の利用率も80%を超えているので、一定の効果は得られていると考える。</p> <p>また、農産物直売についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎月実施する予定だった本庁舎及び支所等での直売が一部中止となり、軽トラ市についても年間4回予定していた通常開催が中止となったものの、直売を9回、軽トラ市を1回開催することができたので、一定の効果が得られたものと判断し、継続実施が求められる。</p> <p>遊休農地解消に向けては、目標達成には至らなかったものの、市として引き続き農地中間管理事業に取り組み、農地の利用集積に努めたので、今後も継続的に実施していくことで更なる農地の集積・集約化が期待できる。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>遊休農地面積については、新規発生しつつも全体としては減少しており、遊休農地解消に取り組んできた成果である。しかし、農業の担い手の減少や遊休農地の発生は今後も進行していくことが予想されるため、農地集積・集約化に向けた制度の周知や活用をするともに、農地中間管理機構等の関係団体との連携を図り、より効率的かつ効果的に継続して遊休農地解消に取り組む必要がある。</p> <p>また、農作物直売や市民農園についても、開催回数や利用率共に概ね前期目標を達成しており、一定の効果が得られている状況であるため、今後も地域コミュニケーションの活性化や農業に対する理解向上の観点から、更なる質の向上を目指し継続していくことが必要である。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	06 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～		
政策	23 商工業 -新たな産業の育成と商工業の活性化を進めます-		
主管課	産業振興課	関連課	都市計画課
目標	企業誘致などによる産業の集積を進め、地域経済の活性化を図ります。また、商工会と連携を図りながら、商店街のにぎわいを維持・確保していきます。中小企業に対しては、経営基盤の強化と事業の安定化を図るため、支援体制を充実します。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 新たな産業の育成 ○新たな産業団地を創出するなど、企業誘致の促進を図ります。 ○食品に続き、新たに工業製品のふじみ野ブランド化を推進します。 (2) 商工業の活性化 ○商工会と連携し、起業を目指す人材の育成や商店街の空き店舗での創業支援を実施します。 ○産業まつりなどの事業を通して、地域経済の活性化に向けた取組を実施します。 ○商・工・サービス業など、既存企業の経営基盤の強化と事業の安定化を図ります。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	企業誘致数	目標値	8	9	14	14	14	14
			実績値	5	6	8	8	9	9	
			達成率	62.5%	66.7%	57.1%	57.1%	64.3%	64.3%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			進出企業におけるニーズと企業立地エリアとのマッチングを図れるようエリアの周知が必要となる。							
2		新産業団地の創出	目標値	0	0	12	12	12	12	ha
			実績値	0	0	0	0	0	0	
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	新産業団地創出に向けた土地区画整理事業計画に則り、事業を円滑に進める必要がある。							
3			目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	商工会員数	目標値	1,700	1,720	1,740	1,760	1,780	1,800	事業所
			実績値	1,619	1,602	1,673	1,690	1,720	1,750	
			達成率	95.2%	93.1%	96.1%	96.0%	96.6%	97.2%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	経営者の高齢化や事業承継の問題があるが、伴走型の支援を行うとともに新規創業者への支援も含め、会員数の増員を図る必要がある。							
	2		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3		目標値							
			実績値					-	-	
		達成率					-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>コロナ過によって商工業のダメージも大きいのではないかとと思われる。次年度はこうした状況を踏まえた施策も必要と考える。</p> <p>指標については市として重要な事は充分理解できますが、達成するための取組として不安がある。PDCAをまわせるような進め方が必要と考える。</p> <p>商工会員数の加入促進については「加入しない理由」の分析が必要なのでは。</p> <p>外的要因が多く難しい取組みだと思いが、着実に取り組まれているようですので今後に期待する。</p> <p>企業誘致では国や県との調整も絡むためその進捗も勘案すればおおむね順調と評価する。</p> <p>取組みでは商店街の活性化などで好事例も出てきており、コロナ過での今後の成果に期待したい。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>市内産業系土地利用推進エリアを継続して紹介をすることで、市内への進出企業の増加に結び付くものとする。</p> <p>また、市内企業への継続したヒアリングを行うことで顔の見える関係性を築き、事業課題等の相談をしやすい環境を創出することに繋がるものとする。そのことが本市に立地しているメリットとなり、市外への流出を防ぐこととなるため、継続して事業を遂行することが必要と考える。</p> <p>全国的に問題となっている店主の高齢化、後継者不足等による商店街の衰退を防ぐには、新規創業者を商店街への進出に結び付けることや、商店街事業に対する補助を継続して実施していくことが、空き店舗の解消、安全・安心の確保、地域コミュニティの創出等に繋がるため必要であるとする。また、市内商工業の振興を継続的に図るため、ふじみ野市商工会への補助や産業まつりへの補助を引き続き実施する必要がある。</p> <p>更に市内中小企業の経営安定、経営拡大を図るため、商工会や金融機関と連携しながら、引き続き中小企業に対し融資斡旋や利子補給金等を行い支援していくことが求められる。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>昨今の社会経済情勢において、多くの市内事業所は苦境に立たされているものと考えられ、市内商工業者に対する伴走型支援は必要なり、ふじみ野市商工会と連携し支援の強化を図る必要がある。</p> <p>また、更なる効果的かつ効率的な商工業振興を推進するため、継続的に事業展開を進めていく必要性があり、日々変化する経済状況のなか、必要に応じた施策展開が図られるよう関係団体と連携し、現状を把握しながら事業を遂行することが、効率的かつ効果的なものとなる。</p> <p>企業が進出するにあたり、期間や条件等を要することもあり、指標達成に向け時間をかけ丁寧に進める必要がある。</p> <p>また、市内企業が他市へ移転しないことも、企業誘致の一貫と考え、顔の見える関係性を築きあげ、既存の企業における「ふじみ野市への立地満足度」を向上させる取組も継続的に実施していく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	06 産業・経済 ～にぎわいと活力にあふれるまち～		
政策	24 観光 – 誰でもいつでも観光を楽しめる環境づくりを進めます –		
主管課	産業振興課	関連課	資産管理課、協働推進課、社会教育課
目標	祭りやイベントの開催、ふじみ野市らしい商品の開発やふじみ野市PR大使『ふじみん』の活用などを通して、「訪れたいまちふじみ野」の実現に向けた取組を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 地域資源の活用による地域の活性化 ○「上福岡七夕まつり」をはじめ、『福』バル』などのイベントや「ふじみ野ブランド産品」を市内外へ情報発信し、ふじみ野市のイメージアップを図ります。 ○ふじみ野市PR大使『ふじみん』を活用し、各種イベントへの参加や啓発グッズなどの利用により、市のPR活動を積極的に進めます。 ○有形文化財などの観光資源を活用し、ロケーションサービス、インターネット、SNS等を通して周知活動を行い、観光客の誘致を進めます。		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	『福』バル』のチケット販売数	目標値	1,450	1,500	1,550	1,700	1,750	1,800
実績値			1,259	1,176	1,533	0	1,700	1,800	
達成率			86.8%	78.4%	98.9%	0.0%	97.1%	100.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施における販売数は予測できないものとなる。しかし、規制緩和等が進む状況であれば販売数の拡大も考えられる。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	ふじみん出場回数	目標値	42	43	45	47	48	50	回
実績値		64	65	13	17	30	50		
達成率		152.4%	151.2%	28.9%	36.2%	62.5%	100.0%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等の実施回数に変動があるため、イベント等の実施回数が増えれば、必然的に出場回数も増加するものとなる。							
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
実績値						-	-		
達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
1	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	「上福岡七夕まつり」、「おい祭り」の来場者数	目標値	242,000	244,000	246,000	248,000	250,000	252,000	人
実績値		238,000	240,000	0	0	0	250,000		
達成率		98.3%	98.4%	0.0%	0.0%	0.0%	99.2%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度は両まつりについては中止となったが、通常開催となれば必然的に参加者は増加するものと考えられる。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
実績値						-	-		
達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
実績値						-	-		
達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	B	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>指標にインターネット・SNS・ロケーションサービス等の取組も取り入れてはどうか。</p> <p>本事業は特効薬はありませんが、現在取り組まれている処方箋を着実に実行することにより何か新しい未来に辿り着けることを期待している。</p> <p>引き続きふじみ野市のイメージアップに取り組んでいただきますよう期待している。</p> <p>コロナ禍の限られた予算の中での取組みはおおむね順調で一定の成果を得られている。また今後これらの施策を継続し成果を得られるようお願いしたい。</p> <p>観光資源の少ない中での事業は大変な努力が必要と思われる。今後もひとつひとつ新しい事業に取組み、観光事業の底上げを図ってください。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>名所や旧跡、自然遺産など観光資源が乏しい本市においては、七夕まつり等イベントの充実が欠かせないものであり、また、シティプロモーションの観点からも「ふじみん」や「ブランド産品」によるPR活動は必須である。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止となり、PR活動の制限があるなか、実績としては充分とは言えない状況ではあるが、ある一定の成果は得られているものと評価している。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>市の一大イベントである上福岡七夕まつりは、3年間も中止となっている現状であり、4年ぶりの通常開催となれば必然的に来場者は増加するものと考えられ、より徹底した安全対策や感染症対策を講じる必要がある。また、ふるさとのお祭りとして、子どもたちの心につまでもなつかしい思い出となるようなお祭りとして安全安心を心がけ継続し開催する必要がある。</p> <p>また、ふじみ野市PR大使である「ふじみん」の認知度も上がっており、様々なイベントに出演することで、ふじみ野市のシティプロモーション媒体の一つとして、引き続き活用していく必要がある。</p> <p>ふじみ野市のイメージアップを図るため、市内外の方々へ様々な形でPRする必要性を鑑み、後期基本計画においても、当該施策を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	25 道路 - 安全に機能する道路交通体系の充実を図ります -		
主管課	道路課	関連課	危機管理防災課、都市計画課
目標	広域交通、市内交通の円滑化や災害時の安全性の確保を目指し、幹線道路や身近な生活道路の整備を計画的に進める。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 道路交通体系の充実 ○安全で快適な道路環境の確保に向け、広域幹線道路の整備については国や県、埼玉県警察、関係市町に積極的に働きかける。また、市内幹線道路を計画的に整備する。 ○生活道路については、日常生活の利便性や安全性の向上を図るため、道路改良を進めるとともに、緊急車両の活動に支障がなく、災害時に迅速に避難できるよう計画的に整備する。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	幹線道路整備延長	目標値	13,972	13,972	14,112	14,312	14,512	14,530
実績値				13,880	13,880	13,925	13,925	14,135	14,135	
達成率				99.3%	99.3%	98.7%	97.3%	97.4%	97.3%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			広域幹線道路の整備については国や県、埼玉県警察、関係市町に積極的に働きを行う。また、市内幹線道路については、当市の都市交通マスタープランにおいて優先道路に位置づけられている計画道路について計画的に整備を行う。							
2		狭あい道路対策延長	目標値	2,132	2,167	2,192	2,254	2,271	2,288	m
			実績値	2,048	2,048	2,218	2,218	2,238	2,258	
			達成率	96.1%	94.5%	101.2%	98.4%	98.5%	98.7%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	生活道路については、日常生活の利便性や安全性の向上を図れるよう道路改良を進めるとともに、児童生徒の通学、下校時の安全を確保できるよう歩道整備なども進め、また、緊急車両の活動に支障がなく、災害時に迅速に避難できるよう計画的に整備を行う。							
3		指標名	目標値							
			実績値					-	-	
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	指標名	目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2	指標名	目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	指標名	目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	A	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>狭あい道路問題は過去の住宅開発の在り方のつけだと思えますが、この地域の大きな問題と思えます。なかなか年度単位で進捗をはかるのは難しいと思えますが、5年、10年のスパンで解消が進むことを期待しています。</p> <p>「生活道路については、幅員が狭い道路が多くあるため、災害時の避難、緊急車両の活動が円滑に行えるような道路づくりを地域住民と協力して進めることが必要です。」とありますが、それに対する取組が歩道整備であるとは思えません。この課題に対する取組も見える形で進めてください。</p> <p>引き続き、広域交通、市内交通の円滑化や災害時の安全の確保を目指して、道路交通体系の充実に取り組んでください。</p> <p>事業内容が一朝一夕に動くものではないため、成果がすぐに見えない分野ではあると思えますが、コロナ禍にありながらも着実に進捗していることを評価したいと思います。</p> <p>今後も道路、安全機能を有する道路整備を進めてください。</p> <p>数値の設定状況については地権者の意向もあるため、数字未達の部分もあるものの、概ね順調に進捗しているものと判定しました。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>上沢勝瀬通り線整備事業につきましては、用地買収が完了し、上沢勝瀬通り線整備工事契約を締結した。</p> <p>現在、地下埋設工事、電柱移設工事を実施し、その後、整備工事を進める。</p> <p>なお、一部県道の改良及び信号機の移設も必要ことから、関係する埼玉県、埼玉県警察との協議を行った。今後も継続して完成に向け協議を進める。狭あい道路対策につきましては、用地取得が必要となる事業で、地権者の意向を確認しながら進めていくため、計画どおりに進まない場合がある。引き続き、ご理解とご協力を得ながら用地取得に努める。なお、市道E-177号線については、売買契約を4件締結することができた。また、このほかの事業対象地権者についても協力を得られるよう用地交渉を行っている。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>広域幹線道路の整備については国や県、埼玉県警察、関係市町に積極的に働きを行う。また、市内幹線道路については、当市の都市交通マスタープランにおいて優先道路に位置づけられている計画道路について計画的に整備する。</p> <p>生活道路については、日常生活の利便性や安全性の向上を図れるよう道路改良を進めるとともに、児童生徒の通学、下校時の安全を確保できるよう歩道整備なども進め、また、緊急車両の活動に支障がなく、災害時に迅速に避難できるよう計画的に整備する。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	26 交通安全 -交通事故のない、安全なまちを目指します-		
主管課	道路課	関連課	学校教育課
目標	事故死者数に占める高齢者の割合が高いことや自転車による交通事故が多いことなどを踏まえ、更なる交通安全対策を進める。また、円滑な通行の妨げとなる放置自転車の解消に向けた取組を引き続き実施する。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 交通安全意識の醸成 ○交通安全の啓発、交通マナーの向上を促進する。 ○スクエアード・ストリート教育技法による交通安全教室など、より効果の高い交通安全教育を推進する。 (2) 生活道路の安全対策の推進 ○「ゾーン30」など、生活道路における交通安全対策を推進する。 ○安全な自転車通行環境の整備を推進する。 (3) 交通安全施設の適切な維持管理 ○交通安全施設の適切な維持管理、修繕を実施する。 (4) 放置自転車の解消 ○放置自転車禁止区域における放置自転車の解消を図る。		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
1	実績値		164	159	154	149	144	139	人
	達成率		156.2%	196.3%	252.5%	179.5%	180.0%	173.8%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	交通安全の啓発活動を通じ、交通マナーの向上を図るとともに、小・中学校の児童生徒には、スクエアード・ストリート教育技法による交通安全教室を実施し、より効果の高い交通安全教育を推進する。							
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		5	5	5	5	5	5	箇所
2	実績値		5	5	5	5	5	5	
	達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	生活道路における交通安全対策の一つとして、特に通学路における児童生徒の安全確保を目的とし、ゾーン内は自動車の最高速度を時速30キロメートルに制限する交通規制である。今後、地元要望や関係部署との協議により指定地域の拡張も検討する。							
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値		838	797	757	719	683	649	台
3	実績値		727	653	339	552	550	550	
	達成率		115.3%	122.1%	223.3%	130.3%	124.2%	118.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	放置自転車撤去作業を実施することにより、放置自転車撤去台数の減少に寄与しているが、上福岡駅西口の民間自転車駐車が廃止されたことにより撤去台数が増加した。新型コロナウイルスの感染拡大防止により自転車の利用形態に変化が生じていることから、放置自転車台数の動向や市営自転車駐車場について検証が必要となる。							

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	A	A	A
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>交通安全広報活動を通じて交通安全意識の向上を図った。交通安全施設の修繕等の実施により自転車事故による負傷者数は減少している。</p> <p>また、自転車利用者への安全対策として、県西部では初となる自転車ネットワーク計画を策定し、この計画に基づき、上福岡駅西口駅前通線について、自転車通行空間路面標示設置工事を実施した。</p> <p>市内の駅周辺の放置自転車撤去作業を実施することにより、放置自転車禁止区域の周知が図られ、放置自転車撤去台数の減少に寄与していると考えられるが、令和3年度においては、下半期に上福岡駅西口の民間自転車駐車が廃止されたことにより、撤去台数が増加した。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大防止により自転車の利用形態に変化が生じていることから、令和4年度以降は、市内の自転車利用の在り方について検証するために、放置自転車台数の動向の検証や、市営自転車駐車の在り方について基礎調査を行う。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>交通安全の啓発活動を通じ、交通マナーの向上を図るとともに、小・中学校の児童生徒には、交通安全教室や、スケアード・ストリート教育技法による交通安全教室を実施し、より効果の高い交通安全教育を推進する。</p> <p>「ゾーン30」など、生活道路における交通安全対策を推進する。</p> <p>交通安全施設の適切な維持管理、修繕を実施する。</p> <p>自転車利用者への安全対策として、自転車ネットワーク計画を策定したことから、この計画に基づき、自転車通行空間整備を計画的に進める。</p> <p>放置自転車禁止区域における放置自転車の解消を図るとともに、市内の自転車利用の状況について検証するため、放置自転車台数の動向や、市営自転車駐車の利用状況などの調査を行い、市営自転車駐車の在り方について検証する。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	27 公共交通 -安全で便利な公共交通ネットワークづくりを進めます-		
主管課	都市計画課	関連課	障がい福祉課、高齢福祉課、子育て支援課
目標	より安全で便利な公共交通機関となるよう改善を進めるとともに、利用しやすい公共交通ネットワークの整備を進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 民間の公共交通機関との連携 ○東武鉄道や民間路線バス事業者に対し「東武東上線改善対策協議会」や「ふじみ野市地域公共交通活性化協議会」などを通じて、利便性の向上、駅・踏切施設の改善、バス停留所の安全対策などの要望を行います。 (2) 交通結節点の機能強化 ○市内公共交通の利便性をより高めるため、上福岡駅東口の駅前整備を進めます。 (3) 市内循環ワゴンの充実 ○より便利で持続可能な市内循環ワゴンを目指し、市民のニーズを把握した上で、必要に応じ運行ルートやダイヤの見直しなどを行います。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
2		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
3		目標値								
	実績値					-	-			
	達成率					-	-	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
成果指標	1	目標値	41,579	42,956	44,333	45,710	47,088	48,465	人	
		実績値	86,101	92,775	66,072	72,032	73,126	74,220		
		達成率	207.1%	216.0%	149.0%	157.6%	155.3%	153.1%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		市内循環ワゴンを持続可能な公共交通としてしていくために、乗客数はその必要性、ニーズ、収支率等をはかるうえで重要なものとなる。各年度において目標値は達成しているが、今後も引き続き感染症予防対策に努めながら乗客数が回復するよう取り組む。							
	2	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%	
		実績値	-	-	-	-	-	98.4		
		達成率	-	-	-	-	-	98.4%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		令和5年度運用開始後に令和3年度、4年度において運行コース・ダイヤの見直しに係る検討を実施した成果をはかるために、満足度アンケート調査を実施する予定である。本指標の目標値は、市内循環ワゴンが本格導入される前の実証運行中に行われたアンケート調査結果が100%に近い結果（サービス全般⇒良い98.3%）となったことを基に設定している。利用者の要求レベルは、本格導入前と現在7年目となり「市民にとってあつて当たり前」となった現在では、異なることが考えられるが、令和5年度見込みについては、当時以上の98.4%と設定する。また市内循環ワゴンは、今後の人口減少下においても持続可能な公共交通を目指す必要があるため、利用者全てのニーズに応えることはできないことが想定されることから、後期基本計画においては、本指標の見直しについて検討が必要と考えられる。							
	3	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が得られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>			

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>市内循環ワゴンの運行については、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗客数がピークであった令和元年度実績までは回復させることはできなかったが、徹底した感染対策を実施することにより、利用者が安全・安心にご利用できるよう取組を実施し、運行を確実に継続し、市民の足に供することができた。</p> <p>また、市内循環ワゴンコース・ダイヤ見直しに係る検討については、令和4年度に実施する運行計画策定等に向けて重要な要素となる運行計画の素案をふじみ野市地域公共交通活性化協議会において、安全性、利便性、コスト等を総合的に勘案しながら検討・協議したうえで作成することができた。</p> <p>今後も引き続き、感染症対策を徹底しながら、運行を確実に継続するとともに、コース・ダイヤの見直しについては、令和4年度は、令和3年度の取組成果を基にした運行計画の策定、コース・ダイヤの決定及び令和5年度からの運行に向けたプロポーザルによる次期運行事業者の選定支援、コース・ダイヤ改定内容に係る許認可申請等に伴う関係機関協議を行うなど、安全・安心で便利な公共交通ネットワークづくりに向けた取組を推進していく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>市内循環ワゴンの乗客数については、平成29年度に本格導入してから令和元年度まで最高値を更新し続けていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、落ち込んでいる状況に対して引き続き、徹底した感染対策を実施することにより、利用者が安全・安心にご利用できるよう取組を実施し、運行を確実に継続していく。</p> <p>また、令和3、4年度の2ヶ年でコース・ダイヤ等運行計画見直しに係る検討を実施しており、令和5年度から見直されたコース・ダイヤにより運行されるため、その利用状況及び課題について検証する必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	07 都市整備 ～快適で		
政策	28 河川 - 安全で快適な水辺環境を保全します-		
主管課	道路課	関連課	危機管理防災課、環境課、上下水道課
目標	市民が安心して暮らせるよう新河岸川水系における河川改修の早期完了を国、県に働きかける。また、市民、事業者等との協働により水辺環境の維持・保全を図る。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 治水対策の推進 ○新河岸川水系における河川改修の早期完了を国や県に働きかける。 (2) 水辺環境の整備 ○河川の美化活動などを行う河川愛護団体の加盟団体数や構成員の確保に努める。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	河川愛護団体数	目標値	17	17	17	17	1	1
実績値				17	17	1	1	1	1	
達成率				100.0%	100.0%	5.9%	5.9%	100.0%	100.0%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			河川の美化活動などを行っている河川愛護団体の加盟団体において、特定非営利活動法人「舟運・ふじみんの郷」を新たに設立したことから1団体となった。今後については、団体の構成員の確保に努める。							
2		新河岸川の美化活動	目標値	2	3	3	3	3	3	回
			実績値	3	2	2	2	3	3	
			達成率	150.0%	66.7%	66.7%	66.7%	100.0%	100.0%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	新河岸川清掃活動については、河川愛護団体が中心となり、地域住民、地元小中学校の児童生徒、地元企業のほか職員が協働による美化活動を推進する。							
3		指標名	目標値							
			実績値					-	-	
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	指標名	目標値							
			実績値					-		-
			達成率					-		-
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2	指標名	目標値							
			実績値					-		-
			達成率					-		-
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	指標名	目標値							
			実績値					-		-
			達成率					-		-
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	A	A	A
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	A	A	A	A

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>河川愛護団体が行った清掃活動で発生した草やゴミの処分を行い、また、河川愛護団体の総会、活動などを広報、ホームページに掲載し、広報啓発を行った。</p> <p>新河岸川清掃活動につきましては、毎年11月、3月に実施されている清掃活動については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小し、団体と職員とで協働して行った。</p> <p>なお、6月の埼玉県川越県土整備事務所の主催の清掃活動は、同様に中止となった。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>新河岸川水系における河川改修の早期完了を国や県に働きかける。</p> <p>河川の美化活動などを行っている河川愛護団体の加盟団体において、特定非営利活動法人「舟運・ふじみんの郷」を新たに設立したことから1団体となりました。今後については、団体の構成員の確保に努める。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	29 都市計画 - 快適で便利なまちづくりを進めます -		
主管課	都市計画課	関連課	公園緑地課、建築課、道路課
目標	安全・安心で快適な生活環境を整えつつ、持続可能なまちづくりを進めるため、無秩序な開発を抑制しつつ、地域の特性を活かした計画的なまちづくりを進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 計画的なまちづくりの推進</p> <p>○「ふじみ野市都市計画マスタープラン」などに基づき、各地域が持つ特性を活かした計画的なまちづくりを進めます。</p> <p>○開発許可制度等を適切に運用し、無秩序な開発の防止及び良好な宅地水準の確保を図り、安全で住みよい街づくりを進めます。</p> <p>(2) 市の玄関口の整備</p> <p>○上福岡駅東口駅前広場など市の玄関口となる駅前整備を進め、安全、便利なまちづくりを進めます。</p> <p>(3) 美しい景観の保全</p> <p>○屋外広告物の適正掲示及び安全管理を事業主に啓発するとともに、違反簡易屋外広告物の撤去を進めます。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		目標値								
	実績値					-	-			
	達成率					-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	目標値	-	1	1	1	1	1	策定を1	
		実績値	策定中	1	1	-	-	-		
		達成率	-	100.0%	100.0%	-	-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		後期基本計画では、郊外都市としての持続性の確保と発展を目指すために、人口の増加又は維持を図る必要があることから将来人口の数値を指標とすることを想定している。						
	2	目標値	-	10.0	84.0	100.0	-	-		
		実績値	-	6.0	80.0	100.0	-	-	%	
		達成率	-	60.0%	95.2%	100.0%	-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		横断歩道橋の整備については、計画とおり令和3年度に完了し、歩行者の安全性の向上が図られた。						
	3	目標値								
実績値						-	-			
達成率						-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	-	A	-	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	-	A	-	-
取組の有効性	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	-	A	-	-
施策の効果	内部評価結果	A	B	A	A
	外部評価結果	-	A	-	-

評価項目の説明	【指標の達成状況】 【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。 【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。 【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。
	【行政資源の活用】 【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。 【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。 【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。
	【取組の有効性】 【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。 【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。 【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。
	【施策の効果】 【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。 【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。 【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋

・令和2年以降については都市計画マスタープランの進行管理に沿った指標管理と達成を期待します。

・上福岡駅東口は、本市の玄関にもあたるところであり、市全体のイメージアップにも大きく関わるものである。東口駅前整備が数十年も遅れましたが、いよいよ待ち望んだ整備が計画通り実施の予定です。ふじみ野市の玄関として今後もまちづくりに邁進してください。

4 令和3年度の内部評価

引き続き都市計画法及び都市計画マスタープラン等に基づき、快適で便利なまちづくり、各地域が持つ特性を活かした計画的なまちづくりを進める。

市の玄関口となる上福岡駅東口駅前広場整備については、横断歩道橋が設置されたことにより、歩行者の安全性の向上が図られた。

中長期的には、東口駅前広場の都市計画決定面積の確保を最優先として事業の進捗を図るが、残った用地取得を進めるためには様々な課題の解決が必要となる。

最終的な駅前広場の整備計画の策定については、駅前広場用地の取得完了後に、上福岡駅駅舎の建て替え時期等を考慮して実施する。

良質な宅地開発を促進するため開発許可制度等を適切に運用し、無秩序な開発の防止及び宅地水準の確保を図る。

また、都市計画法の許可対象にならない一定規模の開発についても開発事前協議を行い、良質な都市環境の保全及び健全な発展を図ることを進める。

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理

施策全般の課題・論点の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン等に基づき、快適で便利なまちづくり、各地域が持つ特性を活かした計画的なまちづくりを進めるため、整備費用の財源が必要である。 ・市の玄関口の整備として、上福岡駅東口駅前広場の整備については、駅前広場の用地の取得を最優先として事業進捗を図るが、駅前という特性から用地取得を進めるには様々な課題解決が必要である。最終的な駅前広場の整備計画の策定については、駅前広場用地の取得完了後に、上福岡駅駅舎の建て替え時期等を考慮して実施する。
---------------	--

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	30 公園・緑地 - 公園を増やし、緑地の保全に努めます -		
主管課	公園緑地課	関連課	都市計画課
目標	市民が親しみを持って快適に利用できる公園の配置・整備を計画的に進めるとともに、公園等愛護会をはじめとした市民団体やボランティアと市の協働体制を強化し、公園・緑地の適正な維持管理を行います。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 公園・緑地の整備 ○「ふじみ野市緑の基本計画」に基づき、地域バランスに配慮した公園の整備と市街地の緑化を推進し、緑のネットワーク化を図ります。 ○公園に設置されている遊具などの安全点検を実施し、計画的に改修を行います。 (2) 公園・緑地の維持管理 ○地域住民による公園の管理を進めるために、公園利用を促進するルールづくりや公園等愛護会をはじめとした市民団体・ボランティアの維持管理活動の周知などを通して、担い手の育成を行います。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	公園のリニューアル箇所数	目標値	4	6	8	10	12	14
実績値			6	8	12	18	20	21		
達成率			150.0%	133.3%	150.0%	180.0%	166.7%	150.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	市民や愛護会等からの要望にできる限り応えるように対応していることから、各年度に対する実績値は目標値を大きく上回っています。公園に対する要望は数多くあることから、後期基本計画においても老朽化している公園のリニューアルは必要であると考えている。課題については、多くの施設の老朽化が進んでいますが、年間に行えるリニューアルの件数が限られてしまうという課題がある。							
2		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
		実績値						-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		達成率						
3		指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
	実績値						-	-		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		達成率							
成果指標	1	1人当たりの公園等面積	目標値	3.60	3.90	4.20	4.50	5.00	5.00	m ² /人
		実績値	3.10	3.40	3.45	3.46	3.47	3.49		
		達成率	86.1%	87.2%	82.1%	76.9%	69.4%	69.8%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	国立公園、県営公園等がなく、市街化が進んでいる当市にとって都市公園法施行令に定める本指標は目標値が高すぎると思われる。しかしながら、この目標値が達成されることで市内に安らぎや癒しの空間が増えるため、本指標は継続していくべきであり、できる限り目標値を達成できるように努めていく。							
	2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
		実績値						-	-	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		達成率						
	3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値								
実績値						-	-			
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		達成率							

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	—	A	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	—	A	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	—	A	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	—	B	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・公園緑地の面積増加は、公園に加えて、緑道等実質的に市民が自然と触れ合える場の増加にて一定の効果など確認できると評価いたします。 ・今後も安全・安心のまちづくりの推進をお願いいたします。 ・公園面積の拡張並びにリニューアルについては、順調に進んでいるものと思います。 ・ハードルが高い指標及び予算的な制約がある中、最大限の成果が挙げられていると料します。 ・市民の憩いの場の確保に向けて、引き続き取り組んでください。

4 令和3年度の内部評価
<p>西ノ原中央公園の大型遊具の更新整備工事が令和3年度に完了した。市全体として公園施設が老朽化しているため、点検結果などに基づいた公園施設の更新整備のあり方を検討していく。</p> <p>公園・緑地の維持管理については、職員にて実施している樹木剪定、除草清掃や事業者に発注している業務委託の他に公園等愛護会にも公園清掃や花植え等の活動をしていただいている。市は引き続き公園等愛護会への補助を行い、人材の確保や会の新設等呼びかけていく。</p> <p>1人当たりの公園等面積については、開発に伴う提供公園の採納による面積増が中心となるため、大きく使いやすい維持管理性の良い公園を確保できるよう調整を行っていく。生産緑地については、令和3年度は市報を通じて追加の指定の募集を行ったが申込が無かった。</p> <p>今後も引き続き追加指定についてのお知らせを行い、生産緑地の確保に努めていく。特定生産緑地については、指定するためのお知らせと申込用紙の送付を関係地権者に対して行った。結果として、令和3年度は、対象地権者58名、対象面積8.55ヘクタールのうち地権者45名、面積7.04ヘクタールについて申込があり特定生産緑地として指定した。令和4年度は、最後の指定に向けて手続きを進めていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>古くからある市内の公園施設については老朽化が進んでいることから、優先順位を検討し必要な所から公園等のリニューアルを進めていく必要がある。</p> <p>公園緑地等の面積の増加については市民の方々の生活に潤いや安らぎを与えてくれることから、高い目標値となっているが、その値を目指し、面積を増やせるよう努めていく。</p> <p>公園等愛護会をはじめとしたボランティア団体による公園維持管理については、会員の高齢化が進み団体数も少しずつ減少してきていることから、協働して頂ける市民活動団体が増えるように情報発信を行っていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	31 住宅 – 市民や事業者の協力により、良好な住環境を整備します –		
主管課	建築課	関連課	危機管理防災課
目標	住宅の密集化の改善や住宅の耐震化とともに、周辺環境に配慮した安全で快適な住環境を整備します。また、老朽化したマンションや管理不全の空き家対策の推進を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 良好な居住環境の整備</p> <p>○災害時の避難や消防活動に支障が想定される住宅密集地域では、住宅の不燃化や共同化によるオープンスペースの確保など、市民や関係機関の協力の下、ゆとりのある空間整備を行い、防災能力を向上させます。</p> <p>○住宅の耐震化を進めるために、長期優良住宅認定や既存住宅耐震診断・改修補助金交付制度について、相談窓口の充実や情報提供を行います。</p> <p>(2) 空き家等の適切な維持管理</p> <p>○空き家の適正管理や利活用などの体制を構築し、良好な居住環境を促進します。マンションの適正な維持管理及び老朽化したマンションの改修・建て替えを促進します。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
2		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	1	目標値	4	4	6	6	8	10	件	
		実績値	0	2	0	0	1	1		
		達成率		50.0%			12.5%	10.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	対象住宅が築後40年以上となり老朽化や生活様式の多様化など時間と共に耐震化に変化が生じている。また、耐震促進計画において耐震化の目標は率表示となっていることから、件数ではなく市内全体の対象建築物における耐震化率(パーセント表示)とするほうが現実的ではないのか。							
	2	目標値	30	40	50	60	70	80	件	
		実績値	12	19	24	30	35	40		
		達成率	40.0%	47.5%	48.0%	50.0%	50.0%	50.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	平成30年3月に前期基本計画が策定された後、平成31年1月にワンストップ相談事業が創設されたことで空家対策の選択肢が増え、これまでの売買又は賃貸のみを対象とする空家バンクだけでなく、ワンストップ相談を通じ、解体などにより問題解決が図られるケースも成果として出ている。このため、後期基本計画の成果指標は空家バンク登録件数だけでなくワンストップ相談件数を加え、それに伴い目標件数も見直したい。							
	3	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	C	C	A	B
	外部評価結果	B	-	B	-
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	A	B
	外部評価結果	B	-	B	-
取組の有効性	内部評価結果	B	B	A	B
	外部評価結果	B	-	B	-
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	-	B	-

評価項目の説明	【指標の達成状況】 【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。 【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。 【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。
	【行政資源の活用】 【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。 【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。 【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。
	【取組の有効性】 【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。 【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。 【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。
	【施策の効果】 【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。 【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。 【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>課題としても出されたように、この施策指標だけでは問題解決に至るのが難しいところがあります。現状に即した施策あるいは活動の指標をつくることも必要かもしれません。</p> <p>現行の制度で対応しきれない案件等散見できます。別の見地から見直し等含めご検討ください。防災の観点から両立できるよう、国の補助等含め対応していくことも必要と思われます。</p> <p>耐震改修、空家バンクの登録と建て替えや個別な市場流通など、他の方法で目的が達せられることも考慮して、施策の具体化や指標の見直しなどを行うことが肝要と思いました。</p> <p>制限のある中、各種の取組を実施し、概ね成果は得られていると評価します。</p> <p>耐震改修件数や空家バンク登録等で大変で苦勞され、一生懸命取り組まれていることは理解できます。ただし、このような表面的な対策では解決できないように思いますので、多少時間を要するかもしれませんが、本質的な課題に取り組んでいただくことを望みます。</p> <p>指標や達成状況に現れない成果があるので広報等を通じて周知してください。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>既存住宅耐震化促進事業については問い合わせは多いが、対象となる住宅が建築基準法の構造規定が改正される前の昭和56年5月以前に着工された住宅としているため、建築時から40年程度経過し老朽化が進んでいることや生活様式の変化から、耐震改修を行わずに建替えされる方も多い。したがって、耐震改修の補助件数の数値には現れないが、建替えによる耐震化が進んでいる。また、住宅地では災害時の避難経路確保の面からも住宅の倒壊を防ぐため耐震化が必要とされている。今後も引き続き、建物の利用状況や費用面で建替えが難しい場合もあると思われるので、耐震化の必要性和補助事業について丁寧な説明を続け、耐震化の啓発と補助事業の利用促進を図る。</p> <p>空家対策事業について、空家を抑制する手法として空家を市場流通させることが有効な手段であると考えられることから、今後も空家バンクの周知を図り登録を進める。また、相続に関する空家の問題や処分方法、活用方法に悩んでいる所有者等に対し、相続、権利の整理、売却、賃貸の方法、リフォーム、土地活用解体など、空家に関する様々な相談を一つの窓口で受けるワンストップ相談事業は有効であり、今後も相談事業の周知を図り、空家バンクの利用を増やすとともに、解体などによる空家の抑制を図る。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>既存住宅耐震化促進事業について、対象となる住宅が築後40年を超えるものとなっていることや、生活様式の多様化から建替えを選択するなど、時間の経過と共に耐震化に変化が生じている。個別計画として策定しているふじみ野市耐震促進計画では耐震化について耐震補強や建替えなどを含めた耐震化率（パーセント表示）となっている。このため、今後は指標を統一し事業の効果を同じ尺度とするため、本事業においても耐震化率の表示とする。</p> <p>空家対策事業について、空家所有者は、必ずしも初めから、空家の売却や賃貸を考えているわけではなく、ワンストップ相談を受ける中で、売却や解体など考えがまとまることもあり、結果として空家バンクを使わず問題解決を図るケースも出ている。このような状況から、空家対策の成果を図る指標としては、前期計画で指標とした空家バンク登録件数だけでなく、ワンストップ相談件数を合算した数値とすることが適切であると考えられる。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	32 水道 – 安全な水道水を安定供給します –		
主管課	上下水道課	関連課	
目標	浄水施設や水道管路などの水道施設の維持管理を適正に行うとともに、給水量の減少を踏まえた水道施設の更新など事業の見直しを進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 水道水の安定供給 ○給水量の減少を考慮した、福岡浄水場と大井浄水場からの給水区域の見直しや浄水場施設などのダウンサイジングを行います。 ○浄水場の水質管理や施設の適切な維持管理、老朽管や石綿セメント管の更新を通じ、災害に強く安全な水道水の安定供給に努めます。 ○緊急時における飲料水を確保するため、取水施設の耐震化及び老朽化した井戸の水質改善を検討します。 (2) 水道事業の経営基盤の強化 ○水道事業の安定化のため、施設の耐震化や計画的な施設更新を実施するとともに、今後の水道水の需要を的確に把握し、適正な料金水準を設定します。		

1 施策指標と達成状況

活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	石綿セメント管の残延長 ※減少を目指す指標です。	目標値	10.30	9.20	8.10	7.00	6.00	5.00
実績値			9.50	8.00	6.60	4.70	3.40	2.20		
達成率			108.4%	115.0%	122.7%	148.9%	176.5%	227.3%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点			石綿セメント管の更新事業は当初予定を大きく上回っている。残箇所においては道路が狭隘であるなど施工困難箇所が多いことから、今後の更新延長進捗が減少する可能性があるが、安全・安心な水道水の安定供給を継続するため、ダウンサイジングを含めた配水管網整備計画に基づく更新事業を進める。							
2		井戸の更新(新設)箇所数	目標値	3	4	5	6	7	7	箇所
		実績値	1	3	5	7	7	7		
		達成率	33.3%	75.0%	100.0%	116.7%	100.0%	100.0%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	10か所ある井戸(水源)のうち、7か所の更新(改造)が完了し、当初の目標は達成している。更新が未済の3か所の井戸については、井戸周辺に住宅が密集するなど改修等に向けて課題も多いことから、配水エリアにおける需要バランスや水質の改善等を踏まえながら、新たな井戸用地の確保を含めた更新計画を検討し事業を進める。							
3			目標値							
		実績値					-	-		
	達成率					-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1		目標値							
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2		目標値							
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3		目標値							
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	C	C	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	-	A	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<p>○施策の達成については順調に進んでいるものと推察します。経営的な面についても努力いただいていると感じました。最も重要な住民の生命にも関わる部分ですので、今後も効率化のみに囚われず進めていただければと思います。</p> <p>○老朽管等の更新は前倒しで取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>○老朽管の更新などの設備運用の取組に加えて、需要に合わせたシステム設計もなされ、上質な水道水の提供へとつながっており、諸取組を高く評価いたします。</p> <p>○水道水の安定供給と経営基盤の安定化をバランスよく取り組まれていると思います。</p> <p>○水道管の更新は安全性からも大変な事業だと思います。基本理念の下、事業展開を継続してください。</p>

4 令和3年度の内部評価
<p>水道は、市民生活や経済活動に欠かせない最も重要なライフラインとして、24時間365日、安心して利用できるよう水道施設の強靱化が必要である。</p> <p>水道水の安定した供給を図るうえで欠かすことができない配水管等については、その規模や経営的課題から、年間1.1kmの更新事業を目標としているが、漏水事故及び災害対策として耐震化率の早期向上を図るため、更新事業に力を注いでいることから、計画目標値を大きく超える結果となっている。また水源井戸の更新（新設）箇所数については、2箇所の電源盤を改造したことから令和5年度の目標値に達することができ、停電時においても水源井戸の稼働を可能となったことにより、自然災害に備えることができています。</p> <p>水道施設は、計画どおりに災害対策が推進されており、重点プロジェクトに掲げられた「強靱なまちづくりプロジェクト」中、水道施設の強靱化を図る目標については、順調に進んでいると捉えている。</p> <p>今後も、安全で安心な水道水の安定供給を継続するため、浄水場の耐震工事及び水源井戸の更新並びに水道管路施設の更新事業を継続する。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>水道は生活及び経済活動に欠かすことのできない重要なライフラインと認識しており、水道水の安定した供給や、経営に係る生産性を重視した運営は、事業を展開していく上で重要であると考えていることから、いかなる場面においても安全・安心な水道水の安定した供給を継続するため、施設の適切な維持・管理及び更新に努める。</p> <p>施設の更新については、石綿管更新事業を継続して進めるとともに、老朽管更新事業も本格化することから、更新箇所の優先順位などを含めた新たな計画を策定し、更新事業を進める。</p> <p>また、井戸の更新（新設）については、水道水の配水エリアにおける需要バランス（配水区の見直し）、水質等に配慮しながら、既存井戸の更新に必要な新たな井戸用地の確保も含めた更新計画を検討し、事業を進める。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
政策	33 下水道 - 浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めます -		
主管課	上下水道課	関連課	環境課
目標	快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図る。 また、既存の下水道施設については、維持管理を適切に行いつつ、老朽化した施設の更新を進める。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理 ○都市型浸水被害を防止するため、排水施設の整備を進めるとともに、既存施設についても適切な維持管理やストックマネジメント計画に基づき修繕を行う。 ○県で進める河川の洪水防止のための雨水浸透マス設置事業について、住民説明会の開催などに協力する。 (2) 生活排水処理の促進 ○市街化調整区域での排水処理を促進するため、下水道管の整備区域を拡大するとともに、合併処理浄化槽への転換などの手法を検討する。また、市街化調整区域の整備計画及び受益者負担金の明確化を図るとともに、受益者の理解を得ながら下水道整備を進める。 (3) 下水道事業の経営基盤の強化 ○長期的な財政計画を策定し安定的に事業を進める。		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	雨水浸透施設等の設置	49	50	51	51	52	53	箇所
1	実績値		49	50	52	54	54	54	
	達成率		100.0%	100.0%	102.0%	105.9%	103.8%	101.9%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		計画量を超える豪雨により、なおも浸水被害や道路冠水につながる可能性がある実情を踏まえ、継続して雨水浸透施設等を強化するとともに、既存施設の維持管理に努める。監視カメラや水位計の設置などのソフト対策を充実させデータを収集し内水タイムライン等に活用する。						
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	A	A
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	A	B	A
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・指標1は、ほぼ目標値に届き、浸水対策として一定の効果をあげたものと推察します。評価のところに、課題として記されているとおり、昨今の「想定外」の事態が想定内ともいえる災害状況を考慮すれば、ソフト面も含めたさらなる対策の立案、実施に期待いたします。 ・施策指標としての貯留浸透施設は、平成28年の4 5箇所から5箇所も増設されていますので、達成状況としては問題無いと思いますが、近年の異常気象による集中豪雨や台風による大雨による浸水被害を考えると、さらなる増設が必要だと思えます。さらなる排水設備の整備や既存施設の維持管理や修繕に期待します。 ・災害対策はこれで良いということではないと思えます。いつ何時でも将来に渡って対応していかなければなりません。現行制度の中で対処しえる事業は適切に実行されていると思えます。今後もより一層の努力をお願いします。 ・天候のような想定外の突発的な事象に対応しなければならないものの、概ね順調に進捗しているものと評価しました。

4 令和3年度の内部評価
<p>近年の異常気象による集中豪雨や、大型化する台風に伴う大雨により、本市においても住家への浸水や道路冠水などの都市型浸水被害が発生していることから、浸水被害の軽減を図るため、雨水流出抑制に効果的な地域に調整池等の整備、及び雨水貯留浸透施設の設置を積極的に進めている。</p> <p>整備事業の推進により、浸水被害については一定の軽減が図られていると認識しているが、降雨量は想定量を大きく上回ることもあり、浸水被害を完全に防止することは難しい状況である。また、経年により老朽化した施設や汚泥等が堆積した施設もあることから、適切な維持管理についても求められている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、将来構想の重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」による“市民が安心して暮らせる環境をつくる”ため、既存施設の適切な維持管理を徹底するとともに、雨水貯留浸透施設の設置に取り組むことにより、確保する雨水貯留量の増加を図っている。なお、雨水貯留浸透施設については、積極的な設置に注力していることから、その設置実績は将来構想の目標値を上回るものである。</p> <p>令和4年度以降については、既存の雨水貯留施設の設置効果を検証しながら、川崎及び元福岡地区の浸水被害の軽減を図るため、川崎地区において調整池整備事業を進めるなど、各種財政支援制度を積極的に活用してハード対策を継続しつつ、雨水監視体制等のソフト対策についても充実を図るとともに、国、県及び近隣自治体との連携による都市型浸水被害対策を推進する。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>近年の異常気象に起因する集中豪雨等により発生する浸水被害規模は、想定する範囲を超えている。雨水対策については、雨水浸透施設等の計画を前倒して設置することにより、当初予定していた目標値を上回る結果となり、一定の効果を上げていることから、今後は施設の適切な維持・管理を行う。なお、未だ被害が解消されていない地域もあることから、川崎地区内に調整池整備及びポンプ施設の設置を計画している。</p> <p>また、計画量を超過する降雨については、ハード対策だけでは限界があり、安全に避難ができるよう内水タイムラインとの連携を図る。汚水についてはアンケート結果から全域公共下水道整備で事業を進めている。未整備の市街化調整区域において、公共下水道の整備区域を拡大し、快適な生活環境を目指す。</p> <p>こうした事業を展開するにあたり、経営の長期的な戦略を立て、各種財政支援制度を積極的に活用しながら、安定した運営を進める。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	08 防災・防犯 ～災害に強く犯罪のないまち～		
政策	34 防災 – 危機管理体制の整備と災害に強いまちづくりを進めます –		
主管課	危機管理防災課	関連課	情報・統計課、資産管理課、市民総合窓口課、福祉課、障がい福祉課、高齢福祉課、保健センター、建築課、道路課、上下水道課
目標	様々な危機に対応した危機管理体制を強化し、危機対応力を向上します。また、自助、共助の重要性について啓発し、地域とともに災害に強いまちづくりを推進します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 防災対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害時をより想定した防災訓練の実施やハザードマップ等による啓発、災害情報の伝達手段の拡充などを通じて、災害発生時における自助・共助の意識高揚を図ります。 ○自主防災組織への資機材整備など、地域の自主的・主体的な防災活動を支援します。 ○災害時の要配慮者について、地域を中心に「誰が誰を」避難させるかなどの個別計画づくりを促します。 ○災害などあらゆる危機の局面に対応できるよう危機管理体制の強化を図ります。 ○災害発生時には業務継続計画に基づき、迅速に対応することにより、行政機能を継続します。 <p>(2) 消防・救急・救助体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の消防団員の確保及び消防施設の充実を図ります。 ○救急救命士や救急隊員の増員と育成に取り組めます。 		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	自主防災組織率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%
1	実績値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	%
	達成率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		自主防災組織の組織率は高い水準を維持できているが、構成員の高齢化や新規加入者の伸び悩みなど、地域コミュニティの希薄化による影響があり、組織の持続性をどのように担保していくかが課題となっている。また、地域防災組織への女性の参加率の向上が課題となっている。						
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	消防団員数	113	115	117	119	121	123	人
2	実績値		100	101	112	113	116	120	
	達成率		88.5%	87.8%	95.7%	95.0%	95.9%	97.6%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点		ふじみ野市消防団の定員は消防組織法に基づき、消防団条例により135名と規定されているが、定員割れの状態が続いている。前期計画期間中に、団員数の確保のために、令和元年に機能別団員を発足、令和4年中に団員の処遇改善策として出勤報酬の引き上げ見直しを検討しており、消防団員数は着実に増加しているが、定員数の充足は難しい状況である。						
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	A	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	A
	外部評価結果	—	A	—	—
施策の効果	内部評価結果	A	A	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—

評価項目の説明	【指標の達成状況】 【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。 【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。 【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。
	【行政資源の活用】 【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。 【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。 【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。
	【取組の有効性】 【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。 【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。 【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。
	【施策の効果】 【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。 【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。 【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋

【令和2年度ふじみ野市行政評価外部評価委員会報告（令和元年度実施施策）】

- ・団員の高齢化が進む中で指標の妥当性には課題が残るものの概ね順調に進んでいるものと判断します。
- ・危機対応力を高めるために防災組織の点検などのPDCAへの取組をお願いします。
- ・負担金（常備消防分）事業の指標について、有効性の評価ができるよう今後見直しをご検討いただけますようお願いいたします。
- ・「大きな効果」を地域全体へさらに広げてください。
- ・実際に災害等が発生した時でなければ努力の成果を確認できないという皮肉な構造ではありますが、できうる限りの努力をされている姿勢を評価したいと思います。
- ・自主防災組織に対する指導や取組みについて、活動が確実にできるよう細やかな配慮をしていただきたいと思います。

4 令和3年度の内部評価

自助・共助の観点から、住民自身が「災害から身を守る意識の向上」に向け、地域防災の要となる自主防災組織率100%を維持し、自主防災組織の参加による防災訓練を実施するとともに、資機材整備などの様々な活動に対する支援及び地域における防災講話等を実施することで、地域防災力の向上に繋がった。

また、令和3年度は、新規に1地区で地区防災計画の策定が行われ、地域の防災活動が活発になりつつある。今後も、引き続き地域防災力の向上を目指し、活動支援を行っていく。

さらに、地震及び洪水ハザードマップの多言語化により、外国籍市民に対する防災啓発の向上が図られた。

非常備消防の中核をなす消防団員の増員を図るため、市として勧誘活動等を実施しており、116名（昨年度比3名増）に増員したが、消防団員数は目標に達していない状態である。全国的にも減少傾向にある中、引き続き、入間東部地区事務組合をバックアップし、消防団員の増員に努めていく。

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理

施策全般の課題・論点の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年以降、市独自の自主防災組織及び市民（地区対策本部）、拠点協力員、学校・施設職員、市指定職員（地域防災拠点）、行政及び防災機関（災害対策本部）の3層が強固に連携した総合防災訓練を実施している。引き続き、自助、共助を中心に据え、公助が一体となった地域防災力の強化を推進していく。また、ハザードマップについても令和3年度に外国語版をウェブで公開するなど、随時更新し、市民の防災意識の向上を図っていく。 ・自主防災組織率については継続的に100%を維持できているが、今後も維持していくことが必要となる。資機材等の補助制度については資機材の充実が図られてきているため、品目の見直しを図るとともに、地区防災計画作成を促進していく。 ・令和3年度の災害対策基本法の改正により、避難行動要支援者の個別避難計画の作成が努力義務とされた。地域防災計画の改定に伴う対象者の見直しを踏まえ、後期計画期間中に個別避難計画の作成を福祉部とともに推進していく。 ・災害発生時に備え、業務継続計画を引き続き更新し、行政機能の継続を図る。 ・機能別消防団を創設し、消防団員数は着実に増加しているが、定員数の充足は難しい状況である。今後は処遇改善策について消防本部や構成市町と協議を進めつつ、団員の確保に向けた啓発を推進していく。
---------------	---

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	08 防災・防犯 ～災害に強く犯罪のないまち～		
政策	35 防犯 – 防犯体制を強化し、犯罪のないまちづくりを目指します–		
主管課	危機管理防災課	関連課	広報広聴課、協働推進課、高齢福祉課、建築課、学校教育課
目標	犯罪のない安全で安心なまちづくりのために市民一人ひとりの防犯意識の向上を図る。また、関係機関と連携し、地域ぐるみの防犯体制の整備・充実を図り、次世代に継承されていく防犯体制を構築する。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 防犯意識の普及・向上 ○犯罪情勢に応じ自転車利用者や高齢者など、適時・適切な防犯啓発活動を実施する。 ○不審者に対する児童への防犯教育を行い、防犯意識向上を図る。 ○重大犯罪発生時における、迅速・的確な情報発信を実施する。 (2) 防犯体制の整備・充実 ○自主防犯団体の活性化を図ることにより、地域ぐるみの防犯体制の確立を目指す。 ○関係機関・団体による児童の見守り強化を支援する。 ○関係機関と連携し、空き家の適正管理と利活用の体制づくりを行う。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	目標値								
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	目標値									
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	目標値									
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	刑法犯総数 ※減少を目指す指標です。	目標値	910	900	891	882	872	860	件
			実績値	935	744	651	650	640	630	
			達成率	97.3%	121.0%	136.9%	135.7%	136.3%	136.5%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点		各種防犯対策の取組み状況を図る上で、本指標は引き続き必要であるが、近年はコロナ禍による外出自粛等が刑法犯件数に影響していると考えられ、後期基本計画策定における目標値の設定が課題である。								
2	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	目標値		402	399	397	395	393	390	件	
実績値		356	290	222	178	175	172			
達成率		112.9%	137.6%	178.8%	221.9%	224.6%	226.7%	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点		各種防犯対策の取組み状況を図る上で、本指標は引き続き必要であるが、近年はコロナ禍による外出自粛等が街頭犯罪件数に影響していると考えられ、後期基本計画策定における目標値の設定が課題である。								
3	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	自主防犯団体数	目標値	65	66	67	68	69	70	団体	
		実績値	74	75	77	77	78	79		
達成率		113.8%	113.6%	114.9%	113.2%	113.0%	112.9%	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点		市民の防犯活動力として、埼玉県警察が把握している5人以上で月1回以上活動している自主防犯団体数を指標としているが、本市におけるふじみ野市防犯推進会議加盟団体の拡充や各種市民による防犯活動を指標とすることへの見直しを検討することが必要と考える。								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>			

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>令和3年度は、自転車盗などの街頭犯罪件数が減少し、刑法犯総数は前年比1件の減少となった。</p> <p>このことについて、市民に向けた防犯情報の発信、自主防犯団体の拡充等による地域の防犯活動の活性化及び各種講習会等による防犯啓発活動の効果が認められる。</p> <p>振り込み詐欺被害が増加傾向であることから、今後も振り込み詐欺を含む犯罪を減少させ、治安の維持・向上を図るために、より一層の防犯意識の向上を図るため、市民に対するタイムリーな情報発信と地域の防犯活動が必要不可欠である。</p> <p>そのため、行政・市民・事業所等との連携を強め、防犯活動の強化を図るほか、振り込み詐欺対策機器の普及啓発やふじみ野市防犯推進会議登録団体の拡充により、さらなる防犯体制の拡充を実施していく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>犯罪のない安全で安心なまちづくりのため次の取組を実施してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り込み詐欺対策機器の普及促進を図るため、対策機器購入費に係る補助の実施や各種防犯講習会、防犯講話、防犯キャンペーンなどの防犯啓発活動を実施。 ・声かけ事案に対する防犯教育を行うため、市内幼稚園での親子防犯教室を実施。 ・防犯メール、防災行政無線、青色防犯パトロールにより、迅速かつ適格な犯罪及び防犯に関する情報発信。 ・防犯体制の整備・充実に向け、市内の各事業所等に対してふじみ野市防犯推進会議の加盟促進を行い、自主防犯団体が拡充。 ・児童の見守り強化に向け、校区内防犯会議を実施し、教育委員会・学校・PTA・警察・各自治組織と情報共有及び連携。 <p>これら取組を実施する中において、市内における刑法犯総数及び街頭犯罪件数は減少傾向にあるが、振り込み詐欺被害は増加傾向にあるなど、未だ予断を許さないことから、犯罪のない安全で安心なまちづくりのために本施策の取組を拡充していくとともに、本施策を推進する上で、防犯体制を強化する必要性から、本市には、ふじみ野市防犯推進会議が設置されていることを踏まえ、本会議加盟団体の拡充を指標とすることや、各種市民による青色防犯パトロールやわんわんパトロール、ウォーキングパトロールなどの活動を指標とすることを検討し、更なる防犯体制の強化を図ることを後期基本計画の策定に盛り込み評価を行っていく必要があると考える。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
政策	36 教育環境－絆を深め、地域社会との協働による「共育」を推進します－		
主管課	学校教育課	関連課	協働推進課、教育総務課、社会教育課
目標	地域の实情に応じて「地域協働学校」を推進します。また、地域の豊かで多様な人材が、学校と地域を結ぶ仕組みを充実させ、学校・家庭・地域との連携・協働による教育（共育）の充実を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 地域との連携による教育力の向上 ○学校評価を充実させ、保護者や地域の意向を的確に反映した学校運営を支える体制を構築します。 ○地域の教育力を活用し、保護者や近隣大学生など地域の人材による小中学校の学習支援ボランティアを充実させます。 ○保護者、地域住民の授業や行事への参画、参加を企画し、学校を核とした地域コミュニティの活性化を図ります。 ○学校応援団の発展・充実を図ることで地域協働学校を推進し、地域との連携を強化した教育を推進します。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	地域協働学校指定校	目標値	2	2	4	4	6	6
実績値				2	14	19	19	19	19	
達成率				100.0%	700.0%	475.0%	475.0%	316.7%	316.7%	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点			令和2年度に小中学校全校に学校運営協議会を設置したことにより、目標を達成している。新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、学校運営協議会と地域学校協働活動の両輪で、引き続き地域協働学校を推進していく。							
2		指標名	目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		指標名	目標値							
			実績値					-	-	
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	学校評価（地域協働学校への満足度）	目標値	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0	80.0	%
			実績値	95.2	96.9	90.1	93.5	90.0	90.0	
			達成率	132.2%	130.9%	118.6%	119.9%	112.5%	112.5%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、可能な限り、学校運営協議会と地域学校協働活動を推進していくことで、地域協働学校への満足度を高めていく。							
	2	指標名	目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	指標名	目標値							
			実績値					-	-	
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
行政資源の活用	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	A	-
取組の有効性	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	B	-
施策の効果	内部評価結果	A	A	A	A
	外部評価結果	A	-	B	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携も図られており、引き続き推進をお願いしたい。 ・地域協働学校のそれぞれが地域のありよう、何が行事で行われているか、そこにどう参加していくか、地域の伝統・文化を知り、共有できる方向に向かっていく、そんな思いも感じ取れる。 ・学校ごとに進め方や効果が異なる部分や一層の促進のためにも効果的な方法が有用であることから、好事例及び失敗事例、課題なども実態として学校間・地域間でも共用できる仕組みを作る、強化することが重要ではないか。 ・指標達成に対しては評価できるが、地域協働学校に指定したあとの具体的な取組、問題・課題と学校教育課としての対策案を示していただくと更に良い評価理解につながると考える。

4 令和3年度の内部評価
<p>学校、家庭、地域、市長部局と連携し、「地域とともにある学校づくり」を協働して推進している。</p> <p>令和4年度に向け、地域とともにある学校づくりをさらに推進するために、各学校の学校運営協議会に積極的に参加し、協議会の充実を目指す。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>令和2年度に小中学校全校に学校運営協議会を設置したことにより、活動指標の目標を達成している。今後は、地域協働学校での好事例となる取組みや課題等について学校間、地域間で共有、課題解決に向けた支援を図りながら、学校評価（地域協働学校への満足度）の向上を図っていく必要がある。そのため、学校運営協議会の連絡・調整を担うCSディレクターの積極的な活用を図り、学校間の連携や中学校区における小中連携に取り組むなど、成果や課題を共有しながら、学校・地域の実態に応じた連携・協働体制を構築する。また、各学校で実施した学校評価を基にして、各学校の実態、成果と課題等を把握するとともに、その結果や改善点、教育委員会としての取組等について、周知していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート【前期重点プロジェクト】

分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
政策	37 小中学校 –確かな学力と自立する力を育成します–		
主管課	学校教育課	関連課	教育総務課、学校給食課
目標	小中連携を推進し、児童生徒の交流機会の創出や体験活動などを通して、他人を思いやる心や規範意識、コミュニケーション能力を向上させるとともに、一人ひとりに向き合ったきめ細やかな指導を充実します。また、施設の充実や教員の資質と指導力の向上を図り、児童生徒の学習意欲を高めます。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 教育力の向上 ○小中連携協議会を定期的に行い、発達段階に応じた教育活動を推進します。 ○ICTなどを活用した「わかる授業」を展開し、学ぶ意欲と確かな学力を育む教育を推進します。また、外国語活動及び英語の授業を通してコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解教育の推進を図ります。 ○栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を目指し、献立などの工夫、改善に努めるとともに、食育を通して健全な心身を育みます。 ○各種研修や学校訪問による専門的な指導助言を実施することで教員の資質と指導力の向上を図ります。 (2) 相談体制の充実 ○一人ひとりに向き合った進路・教育の相談指導の充実を図ります。 (3) 施設環境の充実 ○学びの環境整備として校舎の大規模改造工事を実施します。また、必要に応じて教育の施設及び設備の充実を図ります。		

1 施策指標と達成状況

活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	目標値								
	実績値						-	-		
	達成率						-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「学校に行くのが楽しい」と答えた児童生徒数の割合（小学校6年生・中学校3年生）	目標値	87・82	88・83	89・84	90・85	91・86	92・87	%
			実績値	実施なし	83.40	実施なし	79.99	83	85	
			達成率	-	94.8%	-	88.9%	-	-	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症による臨時休業等により、全国的に数値が低くなっていることが懸念されている。3密を防ぎながら、協働的な学びを实践することで、友達との関わることの良さを認識させる。また、教職員の授業力を向上させることで、「学ぶ喜び」「わかる喜び」を味わわせ、学校に行くのが楽しいと答える児童生徒の割合を増加させる。								
	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	2	埼玉県学力学習状況調査（学力が伸びた児童生徒数の割合）小学校6年国語	目標値	67.5	68.0	68.5	69.0	69.5	70.0	%
			実績値	65.7	76.1	89.2	72.8	80.0	83.0	
			達成率	97.3%	111.9%	130.2%	105.5%	115.1%	118.6%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	児童一人一人に整備したタブレット端末を有効的に活用することにより、個別最適化された学びと協働的な学びを実現する。また、教職員の研修を充実させることで、授業力をされに身に付けさせ、児童生徒の学力向上を図る。								
	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	3	埼玉県学力学習状況調査（学力が伸びた児童生徒数の割合）小学校6年算数	目標値	66.50	67.00	67.50	68.00	68.50	69.00	%
			実績値	70.68	76.40	59.36	84.17	80.00	83.00	
			達成率	106.3%	114.0%	87.9%	123.8%	116.8%	120.3%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	児童生徒一人一人に整備したタブレット端末を有効的に活用することにより、個別最適化された学びと協働的な学びを実現する。また、教職員の研修を充実させることで、授業力をされに身に付けさせ、児童生徒の学力向上を図る。								
指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
4	埼玉県学力学習状況調査（学力が伸びた児童生徒数の割合）中学校3年国語	目標値	60.50	61.00	61.50	62.00	62.50	63.00	%	
		実績値	68.80	65.00	74.53	72.93	80.00	83.00		
		達成率	113.7%	106.6%	121.2%	117.6%	128.0%	131.7%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点	児童生徒一人一人に整備したタブレット端末を有効的に活用することにより、個別最適化された学びと協働的な学びを実現する。また、教職員の研修を充実させることで、授業力をされに身に付けさせ、児童生徒の学力向上を図る。									
指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
5	埼玉県学力学習状況調査（学力が伸びた児童生徒数の割合）中学校3年数学	目標値	83.50	84.00	84.50	85.00	85.50	86.00	%	
		実績値	69.80	70.40	68.42	68.92	80.00	83.00		
		達成率	83.6%	83.8%	81.0%	81.1%	93.6%	96.5%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点	児童生徒一人一人に整備したタブレット端末を有効的に活用することにより、個別最適化された学びと協働的な学びを実現する。また、教職員の研修を充実させることで、授業力をされに身に付けさせ、児童生徒の学力向上を図る。									

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	—	B	—	—
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・各事業とも概ね順調に推移しており、引き続き学力向上のため現在の施策を継続してほしい。 ・本市の教育力の向上に向けて取組みをさらに着実に伸ばしていただけることを期待しています。 ・学校に行くのが楽しくなる児童及び生徒が増えるよう期待します。教員の負担軽減への取組みもお願いします。 ・数値として表れるテストの点数も大切ですが、情操教育が取り残されていないか気になります。

4 令和3年度の内部評価
<p>全国学力・学習状況調査並びに県学力・学習状況調査の結果活用、各種研究委員会や研修会の実施により、「わかる授業」に向けて教員の指導力向上を図った。今後も教員の資質向上に向けて取組を継続する。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>成果指標として設定している埼玉県学力学習状況調査（学力が伸びた児童生徒数の割合）については、数値目標の達成が見込まれているが、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙「学校に行くのが楽しい」と答えた児童生徒数の割合の指標については、新型コロナウイルス感染症の影響等により下振れされることが懸念される。今後については、児童生徒が心豊かで健やかに成長できるよう、学習規律や生活習慣の向上について、道徳教育等、学校の教育活動全体を通じて、情操教育の充実に努めるとともに、「わかった」「できた」という達成感を児童生徒が感じることや、豊かな人間関係を通じて楽しい学校生活を送れるよう各学校を指導していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
政策	38 社会教育 - 温もりある人と地域を育む学びを推進します -		
主管課	社会教育課	関連課	子育て支援課
目標	社会教育施設は、市民の学習活動の拠点として市民の学びを支え、地域のコミュニティ形成、学習機会の充実を図ります。放課後の子どもたちの安全と安心な居場所づくりに向けて、放課後子ども事業の活動を充実します。		
施策目標の実現に向けた取組	(1) 社会教育活動の支援 ○地域の課題などを解決するための学習支援や学習の場を提供します。 ○市民の自主的な文化活動の発表の場、交流の場としての各種事業の充実を図ります。 ○生涯学習を推進するため、地域の課題の講座などを開催し、地域に還元できる仕組みを支援します。 ○社会教育関係団体の支援・育成を推進します。 (2) 放課後子ども事業の充実 ○放課後子ども総合プランに基づき、地域の協力の下、放課後児童クラブとの連携を進めます。		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	1	図書貸出人数	目標値	243,000	246,000	249,000	252,000	255,000	258,000	人
実績値			229,628	214,973	171,464	190,479	215,000	173,500		
達成率			94.5%	87.4%	68.9%	75.6%	84.3%	67.2%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点		R4年度はR2、R3年度の落ち込んだ貸出人数をR1年度の実績迄回復させる。図書館イベントを通年で通常開催し貸出人数の回復を図る。R5年度は大井図書館が西文化施設に移動することに伴った休館期間があり貸出人数の減少が見込まれる。								
2		公民館利用者数	目標値	282,400	285,800	289,300	292,900	296,400	300,000	人
			実績値	275,102	253,639	66,325	77,866	78,000	35,000	
	達成率		97.4%	88.7%	22.9%	26.6%	26.3%	11.7%	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点	西文化施設の開館を令和5年度に控える中で、公民館事業の取り組みを効果的な内容へと発展させる見直しを進めるとともに、事業実施計画を整備していく必要がある。									
3	資料館入館者数	目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	人	
		実績値	16,287	14,963	12,673	21,314	16,500	9,100		
		達成率	90.5%	83.1%	70.4%	118.4%	91.7%	50.6%		%
指標における課題・後期基本計画策定における論点	令和5年度の途中から、大井郷土資料館の移転にともない展示スペースを集約・再編成することになるため、入館者の減少が見込まれる。									
成果指標	1		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	2		目標値							
			実績値					-	-	
			達成率					-	-	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	3		目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価					
内部評価と外部評価結果		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	-	B	-
行政資源の活用	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	-	B	-
取組の有効性	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	A	-	B	-
施策の効果	内部評価結果	B	B	B	B
	外部評価結果	B	-	B	-
評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>				

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の休館もある中、工夫されたイベントを行い、概ね効果が得られているものと評価する。 ・必ずしも設定した目標にこだわることなく、現状を踏まえて適宜、取組をチェックしつつ、取り組んでいただきたいと思います。 ・パンデミックの影響で活動が大きく制約を受ける中、オンラインによる情報提供や交流など新しいスタイルの導入を推し進めるとともに、事業ごとの連携や集約を進めることで、活動の効果的実施、強化などにも注力することが重要と考えます。 ・新型コロナの拡大で目標達成が難しくなったように思われますが、新たな取組で達成を目指してください。 ・コロナの影響を考えると、今年度の指標到達度をどう見るかは難しいところです。ポストコロナの施策運営のあり方を考え、工夫することで、新しい前進の可能性もあるかもしれません。 ・withコロナに対応した新たな形態で、資料館の在り方を検討し、導入される必要があると思います。

4 令和3年度の内部評価
<p>社会教育活動の支援について、コロナ禍による市民の学びの場の確保、学習機会の提供方法等が新たな課題となっている。今年度は昨年度に続き市民文化祭事業の中止が決定する中、令和4年度の開催を見据えた運営委員会を継続開催し、市民の文化活動の発表の場や多様な文化交流の場の提供が途切れることのないよう、市民活動の土台づくりとなる支援を行った。</p> <p>また、市民の学習ニーズや課題解決等を支援するため、ボランティア講座の開催、体験活動の機会提供を行なった。</p> <p>実施している個々の事業は学びを通じたひとづくりなどその成果をすぐに評価することは難しいものが多いが、誰もがいつでもどこでも学ぶことが出来るよう、さらに社会教育の推進、充実を図っていく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>社会教育施設主催の講座や体験学習の開催、利用団体の協力による動画配信等に取り組み、学びの機会を創出してきたが、「学びの好循環」による地域のつながり、生きがいづくり、地域課題解決につなげていくことが課題となっている。また、社会教育施設内の実施にとどまらない事業展開の検討が課題となっている。そのため、学びを生かす地域の受け皿としての地域学校協働活動を推進し、学校を核としたまちづくりを進めていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
政策	39 文化財・郷土資料 – 歴史文化の継承と文化財の活用を進めます –		
主管課	社会教育課	関連課	学校教育課
目標	地域の歴史・文化に多くの市民が興味や関心を持ち、歴史文化の継承がされるよう文化振興と文化財の有効活用を図ります。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 文化資源の保護と活用</p> <p>○市民の歴史や文化に対する意識の高揚を図るとともに、市民や関連団体との協働により更なる歴史文化の継承と文化活動を推進します。</p> <p>○地域の歴史を知る上で重要な文化財の調査及び記録保存を行い、展示や報告書の刊行、学習講座の実施などを通じてそれらの成果を発信します。</p> <p>○小中学校と連携し、文化財資料を活用した地域学習を推進します。</p> <p>○お囃子などの地域の無形民俗文化財の継承のため、保存会の活動を支援します。</p> <p>○市内にある有形文化財等、地域の文化資源を社会教育や観光などで有効活用を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況

指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
活動指標	1 歴史文化に係る学習講座への参加人数	目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	人
		実績値	1,221	1,967	1,313	1,574	1,500	1,500	
		達成率	71.8%	115.7%	77.2%	92.6%	88.2%	88.2%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	市民の学習要望に応えるために、地域の歴史、民俗、考古など文化財に関する講座、講演会、福岡河岸記念館を活用した伝統芸能に触れる機会の提供を行ってきた。今後は地域学校協働本部と連携し、学校教育、地域活動、福祉活動など市民ボランティアの育成につながる講座を行っていく必要がある。							
	2 展示への来場者数	目標値	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	人
		実績値	7,082	6,581	9,253	12,314	11,000	7,500	
		達成率	89.6%	83.3%	117.1%	155.9%	139.2%	94.9%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	従来の資料館展示のみならず、福岡河岸記念館や旧大井村役場、西文化施設や商業施設等を展示会場として活用するほか、デジタルアーカイブによる資料紹介も重要になってくるので、来場者数だけを指標とすることに再考が必要。							
	3	目標値							
		実績値					-	-	
達成率						-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	目標値							
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	2	目標値							
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	目標値							
		実績値					-	-	
達成率						-	-	%	
指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	A
行政資源の活用	B	B	B	B
取組の有効性	B	B	B	B
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>文化資料の有効な活用を図る目的で、平成29年度の改修工事で構造強化を行った福岡河岸記念館の三階建て離れや旧大井村役場を利用した体験学習、コンサート、古典芸能の公演を行った。</p> <p>また、学校の教室を利用した展示室を開設するにあたり、資料館の収蔵品である地域の民具や土器を有効活用した体験学習ができるように設置した。これらの活動は学校、保護者、子どもたち、参加したボランティアからの評価も好評で、継続して有効活用を図っていきたい。</p> <p>また、市民ボランティアの協力を得てこれらの展示室開設準備や、福岡河岸記念館の特別公開を行うことができたことから、今後も文化財に対する市民の理解者を増やし、ボランティアの拡充を進めていきたい。</p> <p>平成31年4月1日施行の文化財保護法の改正では、地域の文化資源の保存と活用の推進がうたわれているので、引き続き文化資源の有効活用を推進していく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>地域学校協働本部の設立に伴い、学校を核とした地域住民と学校の連携がより増してくる。市域全般の歴史・文化を学ぶと同時に、地域に密着した歴史・文化の掘り起こしを行う事で、地域への愛着、次世代への文化の継承が育まれる。</p> <p>例えば、民具や農具を利活用した展示場で、昔語りや使い方を語る機会を作り、次世代への文化の継承を図る、子どもや障がい者の経験機会を増やすため、土器や民具等さわって体感できる資料展示や昔遊びのできるスペースを設けていく、など、既存施設の活用を含めた資料館全般のあり方を考えていく必要がある。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	10 情報発信と的確な市民ニーズの把握		
政策	40 情報発信・収集		
主管課	広報広聴課	関連課	契約・法務課
目標	市民が必要とする情報を様々な媒体を活用して迅速かつ的確に発信するとともに、市民の声を市政に反映するよう、市民の声を聴く機会を充実させます。また、本市の魅力を戦略的に発信し、定住人口や交流人口を増やします。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 迅速かつ的確な情報発信の推進</p> <p>○広報紙や公式ホームページ、モバイルサイト、SNS、メール配信サービスを通して市政情報や地域の情報を積極的に発信します。</p> <p>○本市が保有するデータをオープンデータとして積極的に提供します。</p> <p>(2) 市民の声を市政に反映する機会の充実</p> <p>○市政への提案やパブリックコメント、市長と語るふれあい座談会、タウンミーティングなど広聴業務をさらに充実させ、より多くの市民ニーズを把握し、市政への反映を行います。</p> <p>(3) シティプロモーションの推進</p> <p>○マスメディアへの積極的な情報提供とともにふるさと納税や様々な広報媒体、イベントを活用して本市の魅力を市内外に発信します。発信に当たっては、市民や各種団体、民間と協力しながら戦略的に推進します。</p>		

1 施策指標と達成状況

	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
									目標値	実績値
活動指標	1 ホームページアクセス件数	目標値	2,425,000	2,425,000	2,430,000	2,430,000	2,435,000	2,435,000	件	
		実績値	3,043,280	3,952,707	6,034,037	6,415,888	3,600,000	3,600,000		
		達成率	125.5%	163.0%	248.3%	264.0%	147.8%	147.8%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、全市民を対象としたワクチン接種や給付金などの施策により、ホームページアクセス数が著しく増加した。今後の感染状況の推移や施策により左右されやすい状況が続くと考えられるが、緊急を要する情報については迅速かつ的確に発信を続けていく。								
	2	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	3	目標値								
		実績値					-	-		
達成率						-	-	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点										
成果指標	1 市政への提案の実現割合	目標値	14.00	15.00	16.00	17.00	19.00	20.00	%	
		実績値	15.06	13.55	32.78	30.82	20.00	20.00		
		達成率	107.6%	90.3%	204.9%	181.3%	105.3%	100.0%	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	市民の皆さんの声を直接聴く制度であるため、いただいた提案をもとに、改善に結びつけられるよう取り組みを続け、市民主体のまちづくりを推進する。								
	2	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
	3	目標値								
		実績値					-	-		
達成率						-	-	%		
指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	A	A	A
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	A	B	A	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>引き続き、市報、ホームページ、モバイルサイト、SNS、メール配信サービス等さまざまな媒体を通して、市政情報や地域の情報発信を行う。ホームページ閲覧者の70%が利用しているスマートフォン、タブレット端末に対応した新CMSを導入したことで、閲覧者の利便性の向上が図られることとなった。</p> <p>また、市民ニーズを把握し、市政へ反映するために、タウンミーティングや市政への提案などの広聴業務を引き続き推進していく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>令和4年度から、マスメディアへの積極的な情報提供をより推進するため、民間の情報配信サービスを利用した情報発信を開始した。これまで市の魅力を発信するために実施してきた、記者クラブ等への媒体への情報提供に加え、情報配信サービスにより、本市の魅力を市内外に発信していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	11 スリムで効率的な行政経営		
政策	41 経営戦略		
主管課	経営戦略室	関連課	契約・法務課
目標	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に捉え、経営資源を効果的に活用した戦略的な行政経営を推進することにより、持続的かつ発展的な市政運営を目指します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 計画の推進</p> <p>○行政評価システムによるPDCAサイクルを確立し、基本計画の進行管理と事務事業の見直しを図ることにより、計画に掲げる取組を着実に推進します。</p> <p>(2) 経営資源の有効活用</p> <p>○様々な行政課題に迅速に対応できるよう、柔軟かつ機能的な組織体制を整えるとともに、限られた財源や財産を効果的に配分又は活用するなど経営資源（人的・物的・金銭的）を最も有効な方法で行政運営に投下していきます。</p> <p>○民間活力の積極的な活用や職員数の適正な管理により、効率的かつ効果的な市民サービスの提供を図ります。</p> <p>(3) 広域連携の推進</p> <p>○関係市町間や県・県関連団体と連携し、広域的な行政課題に効率に対応することにより、市民サービスの向上を図ります。</p> <p>(4) 市政の透明性の確保</p> <p>○積極的に市政情報を公開することにより、市政の透明性を確保します。</p>		

1 施策指標と達成状況											
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	1	目標値									
		実績値					-	-			
		達成率					-	-		%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	2	目標値									
		実績値					-	-			
		達成率					-	-		%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	3	目標値									
		実績値					-	-			
		達成率					-	-		%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点										
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	1	目標を達成した施策の割合	目標値	90.0	90.0	95.0	95.0	100.0	100.0	%	
		実績値	53.0	45.0	39.0	39.0	60.0	80.0			
		達成率	58.9%	50.0%	41.1%	41.1%	60.0%	80.0%			
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		将来構想に掲げるまちの将来像を実現するため、継続して各施策指標の達成状況の進捗管理を図る必要がある。なお、進捗状況の管理については、より効果的な方法を検討していくことが重要である。							
	成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
		2	公共サービス民間活力導入件数	目標値	57	59	62	62	62	64	件
			実績値	57	59	62	63	65	66		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	101.6%	104.8%	103.1%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		指定管理者や窓口業務委託など、民間事業者等のノウハウを活用し、公共施設等の運営を効率的かつ効果的に図る基準となることから、今後も継続して進捗管理を図る必要がある。また、導入による効果についても、事務事業評価等を通じて明確にしておく。							
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位		
	3	目標値									
		実績値					-	-			
		達成率					-	-		%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点										

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	A	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>超高齢社会の到来による社会保障費の増大や老朽化する公共施設への対応、多様化する市民ニーズなど、行政課題に対して、柔軟に対応するためには、効率的で効果的な行政運営をしていくとともに、機能的かつ弾力的な組織づくりを行う必要がある。</p> <p>また、常に担当課からの意見や市場等からの情報取組のため、アンテナを高く張り、あらゆる情報をキャッチし、将来を見据えた判断を踏まえた上で、業務を行う一方、その時々社会情勢に柔軟に対応していく必要もある。</p> <p>あらゆる場面で、適切に「ひと・モノ・カネ」の経営資源を行政サービスに投下するため、最小の経費で最大のサービスを提供するべく、全庁的な施策の方向性を浸透させる。</p> <p>さらに、将来構想 後期基本計画の策定に向けてSDGsの視点による事業の見直しやDXの推進など、新たな行政経営の手法を検討し、持続可能なふじみ野市の実現に向けて、取り組んでいく。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>更なる効率的な行政経営を推進するため、ふじみ野市将来構想後期基本計画策定方針に基づき、SDGsの視点やDXの導入など、より具体性のある取組を推進する必要がある。</p> <p>そのため、施策達成のための指標において、それらの視点を踏まえた進捗管理を図っていく必要があることから、後期基本計画においても、当該施策を継続していく。</p> <p>また、総合戦略においては、後期基本計画と統合することからも、より効果的な施策展開が図られるよう、目標管理システムに基づき組織の目標管理を徹底するとともに、効率的な評価を行っていく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	11 スリムで効率的な行政経営		
政策	42 経営資源（金銭的資源）		
主管課	財政課	関連課	収税課
目標	社会情勢の的確な把握と分析に基づいた財政見通しの下、事務事業の「選択と集中」により、健全で持続可能な財政運営を推進します。また、行政サービスを安定して提供できるよう、市税収入を安定的に確保し、新たな自主財源の創出に努めます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 健全財政の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事務事業の「選択と集中」により、限られた財源の効果的な運用を図ります。 ○新たな公会計制度の財務諸表を活用し、財政状況をわかりやすく情報提供し、市民に信頼される財政運営を行います。 ○国・県をはじめとした補助金の獲得に努めるとともに、有利な地方債の活用を図ります。 ○将来の行政需要を見通し、計画的に基金を積み立て、活用します。 ○公金の運用は、金融情勢をしっかりと把握し、安全性と流動性を確保した上で、効率的かつ有利な資金運用を図ります。 <p>(2) 自主財源の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市税の適正かつ公正な課税を行うとともに、納税者意識の高揚を図るため、市民にわかりやすく課税情報を提供します。 ○市税の収納率を向上させ、市債権を適正に管理するため、徴収体制の強化を図ります。 ○広告料収入の拡大など、新たな自主財源の確保に努めます。 ○使用料、手数料などの受益者負担の適正化を図ります。 		

1 施策指標と達成状況									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	1	目標値							
実績値							-	-	
達成率							-	-	%
指標における課題・後期基本計画策定における論点									
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
2	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	経常収支比率	95.5	93.9	93.6	94.2	93.5	92.8	%
1	実績値	※減少を目指す指標です。	96.8	96.7	95.8	7月確定	95.2	94.8	%
	達成率		98.7%	97.1%	97.7%	-	98.2%	97.9%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	市財政の弾力性を示す指標であり、健全化判断比率と比較して早期に数値として表れるため継続して必要と考える。しかし、本市においては、今まで建設事業の財源として合併特例債など有利な地方債を活用して行ってきたこともあり、地方債残高が他の自治体と比較して多い状況であることや、令和3年度から始まった文化施設整備事業の財源が概ね交付税算入のない地方債により実施するため、これらの地方債の償還が終了するまでは義務的経費である公債費の上昇に伴って経常収支比率が高い数値で推移することとなると考えられる。							
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値	市税の収納率	96.17	96.49	96.74	96.92	97.11	97.3	%
2	実績値		96.95	97.94	98.67	7月確定	99.07	99.17	%
	達成率		100.8%	101.5%	102.0%	-	102.0%	101.9%	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点	行政運営においては適切な経営資源の投下が必要であり、（税負担の公平性の観点から）市税収入を安定的に確保する指標となることから、今後も納期内納付を慫慂し、徴収対策を強化し事案を年度内に完結させることで、次年度に繰り越す事案の発生を抑制し、収納率を維持していくことが重要である。							
成果指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
	目標値								
3	実績値						-	-	
	達成率						-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	B	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>合併の恩恵である地方交付税の算定替による上乗せ分が令和2年度をもって終了した。また、地方債の残高は、合併特例債の活用等により令和3年度末現在で約370億円になっており、引き続き高い値となっている。</p> <p>さらに、既存公共施設の老朽化は進んでおり、計画的な修繕、更新等を行っていく必要がある。</p> <p>これらの課題に対応するため目標額を設定し基金を積み立てており、基金の令和3年度末現在高（納付整理期間中の積立金を含む。）は、約180億円となっている。</p> <p>将来構想の実現に向け、健全で持続可能な財政運営を推進していくため、社会情勢的確な把握に努め、財務書類や経常収支比率、将来負担比率などの指標を活用した分析により、財源の効果的な運用や地方債と基金の適切なバランスを継続的に確保していくこと、併せて事務事業の継続的な見直しを行い効果的な支出を行うことが必要である。また、市民に分かりやすい財政状況の公表を継続して推進し、財政運営についての理解を広げる必要がある。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>施策全般の課題・論点の整理</p> <p>市財政のより健全化を図るためには、継続して経常経費の削減を図ることと自主財源の確保に努める必要がある。</p> <p>経常経費の削減については、限られた財源を真に必要な事業に重点配分するため事業の優先順位付けを行い、事業の取捨選択を図る必要がある。</p> <p>自主財源の確保については、引き続き県内でも高水準の市税収納率を確保する必要がある。</p> <p>少子高齢化を背景とする社会保障関連経費の増加や、老朽化する公共施設の維持保全に適切な対応に伴って歳出が増加傾向にあるが、これ以上財政硬直化を進めないよう以上のことを念頭に入れた予算編成を行っていくことが重要である。</p> <p>また、収納率の向上は、市民の行政への信頼の「バロメーター」であり、また、将来構想の実現に向け、健全で持続可能な財政運営ができるよう、財源の確保をするためにも、今後も収納率の維持・向上を目指していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	11 スリムで効率的な行政経営		
政策	43 経営資源（人的資源）		
主管課	人事課	関連課	
目標	社会情勢の変化や市民ニーズの高度化・多様化など迅速かつ確に対応できる職員を育成するとともに、優秀な人材の確保を図り、組織の総合力を高め、市民満足度の一層の向上を目指します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>（１）機能的な組織運営</p> <p>○行政課題の変化に合わせ、職員の能力、適性に応じた適材適所の人事配置を行います。</p> <p>○全ての職員が組織の展望や目標を共有し、使命を明確にすることにより、成果志向型の業務執行体制を確立します。</p> <p>（２）人材の育成及び確保</p> <p>○職員一人ひとりが様々な市民ニーズに対応できる発想力と行動力を備え、市民目線に立った行政運営ができるよう、職員の意識改革と研修の充実に取り組みます。</p> <p>○新たな採用方法を取り入れることにより、優秀な人材の確保に努めます。</p> <p>○仕事と生活の両立を支援する制度の充実など、職員がいきいきと職務を執行できるように環境を整備し、市民満足度の向上につなげていきます。</p>		

1 施策指標と達成状況

	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
									目標値
活動指標	1 専門研修参加希望者数	目標値	52	53	54	55	56	57	人
		実績値	52	45	34	44	49	49	
		達成率	100.0%	84.9%	63.0%	80.0%	87.5%	86.0%	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点	社会情勢の変化や市民ニーズの高度化・多様化など、迅速かつ確に対応できる職員の能力及び育成状況を定量的に判断する基準となることから、今後も継続して進捗管理を図る必要がある。						
	2	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点							
3	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	目標値								
	実績値					-	-		
	達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
成果指標	1	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	%
		指標における課題・後期基本計画策定における論点							
	2	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位
		目標値							
		実績値					-	-	
		達成率					-	-	%
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3	指標名	H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	目標値								
	実績値					-	-		
	達成率					-	-	%	
	指標における課題・後期基本計画策定における論点								

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	A	A	A
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	A	A	A
施策の効果	B	B	B	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>特定雇用主行動計画に基づき、子育て中の職員のみならず、すべての職員が仕事と子育ての両立に関して理解し、助け合っているような職場風土の醸成を目的として、地方公務員法で定める休業制度である修学部分休業、高齢者部分休業、自己啓発等休業、配偶者同行休業について、令和4年度からの運用開始を向け令和3年度中に条例改正等の準備を実施した。</p> <p>引き続き、職員採用や人材育成、福利厚生などを通じて、質の高い人材の育成・採用を進め、市民ニーズに対応できる職員の増加を図ることで市民満足度の向上を目指す。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>令和5年4月1日から職員の定年が2年毎に1歳ずつ引き上げられる（以下「定年引上げ」という。）ことに伴い、定年退職者が隔年で出ない年が発生する。定年引上げに伴い、職員の定数との兼ね合いから60歳超の職員についても定数条例の対象とすること、定年前再任用短時間勤務職員については定数条例の対象とはならないが、常勤職員と区別して別途管理する必要があるなど、特に計画的な管理が必要となる。なお、暫定再任用制度に基づき採用される職員の定数については、これまでの再任用職員の取扱いと同様、常勤は定数の対象、短時間勤務職員は定数外として、常勤職員と区別して別途管理する必要がある。</p> <p>高齢職員の貴重な知識や経験等を市全体で共有し、若手職員等に引き継いでいくことで、より一層住民福祉の向上に努めていくとともに、新規採用職員の採用計画については、職員の年齢バランスが崩れるとその後の行政運営に大きく支障を及ぼすことから、職員定数との兼ね合いを慎重に検討する必要があり、適切な採用を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 前期基本計画 検証シート

分野	11 スリムで効率的な行政経営		
政策	44 経営資源（物的資源）		
主管課	資産管理課	関連課	
目標	公共施設等を計画的に維持管理するとともに、経営資源として積極的に活用し、効率的かつ効果的に市民サービスを提供します。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 公共施設の適正配置の推進</p> <p>○市民ニーズの量と質の変化の動向を把握し、施設の多機能化、複合化を図るなど社会環境の変化に応じた施設の適正配置を進めます。</p> <p>(2) 公共施設等の計画的な管理</p> <p>○公共施設保全計画を策定し、事後保全的な管理から予防保全的な管理へと転換することで施設の長寿命化及び財政負担の平準化を図ります。</p> <p>○常時施設の点検・整備を的確に実施して、各施設の利便性の向上と安全性の確保を図ります。</p>		

1 施策指標と達成状況										
活動指標	指標名		H30	R1	R2	R3	R4見込	R5見込	単位	
	活動指標	1	目標値							
実績値							-	-		
達成率							-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
2		目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
3		目標値								
	実績値					-	-			
	達成率					-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									
成果指標	1	目標値	100	100	100	100	100	100	%	
		実績値	0	0	58.33	83.33	83.33	83.33		
		達成率	0.0%	0.0%	58.3%	83.3%	83.3%	83.3%	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点		用途廃止等により未利用となった施設などについては、引き続き転用による有効活用の検討、又は処分による自主財源確保に努め、適正な資産管理を進める必要がある。						
	2	目標値								
		実績値					-	-		
		達成率					-	-	%	
		指標における課題・後期基本計画策定における論点								
	3	目標値								
実績値						-	-			
達成率						-	-	%		
	指標における課題・後期基本計画策定における論点									

2 評価				
内部評価結果	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
指標の達成状況	A	B	B	B
行政資源の活用	A	A	A	A
取組の有効性	A	B	B	B
施策の効果	C	C	C	B

評価項目の説明	<p>【指標の達成状況】</p> <p>【A】順調：各年度の目標について、順調に推移し、令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【B】おおむね順調：順調でない目標があるが、改善を行うことで令和5年度の目標達成が見込まれる。</p> <p>【C】順調でない：目標の達成状況が芳しくなく、令和5年度の達成に向け、大幅な見直しが必要となる。</p> <p>【行政資源の活用】</p> <p>【A】適切：効率的かつ効果的に「ひと・もの・かね」が活用されている。</p> <p>【B】おおむね適切：「ひと・もの・かね」の活用について一部改善が必要だが、おおむね適切。</p> <p>【C】適切でない：「ひと・もの・かね」の活用について大幅な見直しが必要。</p> <p>【取組の有効性】</p> <p>【A】有効：施策目標の実現に向け、有効な取組となっている。</p> <p>【B】おおむね有効：施策目標の実現に向け、一部改善が必要ではあるが、おおむね有効な取組となっている。</p> <p>【C】有効でない：施策目標の実現に向け、大幅な見直しが必要。</p> <p>【施策の効果】</p> <p>【A】大きな効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果を超える効果が得られている。</p> <p>【B】効果が得られている：将来構想の策定時に想定していた効果が得られている。</p> <p>【C】効果が見られない：将来構想の策定時に想定していた効果が見られない。</p>
---------	--

3 直近の外部評価からの定性的評価意見の抜粋
外部評価対象外

4 令和3年度の内部評価
<p>市役所庁舎周辺整備については、国有地であった上野台公園用地を取得したので、引き続き庁舎整備などを計画的に進めていく。</p> <p>公有財産について、建物は用途廃止となった現有施設を含めた適正管理、土地については未利用地の売却等の財産運営を行うため、全庁的に未利用地の方向性を調整し、必要に応じて有効活用や処分を行い自主財源の確保に努めていく。</p> <p>その中で、令和3年度においては、旧大井学校給食センター、旧ふじみ野市上福岡くらしの会の用途廃止となった公有財産の売却をし、自主財源確保の取組を図った。</p> <p>今後の公共施設の計画的な管理は、国からの要請もあり、各施設毎の個別施設計画を策定していく方針である。</p>

5 後期基本計画の策定に向けた課題・論点の整理
<p>用途廃止等により未利用となる施設は今後も随時発生するため、その都度有効活用をおこなえるか、又は処分をするか判断し適正な資産管理を進める必要がある。</p> <p>公共施設の適切な保全・維持管理を行うことで、長期にわたり安全かつ快適に使用できるように維持するなど長期的な計画をもって維持管理を行うことにより、財政負担を軽減・平準化することが求められている。</p> <p>そのため、今後も指標に基づく進捗管理を行っていく必要があることから、後期基本計画においても、当該施策を継続していく。</p>

ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030
前期基本計画検証結果報告書

令和4年7月発行

事務局 ふじみ野市総合政策部経営戦略室

〒356-8501

埼玉県ふじみ野市福岡 1-1-1

電話 049(261)2611(代表)

E-mail seisaku@city.fujimino.saitama.jp

